



2017年上期の業種別部会長シンポジウム

**SIMPÓSIO DOS PRESIDENTES DOS
DEPARTAMENTOS SETORIAIS**

CÂMARA DE COMÉRCIO E INDÚSTRIA JAPONESA DO BRASIL

HomePage: www.camaradojapao.org.br / E-mail: secretaria@camaradojapao.org.br

前半司会

小池 淳介 総務委員長

APRESENTADOR

**Presidente da Comissão
de Coordenação Geral**

Junsuke Koike

挨拶

松永 愛一郎 会頭

Palavras do Presidente da Câmara:

Aiichiro Matsunaga

金融 部会

大谷 隆明 部会長

Departamento Financeiro

Presidente: Takaaki Otani

2016年の回顧と2017年の展望
～景気回復に向けていま為すべきことは？～

2017年2月23日(木)

2016年の回顧と2017年の展望

- | | |
|-------------|----|
| 1. ブラジル経済動向 | 2 |
| 2. 銀行業界動向 | 16 |
| 3. 保険業界動向 | 20 |

1. ブラジル経済動向

2016年の主なトピックス

ペトロbras社を巡る 汚職捜査の進展

- 3月4日、連邦警察がルーラ元大統領の身柄を一時拘束する事態に発展。
- 11月、オデブレイトグループは連邦検察との司法取引を実施。
- 警察・検察による捜査(“ラヴァ・ジャット作戦”)は、第37ステージまで進展。

Moody's社ソブリン格下げ (2月)

- 米国格付機関のMoody's社は、債務状況悪化や政治的混乱に伴う財政再建の遅れの懸念から、外貨長期格付を「Baa3」から「Ba2」に格下げ実施。
- 主要格付機関3社によるブラジルソブリン格付は、いずれも「投機的水準」に。

	2014年末		2015年末		2016年12月	
S&P	BBB-	安定的	BB+	ネガティブ	BB	ネガティブ
Moody's	Baa2	ネガティブ	Baa3	ネガティブ	Ba2	ネガティブ
Fitch	BBB-	安定的	BB+	ネガティブ	BB	ネガティブ

ルセフ大統領弾劾成立 ／テメル政権発足 (5月－12月)

- 5月12日、上院本会議にて、ルセフ大統領の弾劾裁判開始を可決。弾劾手続きによるルセフ大統領の職務停止に伴い、テメル副大統領が大統領代行に就任。
 - 8月31日、上院本会議にて圧倒的多数でルセフ大統領弾劾成立。同日、テメル氏が正式に大統領に就任。
 - 5月の暫定政権発足以降、12月末までの間に7閣僚が辞任。また、政権支持率は10%まで低下しており、政権を取巻く環境は厳しい状況が継続。
- 10月18日－20日、テメル大統領訪日。伯国大統領の公式訪問は11年ぶり。
- 12月13日、財政改善策の一つである「歳出上限法」が上院にて承認。

リオオリンピック開催 (8月)

- 8月3日～21日にかけて、南米初の夏季オリンピックがリオデジャネイロ市にて開催。
- 準備遅延やジカ熱等の問題が懸念されたものの、特段のアクシデントもなく、成功裡に終了。

主要マクロ経済指標の推移と予測

金融部会

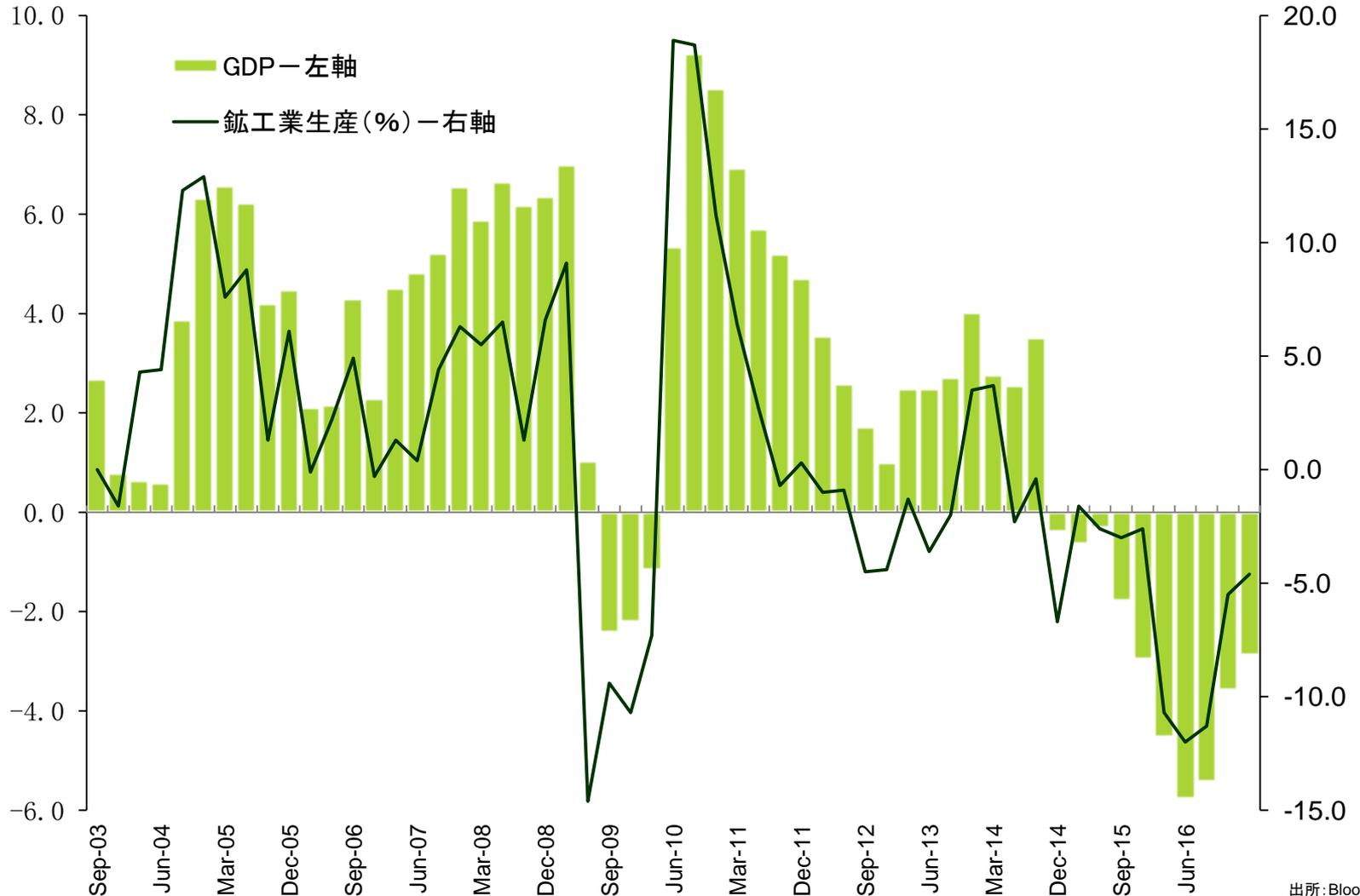
		2012年	2013年	2014年	2015年	2016年 見込み	2017年 予測	備考
GDP成長率(%)		1.9	3.0	0.1	▲3.8	▲3.5	0.5	
名目 GDP	(BRL/10億)	4,806	5,316	5,521	5,904	N.A.	N.A.	
	(USD/10億)	2,459	2,464	2,345	1,769	N.A.	N.A.	
貿易収支(USD/10億)		19.4	2.3	▲4.1	19.7	47.1	47.3	
小売売上動向指数(%)		8.4	4.3	2.2	▲4.3	N.A.	N.A.	
基礎的財政収支(BRL/10億)		105	91	▲33	▲116	▲170	▲139	
株価【BOVESPA】(ポイント)		60,952	51,507	50,007	43,350	60,227	N.A.	2016年確定値
政策金利【Selicレート】(%)		7.25	10.00	11.75	14.25	13.75	9.50	2016年確定値
インフレ率【IPCA】(%)		5.84	5.91	6.41	10.67	6.29	4.43	2016年確定値
為替レート(リアルドル)		2.0516	2.3621	2.6576	3.9608	3.2552	3.30	2016年確定値

出所：ブラジル中央銀行、Focus(2017年2月17日実施)、IBGE、Bloomberg

GDP成長率・鉱工業生産推移(四半期ベース)

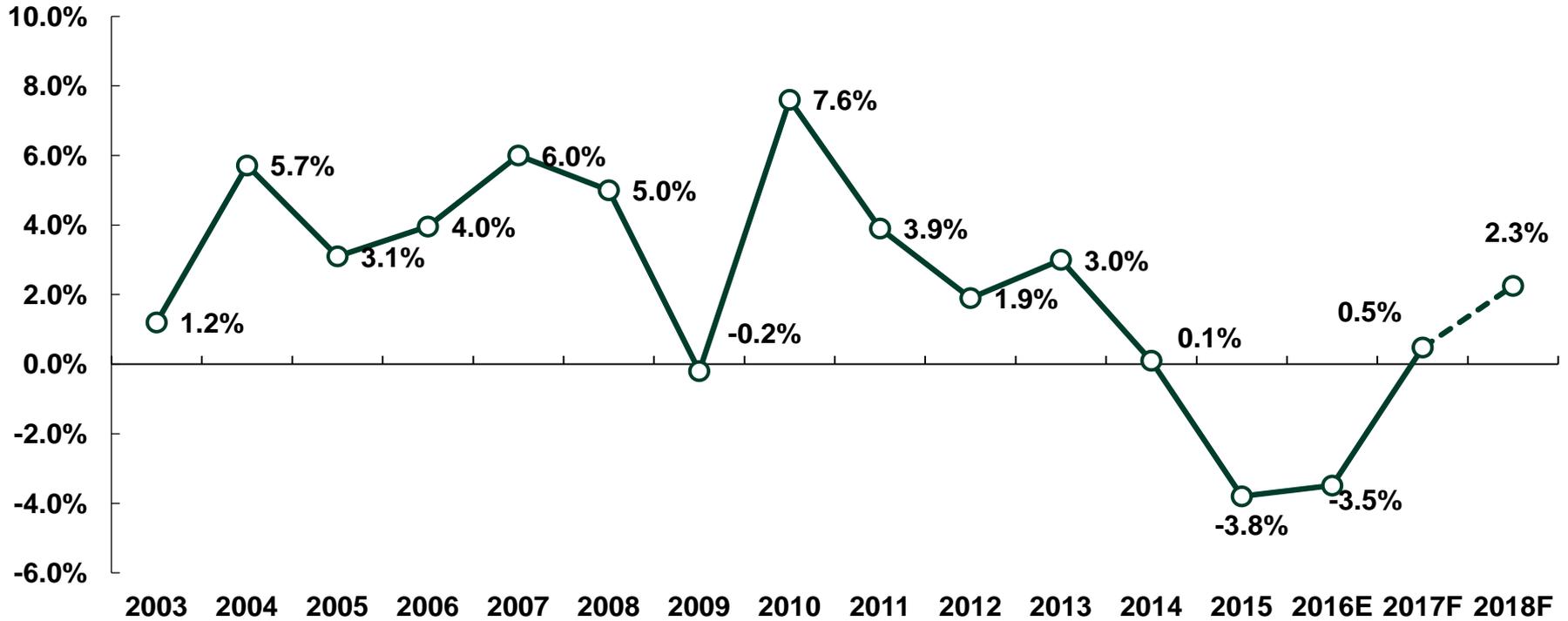
前年同期比(%)

前年同期比(%)



出所: Bloomberg

GDP成長率推移



年平均GDP成長率:4.0%

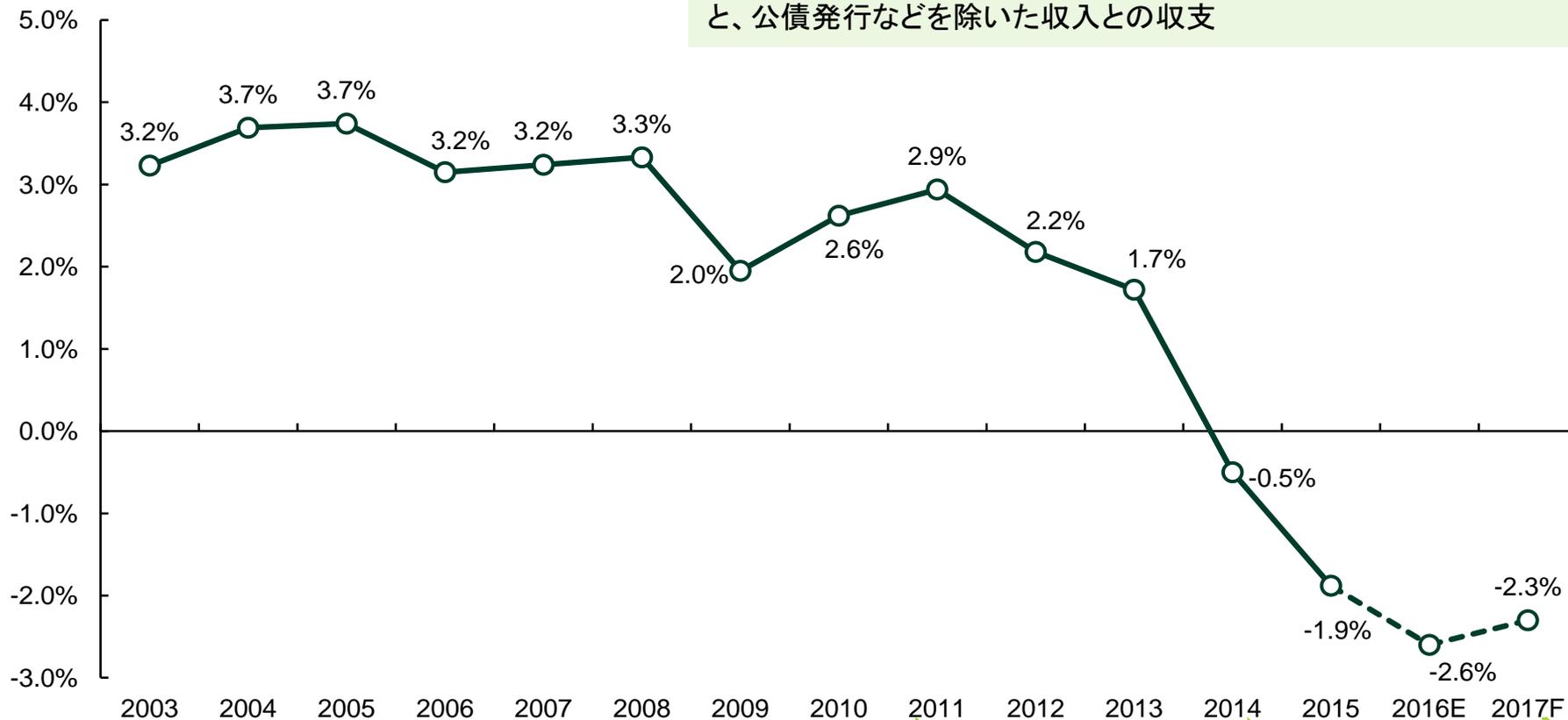
年平均GDP成長率:2.2%

2016年～18年は予測値

基礎的財政収支(対GDP比)

基礎的財政収支

政府会計において、過去の債務に関わる元利払い以外の支出と、公債発行などを除いた収入との収支



ルーラ政権

第1次
ルセフ政権

第2次ルセフ政権
&
テメル政権

2016年は予測値

為替推移(リアル/ドル)

2000年1月から2017年2月17日迄

(リアル/ドル)



為替推移(円/リアル)

金融部会

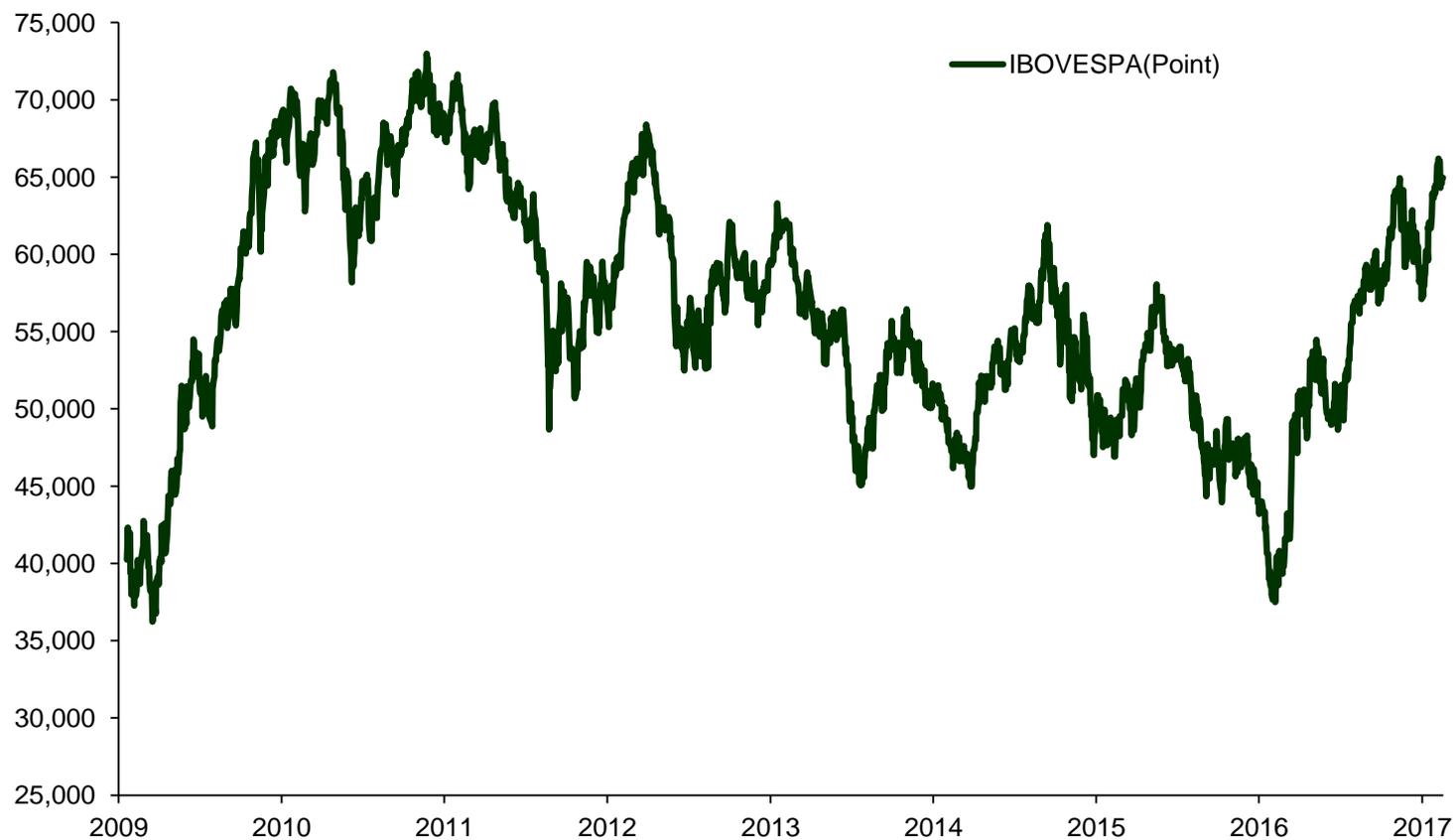
2000年1月から2017年2月17日迄

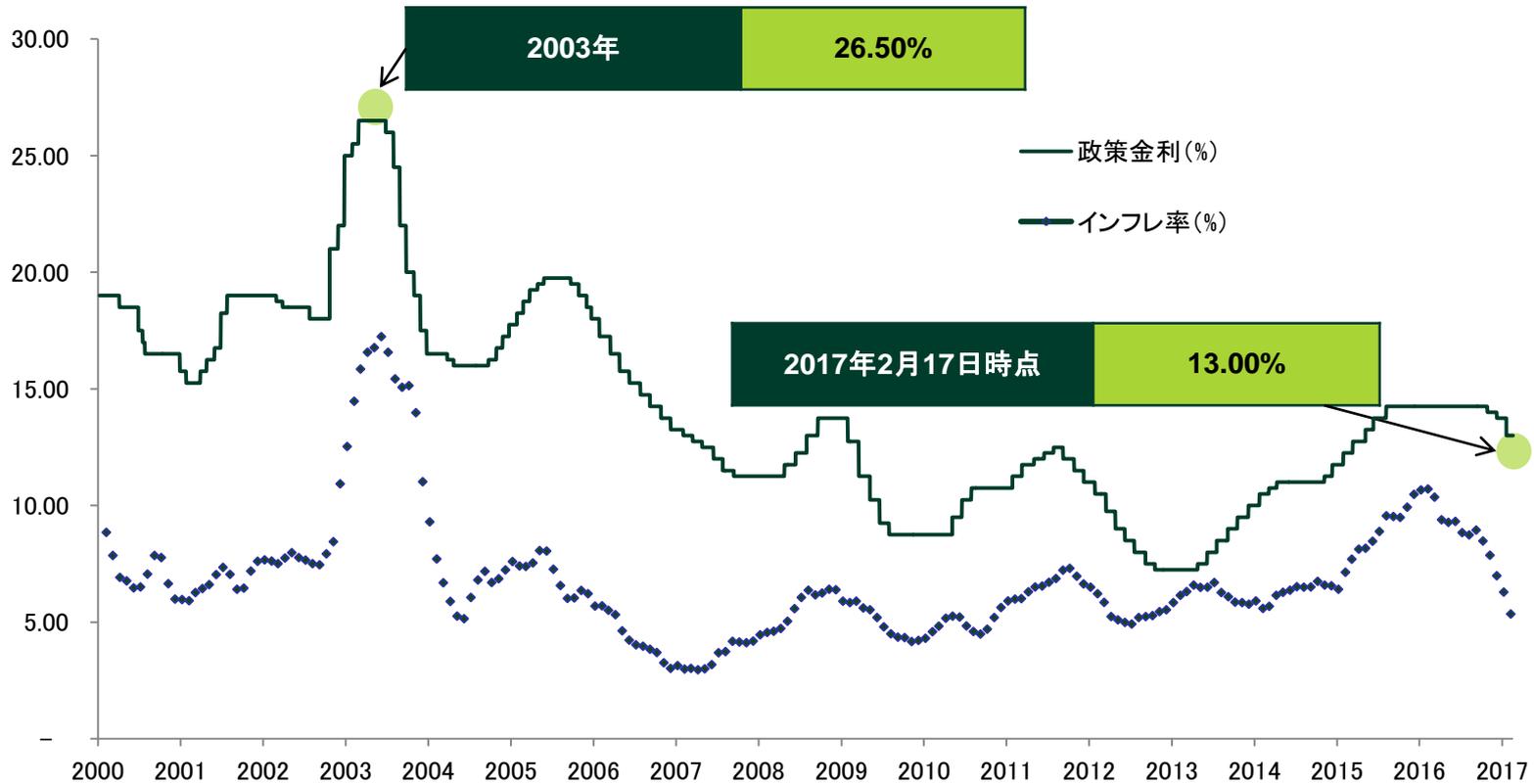
(リアル/円)



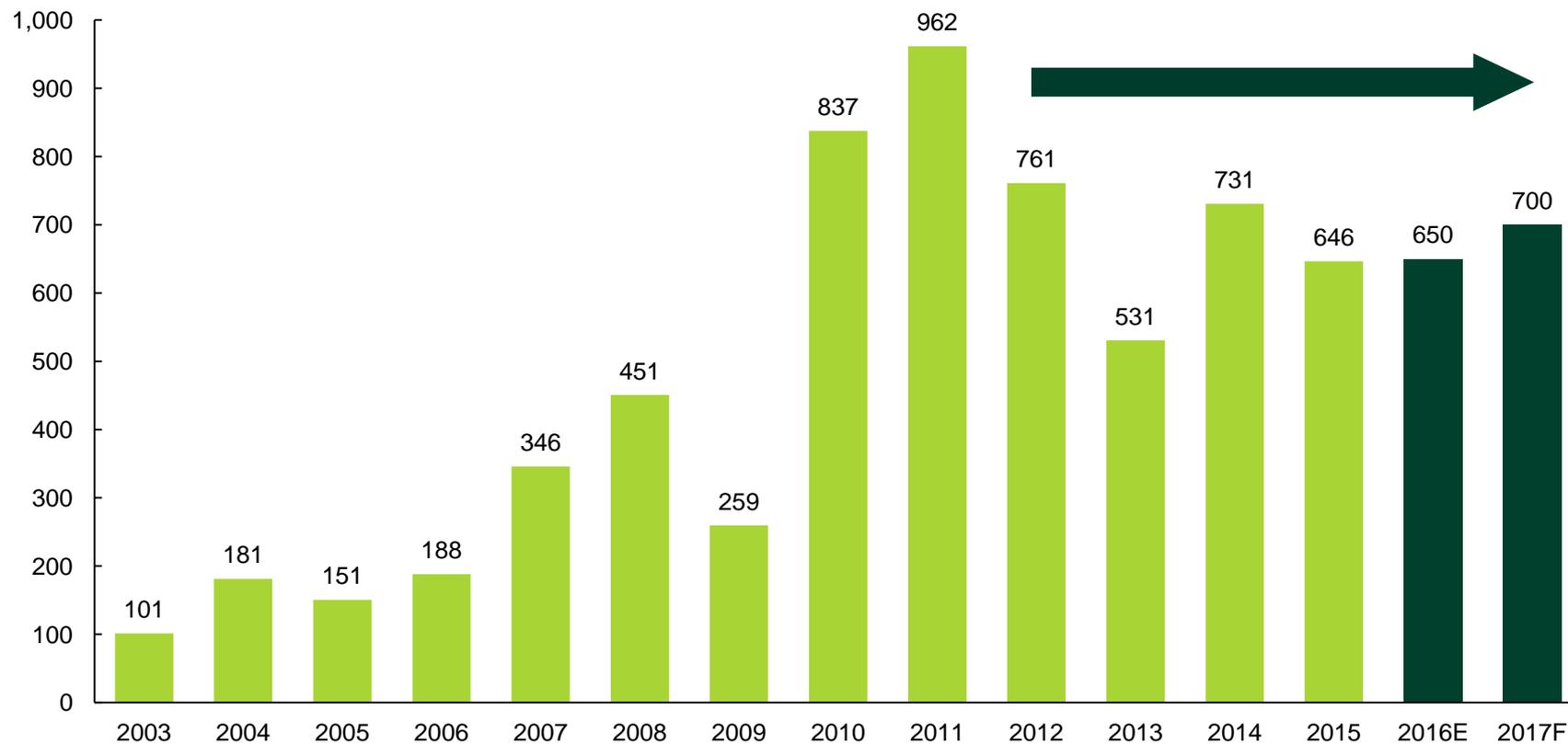
出所: Bloomberg

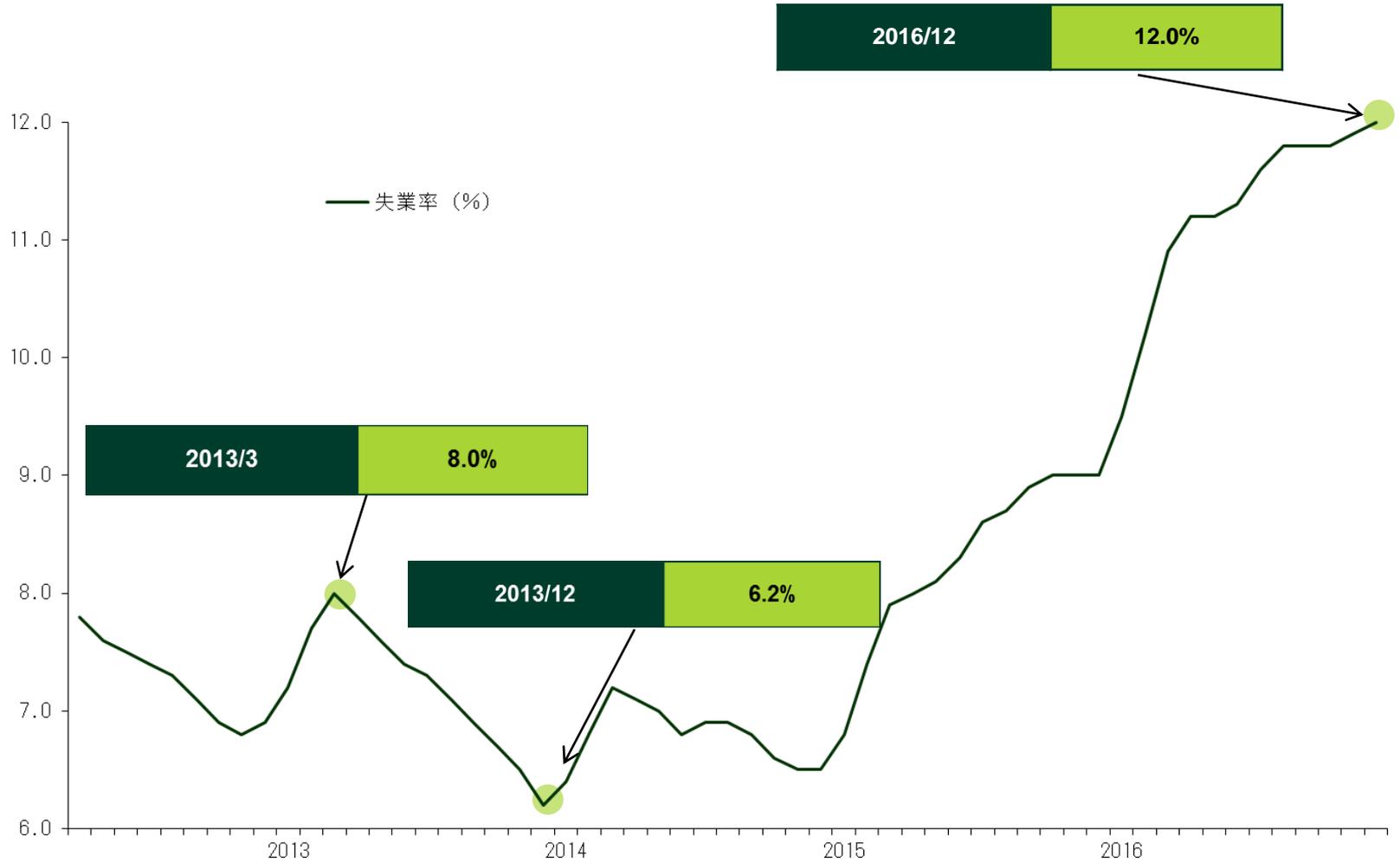
2009年1月から2017年2月17日迄





(億ドル)





2017年ブラジル経済の展望(予想値)

金融部会

指標	2016年		2017年		2018年	
	金融部会 予測値 2016年8月 シンポジウム 予測値	実績	Focus 予測値 2017/2/17	金融部会 予測値 レンジ	Focus 予測値 2017/2/17	金融部会 予測値 レンジ
GDP成長率 (前年比%)	▲2.20~▲3.80	▲3.49 (推定値)	0.48	0.50 ~ 1.00	2.30	1.00 ~ 4.00
インフレ率 (IPCA%)	6.91~7.50	6.29	4.43	4.50 ~ 4.80	4.50	4.00 ~ 5.00
年末為替レート (リアル/ドル)	3.00~3.40	3.26	3.30	3.10 ~ 3.40	3.40	3.20 ~ 3.50
年末政策 目標金利 (%)	13.25~14.25	13.75	9.50	9.50 ~ 9.75	9.00	8.50 ~ 10.00

ブラジル経済はいつ回復に
転じるのか？
その契機となるものは何か？

- テーメル政権の政策に対する市場の信頼が高く、先行き不透明感は払拭されつつあり。但し、実体経済の足取りは未だ重く、失業率についても2017年第2四半期にピークという見方あり。
- 為替安定、政策金利引下げにより、企業投資や個人消費が次第に活性化。2017年第3四半期以降には回復に転じる見込。

経済回復を見据えて、今、我々
日系企業(日系金融機関として、
日系企業全般として等々)が
行うべきことは何か？

- 中長期ビジネスプランの策定
 - ・ 設備投資計画、資金繰り計画
 - ・ 優秀な人材確保
- 本社へのタイムリーな情報提供

アメリカ新大統領トランプ氏の
政策がブラジルに与える影響は
あるのか？
ある場合には、それはどのような
ものか？

- 直接的な影響は限定的
 - ・ 伯国の米国依存度は相対的に低く、トランプの政策フォーカスには伯国は入っていない。
 - ・ 米国の保護主義は、そもそも閉鎖的な伯国市場に影響は与えず。
- 間接的なプラス影響
 - ・ 米国の対中政策が厳しいものとなった場合、中国の旺盛な食糧需要のために、中国による伯国に対する更なる接近が予見される。また、中国の対米輸出減少分については、伯国の米国市場参入余地が発生。
 - ・ NAFTA見直しにより影響を受けるメキシコの南米市場回帰。
- 想定され得るマイナス影響
 - ・ トランプ氏の政策が齎す先行き不透明感から、ブラジルを含めた新興国に対する投資抑制が発生する可能性あり。

2. 銀行業界動向

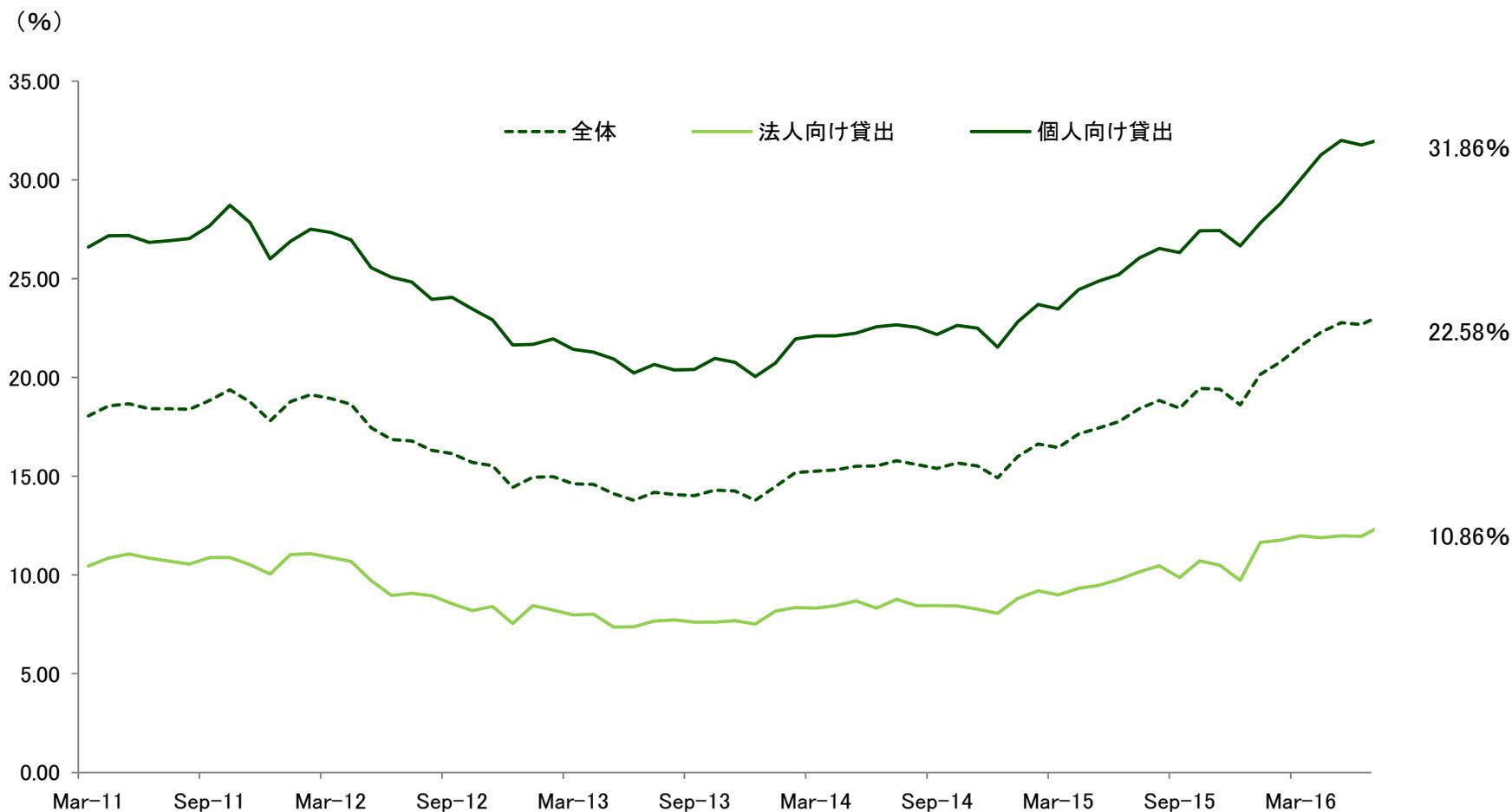
貸出残高推移

金融部会

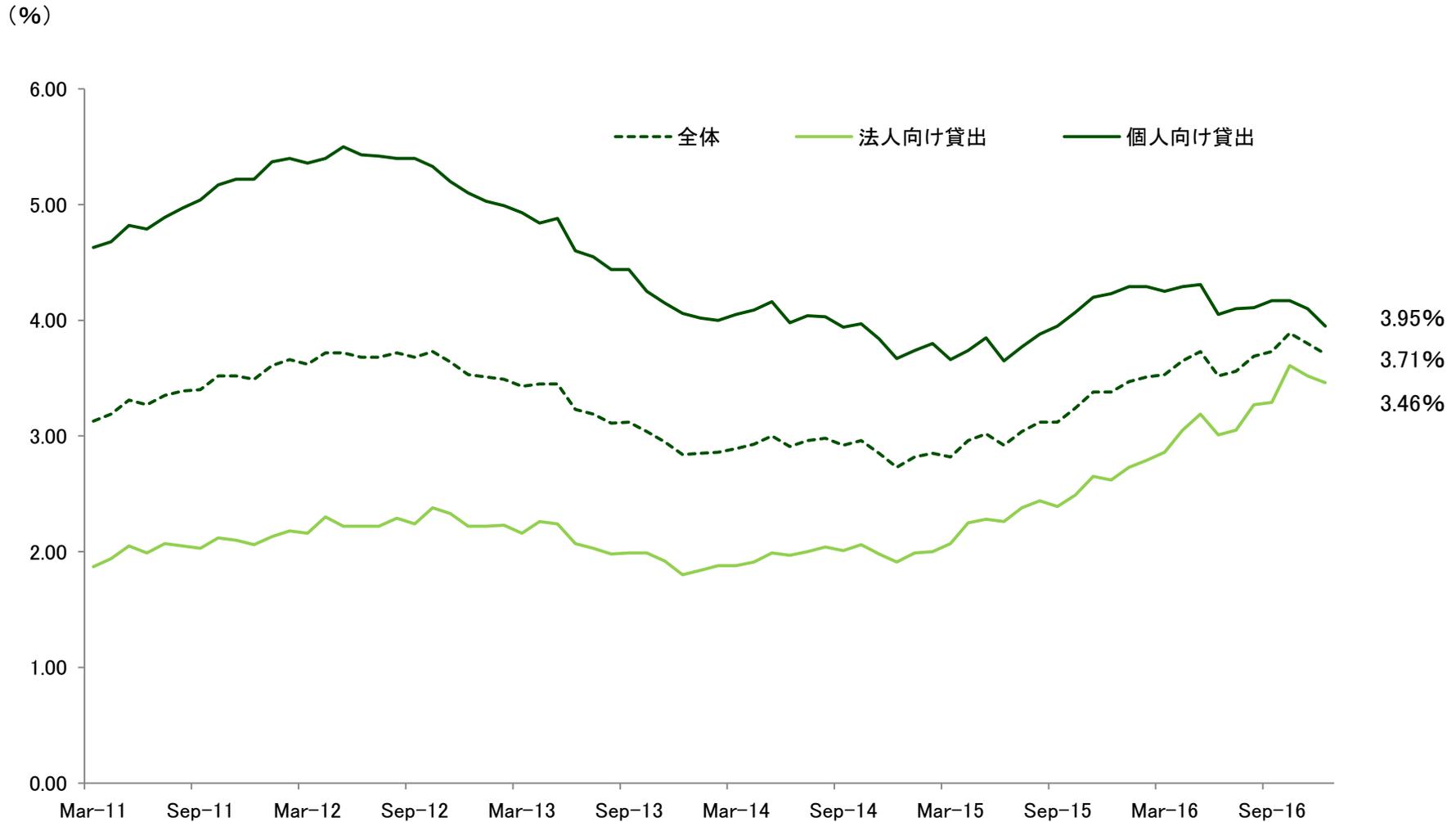
(10億リアル)	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
個人向け貸出	920	1,074	1,246	1,412	1,512	1,561
(同増加率)	18.6%	16.7%	16.0%	13.3%	7.1%	3.2%
法人向け貸出	1,114	1,294	1,466	1,605	1,707	1,546
(同増加率)	18.9%	16.2%	13.3%	9.5%	6.4%	-9.4%
農業		20	22	24	25	24
(同増加率)		N. A.	10.0%	9.1%	4.2%	-4.0%
鉱工業		619	705	782	833	747
(同増加率)		N. A.	13.9%	10.9%	6.5%	-10.3%
サービス業等		655	739	799	849	775
(同増加率)		N. A.	12.8%	8.1%	6.3%	-8.7%
合計	2,034	2,368	2,712	3,017	3,219	3,107
(同増加率)	18.7%	16.4%	14.5%	11.2%	6.7%	-3.5%

新規与信に対する平均貸出利鞘推移

金融部会

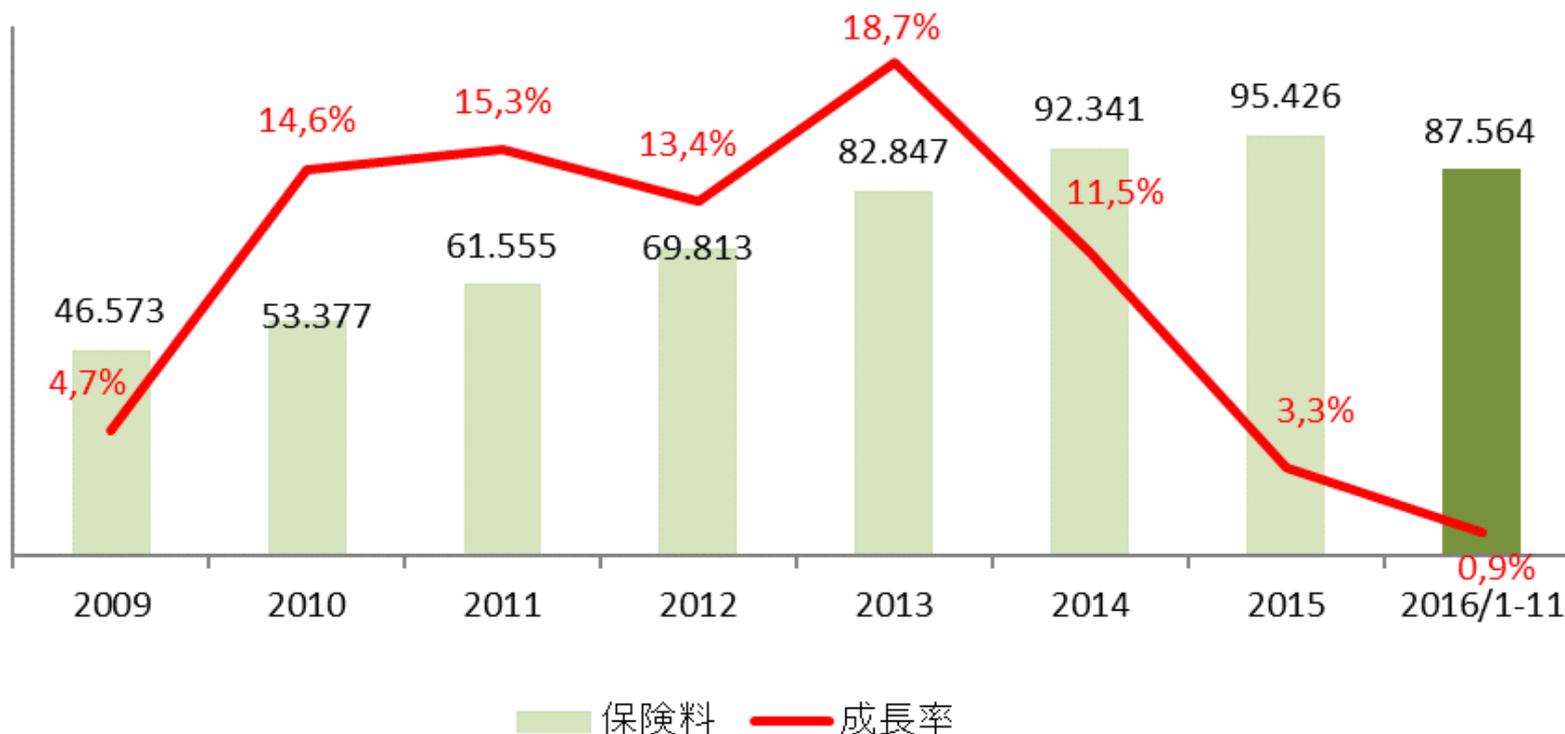


不良債権比率推移



3. 保険業界動向

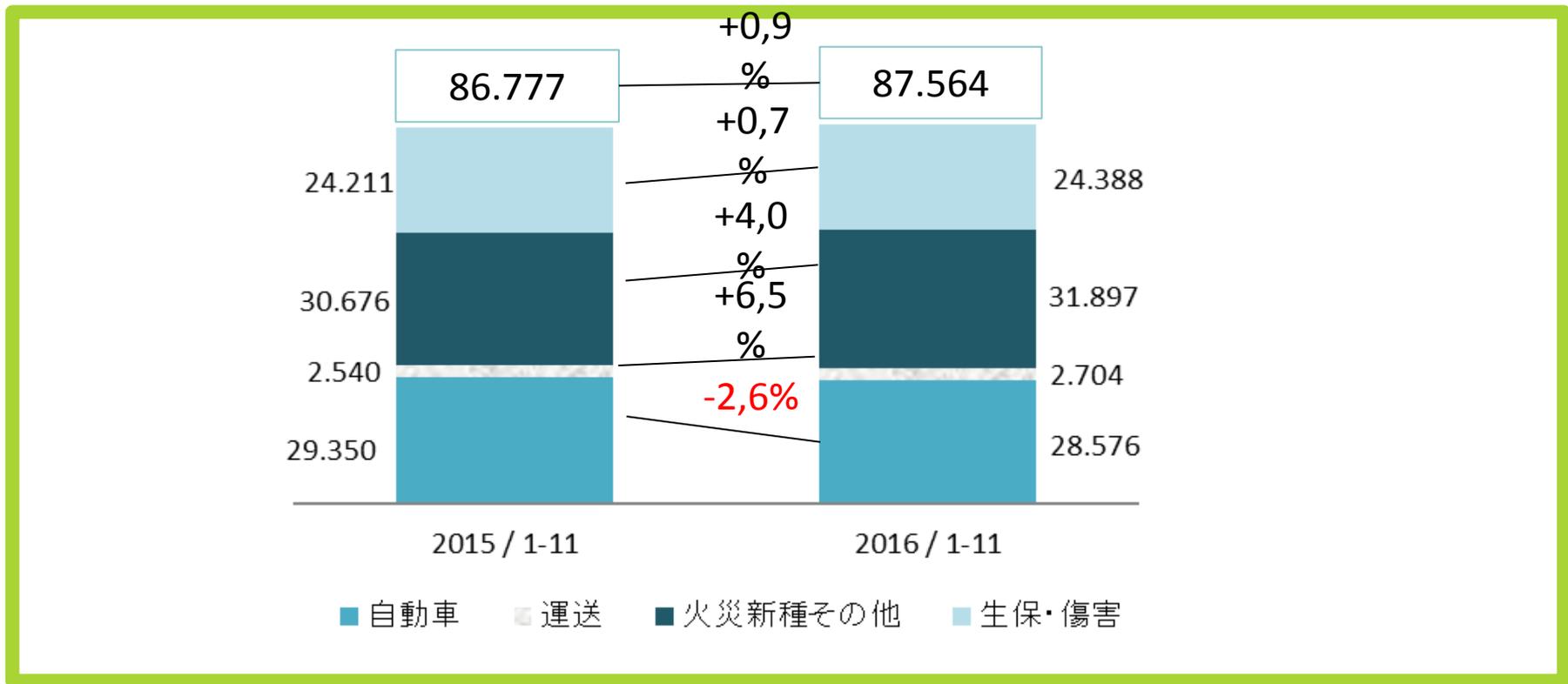
単位：百万リアル



ブラジル経済の低迷に伴い、2015年に続き2016年も保険料収入の成長は鈍化。

■ 保険種目別 保険料収入

単位：百万リアル



特に、自動車保険は新車販売台数の減少の影響を受け、保険料収入はマイナス基調。

保険種目	2015 / 1-11	2016 / 1-11	前年比
自動車	61,3%	64,9%	3,6 pt.
火災新種	41,4%	41,8%	0,4 pt
運送	58,3%	63,2%	5 pt
生命・傷害	29,5%	31,8%	2,3 pt
合計	46,2%	48,2%	2,0 pt

※グロス損害率

全体として損害率が2.0pt悪化、特に運送・自動車保険の損害率悪化が顕著。

2016年成長率見込み	2016 / 1-11
損害保険(自動車・火災新種・運送)	1.0%
生命・傷害	0.7%
合計	0.9%

2016年の成長見通しは、損害保険、生命・傷害保険共に1%程度の低水準。

貿易 部会

今井 重利 部会長

Departamento de Comércio Exterior

Presidente: Shigetoshi Imai

2016年の回顧と 2017年の展望

2017年2月23日
ブラジル日本商工会議所
貿易部会

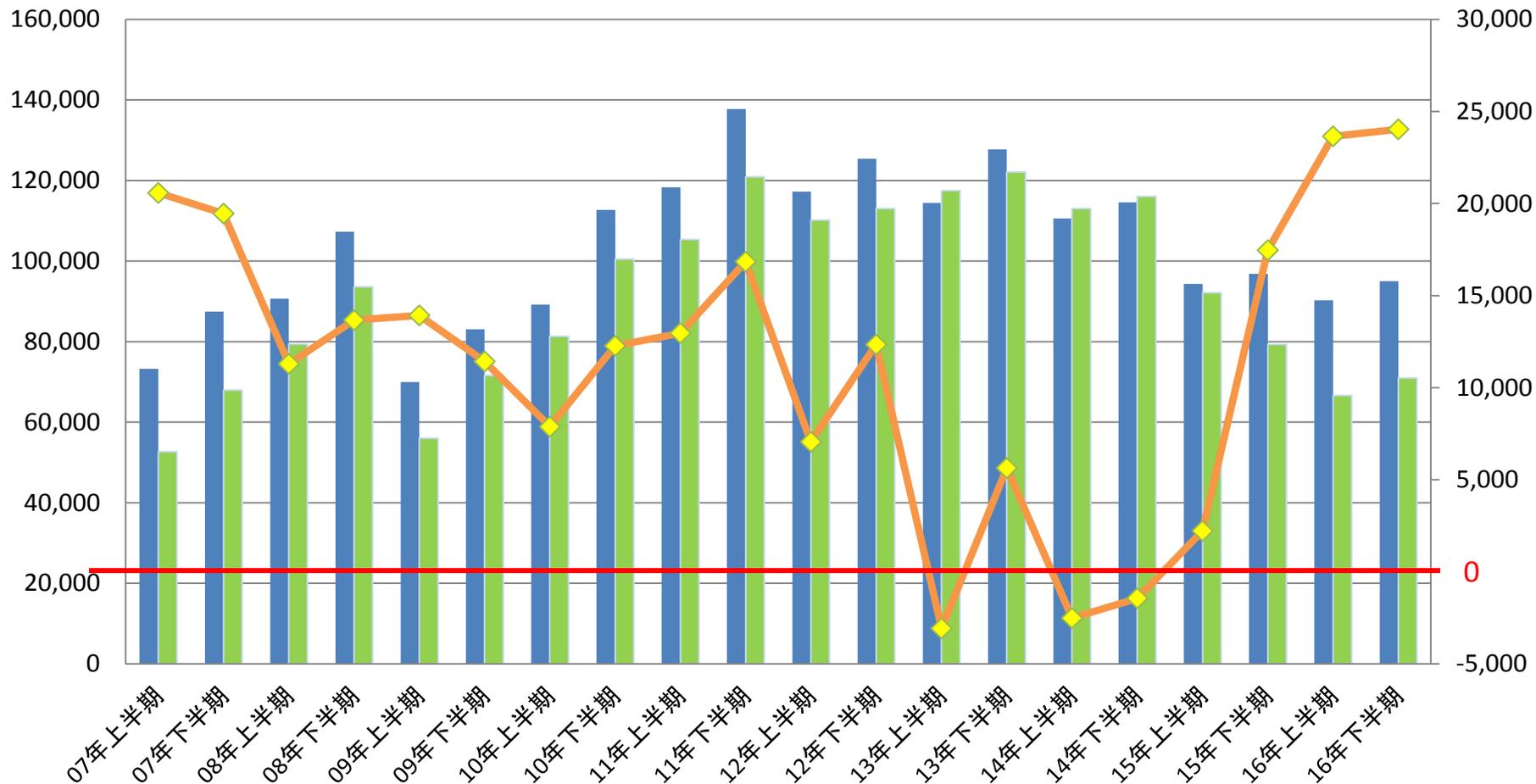
1. 総括

半期ごとの輸出入額の推移

<輸出入額>

<貿易収支>

■ 輸出額 ■ 輸入額 ◆ 貿易収支



(単位:百万ドル)

為替レート 2015年 R\$3.33/US\$

(期中平均) 2016年 R\$3.49/US\$

2. 輸出 ～主要商品別～

金額: 単位百万ドル

数量: 単位千トン(*乗用車のみ単位は「千台」)

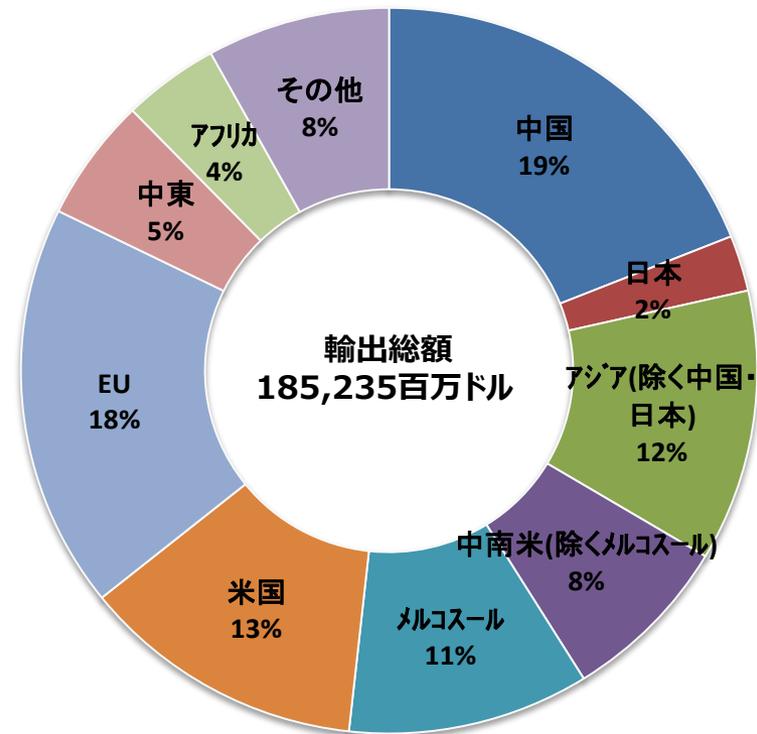
	2015年			2016年			増減率	
	金額	金額 構成比	数量	金額	金額 構成比	数量	金額 増減率	数量 増減率
一次産品	87,188	45.6%	534,725	79,159	42.7%	535,392	-9.2%	0.1%
大豆	20,984	11.0%	54,324	19,331	15.4%	51,582	-7.9%	-5.0%
鉄鉱石	14,076	7.4%	366,194	13,289	6.1%	373,963	-5.6%	2.1%
原油	11,781	6.2%	38,416	10,074	4.5%	41,624	-14.5%	8.3%
鶏肉	6,230	3.3%	3,888	5,946	3.3%	3,959	-4.6%	1.8%
半製品	26,463	13.8%	48,189	27,963	15.1%	53,794	5.7%	11.6%
粗糖	5,901	3.1%	18,927	8,282	3.5%	23,661	40.4%	25.0%
化学木材 ^{パルプ}	5,586	2.9%	11,963	2,745	3.0%	13,520	-50.9%	13.0%
鉄鋼半製品	3,008	1.6%	8,716	5,569	1.3%	8,446	85.2%	-3.1%
合金	2,260	1.2%	321	2,103	1.2%	495	-7.0%	54.3%
工業製品	72,791	38.1%	48,338	73,921	39.9%	50,497	1.6%	4.5%
乗用車	3,366	1.8% *	317	4,671	2.4% *	412	38.8%	30.0%
航空機	4,034	2.1%	3	4,291	2.1%	4	6.4%	21.8%
水酸化アルミニウム	2,593	1.4%	8,966	2,337	1.3%	9,516	-9.9%	6.1%
その他	4,692	2.5%	6,375	4,193	2.3%	5,635	-10.6%	-11.6%
輸出総額	191,134	100%	637,627	185,235	100%	645,318	-3.1%	1.2%

2. 輸出 ～主要国/地域別～

(単位:百万ドル)

国名	2015年 金額	2016年		増減率
		金額	構成比	
中国	35,608	35,134	19.0%	-1.3%
米国	24,080	23,156	12.5%	-3.8%
アルゼンチン	12,800	13,418	7.2%	4.8%
オランダ	10,044	10,323	5.6%	2.8%
ドイツ	5,179	4,861	2.6%	-6.1%
日本	4,845	4,604	2.5%	-5.0%
チリ	3,978	4,081	2.2%	2.6%
メキシコ	3,588	3,813	2.1%	6.3%
イタリア	3,270	3,322	1.8%	1.6%
ベルギー	2,990	3,233	1.7%	8.1%
その他	84,752	79,291	42.8%	-6.4%
輸出総額	191,134	185,235	100.0%	-3.1%

地域別構成比率(2016年)



<出所> 開発商工省貿易局(SECEX)

3. 輸入 ～主要商品別～

金額:単位百万ドル

数量:単位千トン(*乗用車のみ単位は「千台」)

	2015年			2016年			増減率	
	金額	金額 構成比	数量	金額	金額 構成比	数量	金額 増減率	数量 増減率
一次産品	19,875	11.6%	68,012	14,276	10.4%	61,315	-28.2%	-9.8%
原油	7,381	4.3%	16,093	2,899	2.1%	8,867	-60.7%	-44.9%
天然ガス	2,568	1.5%	9,347	1,278	0.9%	8,113	-50.2%	-13.2%
半製品	6,854	4.0%	9,773	5,640	4.1%	10,754	-17.7%	10.0%
塩化カリウム	2,514	1.5%	7,822	1,991	1.4%	8,713	-20.8%	11.4%
工業製品	144,720	84.4%	68,687	117,636	85.5%	66,345	-18.7%	-3.4%
医薬品	5,835	3.4%	37	5,794	4.2%	36	-0.7%	-3.4%
自動車部品	5,361	3.1%	697	4,852	3.5%	612	-9.5%	-12.1%
乗用車	5,019	2.9%	* 336	1,364	1.0%	* 186	-72.8%	-70.2%
燃料油	3,557	2.1%	6,272	2,912	2.1%	6,812	-18.1%	8.6%
殺虫剤、除草剤	3,081	1.8%	293	2,375	1.7%	303	-22.9%	3.5%
半導体	3,025	1.8%	2	2,182	1.6%	12	-27.9%	476.8%
輸入総額	171,449	100%	146,473	137,552	100%	138,414	-19.8%	-5.5%

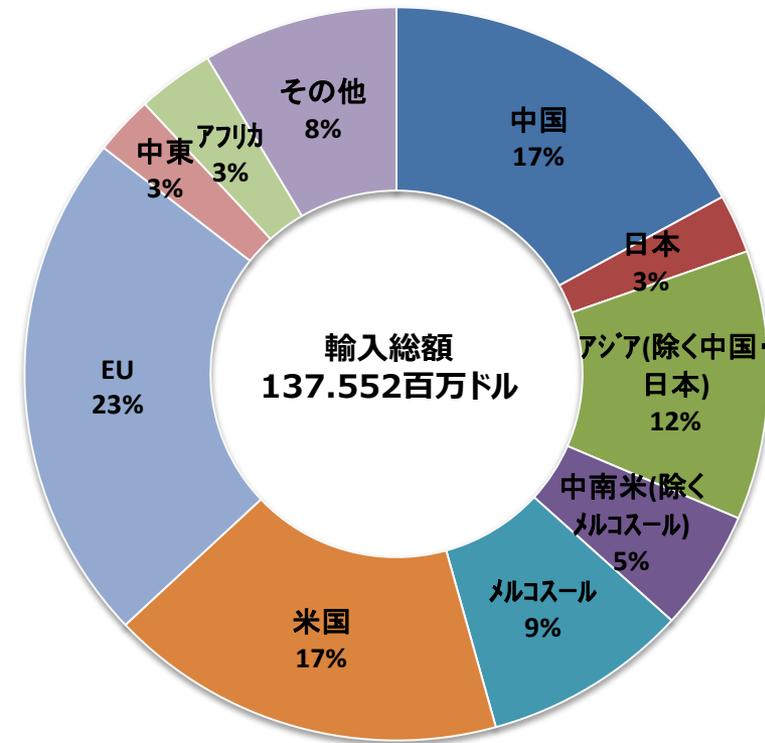
<出所> 開発商工省貿易局(SECEX)、ANFAVEA

3. 輸入 ～主要国/地域別～

(単位:百万ドル)

国名	2015年 金額	2016年		増減率
		金額	構成比	
米国	26,471	23,803	17.3%	-10.1%
中国	30,719	23,364	17.0%	-23.9%
ドイツ	10,380	9,131	6.6%	-12.0%
アルゼンチン	10,285	9,084	6.6%	-11.7%
韓国	5,421	5,449	4.0%	0.5%
イタリア	4,675	3,703	2.7%	-20.8%
フランス	4,457	3,679	2.7%	-17.5%
日本	4,877	3,566	2.6%	-26.9%
メキシコ	4,378	3,528	2.6%	-19.4%
チリ	3,411	2,882	2.1%	-15.5%
その他	66,375	49,364	35.9%	-25.6%
輸入総額	171,449	137,552	100%	-19.8%

地域別構成比率 (2016年)



4. 対日貿易

輸出

(単位:百万ドル)

商品名	2015年 金額	2016年		伸び率
		金額	構成比	
鉄鉱石	1,209	1,073	23.3%	-11.2%
鶏肉	837	720	15.6%	-14.0%
とうもろこし	461	455	9.9%	-1.4%
コーヒー豆	440	413	9.0%	-6.1%
アルミニウム	367	246	5.3%	-33.0%
合金	231	240	5.2%	3.8%
航空機	87	219	4.7%	150.5%
大豆	185	172	3.7%	-7.2%
化学木材パルプ	103	113	2.5%	9.3%
冷凍オレンジ	90	96	2.1%	6.2%
その他	834	858	18.6%	2.9%
合計	4,845	4,604	100%	-5.0%

輸入

(単位:百万ドル)

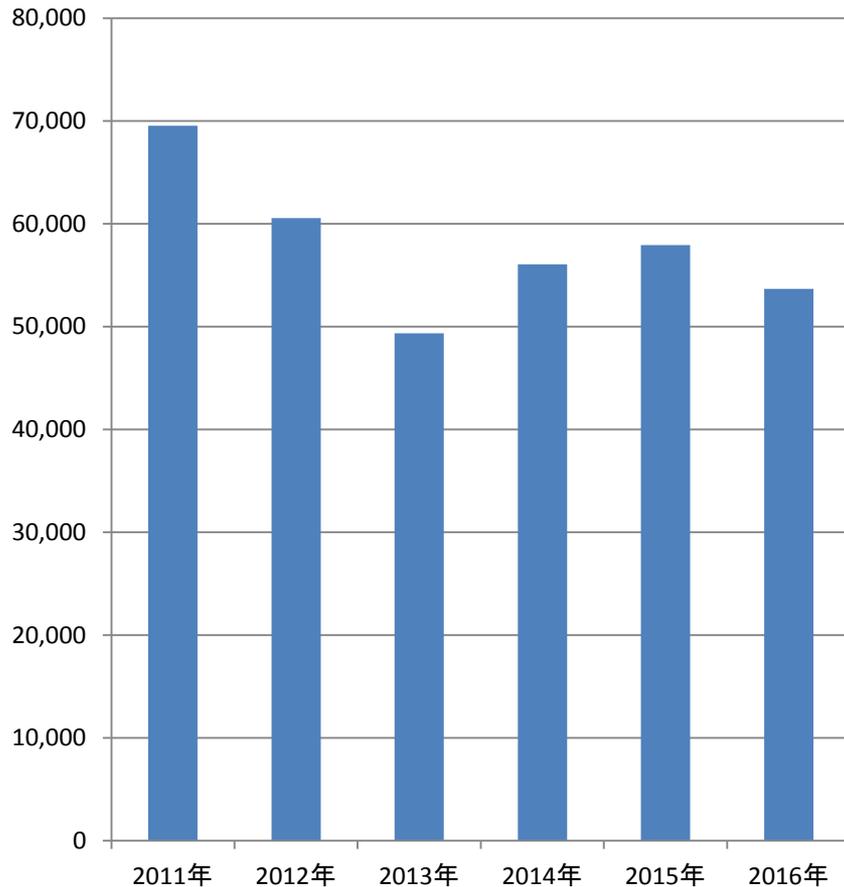
商品名	2015年 金額	2016年		伸び率
		金額	構成比	
自動車・トラクター 部品	505	454	12.7%	-10.1%
その他工業製品	231	208	5.8%	-9.9%
測定機器等	224	157	4.4%	-29.6%
ベアリング・歯車及 びそれら部品	185	142	4.0%	-23.5%
乗用車	326	130	3.6%	-60.1%
自動車エンジン部 品	173	128	3.6%	-25.8%
複素環式化合物	137	104	2.9%	-24.0%
航空機・ヘリコプ ター部品	86	101	2.8%	17.0%
窒素化合物	96	90	2.5%	-6.9%
表面処理鋼板	80	74	2.1%	-8.1%
その他	2,833	1,978	55.5%	-30.2%
合計	4,877	3,566	100.0%	-26.9%

<出所> 開発商工省貿易局(SECEX)

5. 対内直接投資 ～推移・国別～

対内直接投資推移

(単位:百万ドル)



国別対内直接投資

国	2015年	2016年		伸び率
	金額	金額	構成比	
オランダ	11,573	10,524	19.6%	-9.1%
米国	6,647	6,544	12.2%	-1.6%
ルクセンブルク	6,599	7,395	13.8%	12.1%
スペイン	6,570	3,489	6.5%	-46.9%
ドイツ	3,453	1,826	3.4%	-47.1%
フランス	2,841	2,778	5.2%	-2.2%
日本	2,878	1,412	2.6%	-50.9%
イタリア	1,720	2,835	5.3%	64.8%
英領ヴァージン諸島	764	1,637	3.1%	114.3%
英国	1,649	3,596	6.7%	118.1%
その他	13,213	11,636	21.7%	-11.9%
合計	57,907	53,673	100.0%	-7.3%

<出所>ブラジル中央銀行

5. 対内直接投資～主要業種別～

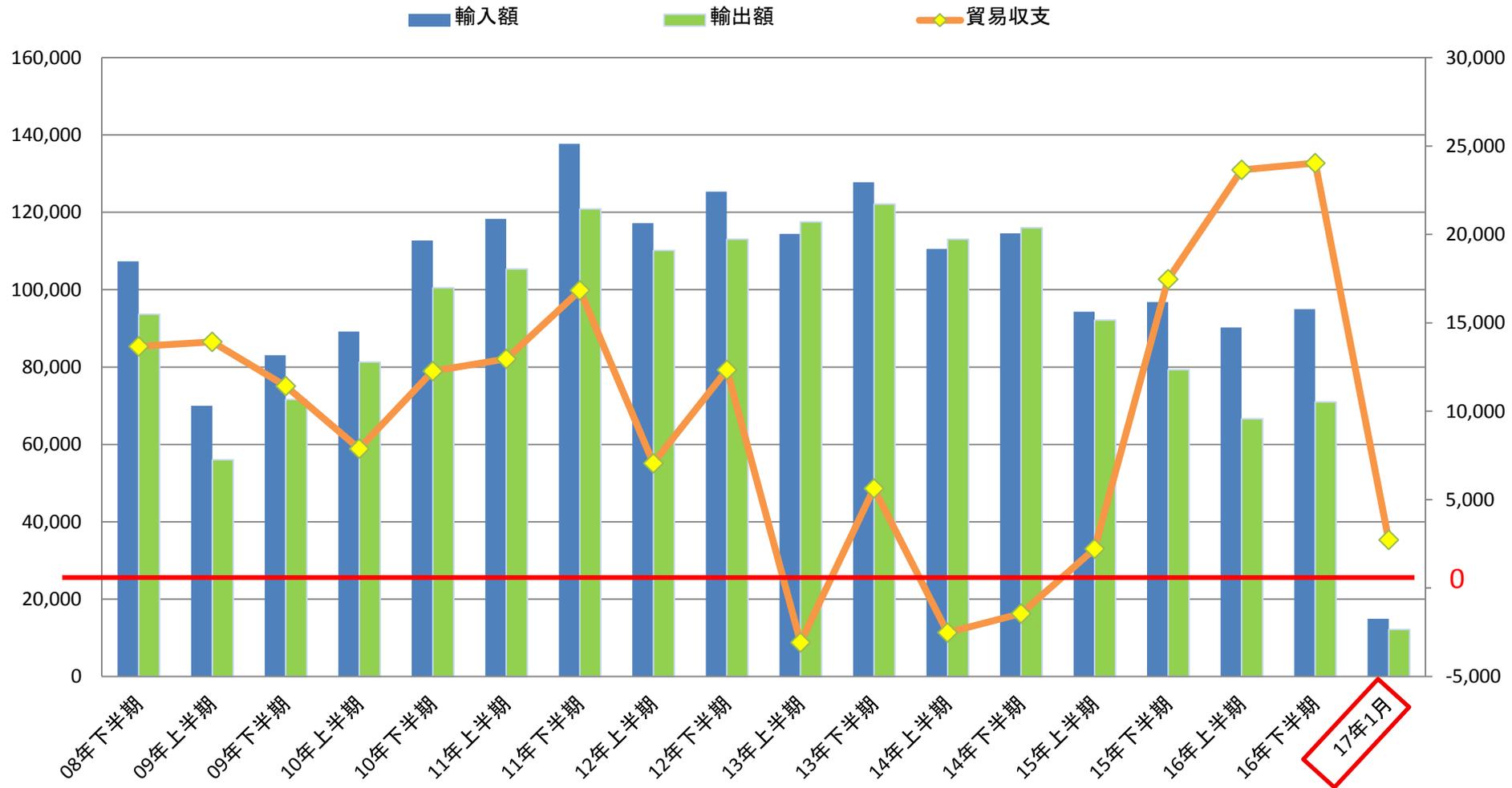
(単位:百万ドル)

	2015年		2016年		伸び率
	金額	構成比	金額	構成比	
一次産品(農業・畜産・鉱業・その他)	8,310	14.4%	8,696	16.2%	4.6%
石油・天然ガス採掘	4,595	7.9%	4,257	7.9%	-7.4%
金属鉱物採掘業	1,516	2.6%	2,463	4.6%	62.5%
工業(その他も含む)	20,967	36.2%	20,138	37.5%	-4.0%
自動車・トレーラー・車体	4,518	7.8%	6,571	12.2%	45.4%
非鉄製品	660	1.1%	1,260	2.3%	90.9%
化学製品	2,417	4.2%	2,165	4.0%	-10.4%
基礎冶金業(注)	870	1.5%	1,437	2.7%	65.2%
機械装置	1,087	1.9%	1,558	2.9%	43.3%
サービス業(その他も含む)	28,409	49.1%	24,647	45.9%	-13.2%
商業(自動車除く)	5,471	9.4%	5,696	10.6%	4.1%
不動産	2,150	3.7%	1,939	3.6%	-9.8%
倉庫・運送業	823	1.4%	1,546	2.9%	87.8%
金融・同補助サービス	1,381	2.4%	1,819	3.4%	31.7%
通信	4,552	7.9%	989	1.8%	-78.3%
電気・ガス	3,930	6.8%	2,962	5.5%	-24.6%
合計	57,907	100.0%	53,673	100.0%	-7.3%

6. まとめ ～2017年見通し～

<輸出入額>

<貿易収支>



(単位:百万ドル)

6. まとめ 『景気回復に向けて、いま為すべきことは？』

- ・2016年度の貿易収支は、477億ドルと大幅に増加しているが、輸入額、輸出額共に減少傾向（特に輸入）。
- ・対内投資については、2015年度比減少はしたが、537億ドルとさほどの落ち込みではない。
- ・対日は貿易・投資共に特に減少が著しい。
（輸出▲5%、輸入▲27%、対内投資▲51%）

→ いま、為すべきことは？

- ・輸出入共に貿易の増大
- ・対内投資の拡大
- ・消費の活性化、内需拡大
- ・日本・ブラジル双方への広報、宣伝活動を活性化、ブラジルの高い将来性をアピール（5月／JAPAN HOUSE、8月／日伯経済合同委員会）
- ・他国商工会議所及び他部会とも交流を深め、貿易・投資促進上の課題を当局へ提言
- ・欧米の政治動向及び中国の景気動向には十分注意
- ・治安には引き続き細心の注意を払う

機械金属 部会

池辺 和博 部会長

Departamento de Metalmeccânica

Presidente: Kazuhiro Ikebe

「2016年の回顧と2017年の展望」

～景気回復に向けていま為すべきことは～

2017年2月23日
機械金属部会
池辺

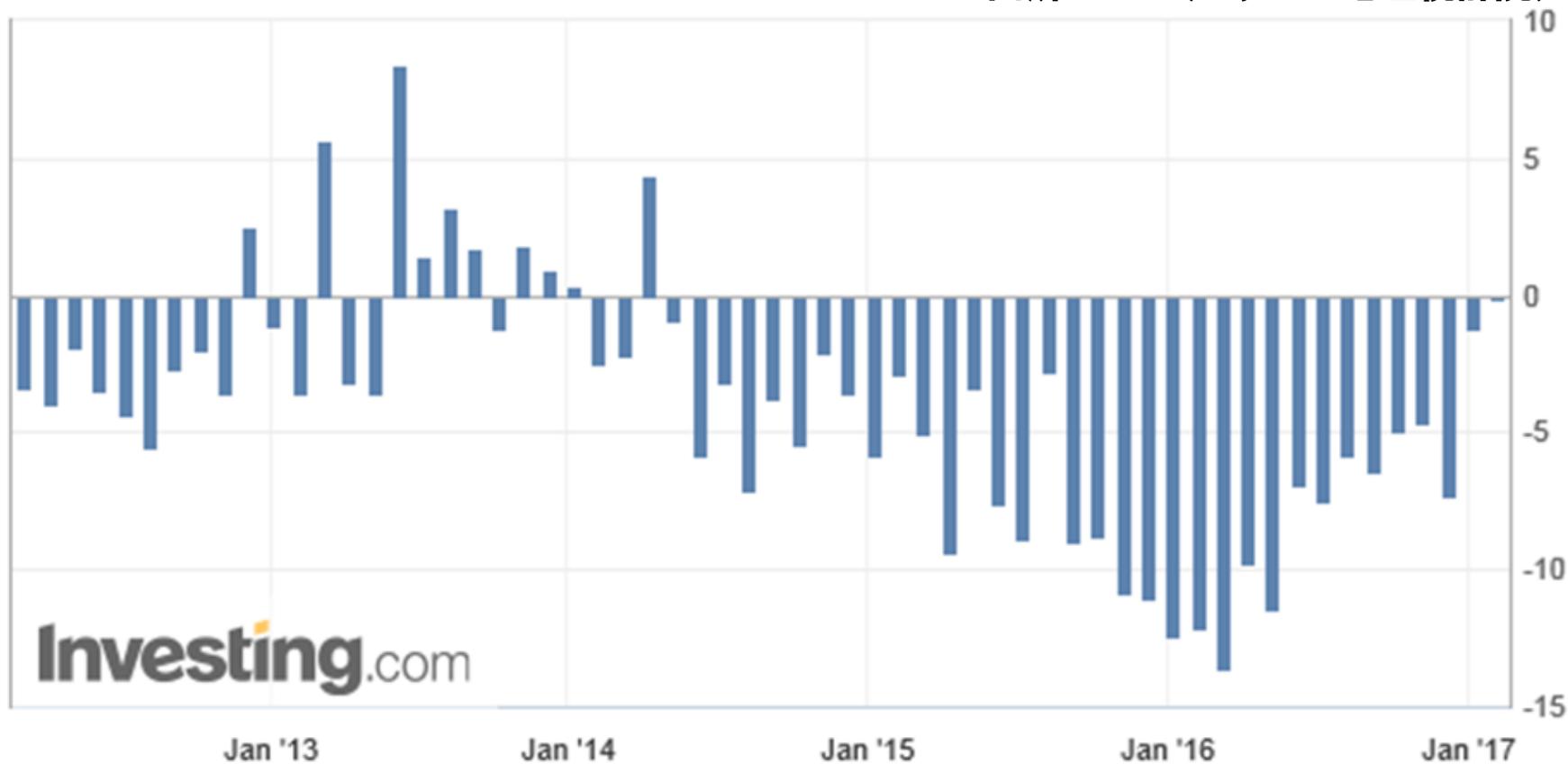
1. マクロ指標関連
2. セグメント別状況
業種・分野別分類

- (1) 鉄鋼
- (2) 電力・社会インフラ
- (3) 建設機械・業務用空調
- (4) 切削工具・ベアリング
- (5) トラクター
- (6) 産業機械(非汎用圧縮機・ポンプ)

3. 副題-景気回復に向けていま為すべきことは-

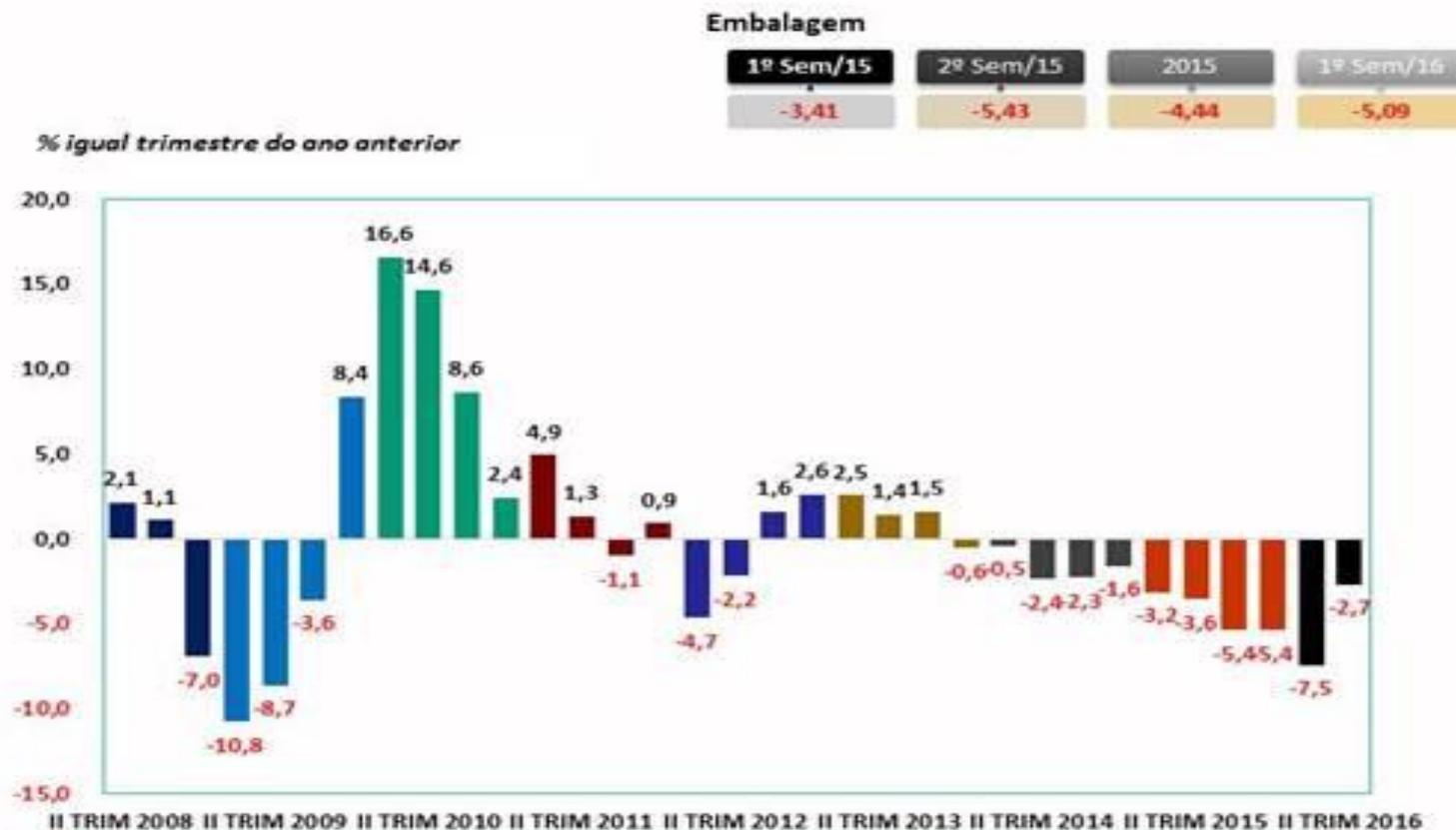
ブラジル鉱工業生産 対前年の推移

出所: IBGE(ブラジル地理統計院)



ダンボール生産 対前年同期比の推移 出所: IBGE(ブラジル地理統計院)

PRODUÇÃO FÍSICA DE EMBALAGEM



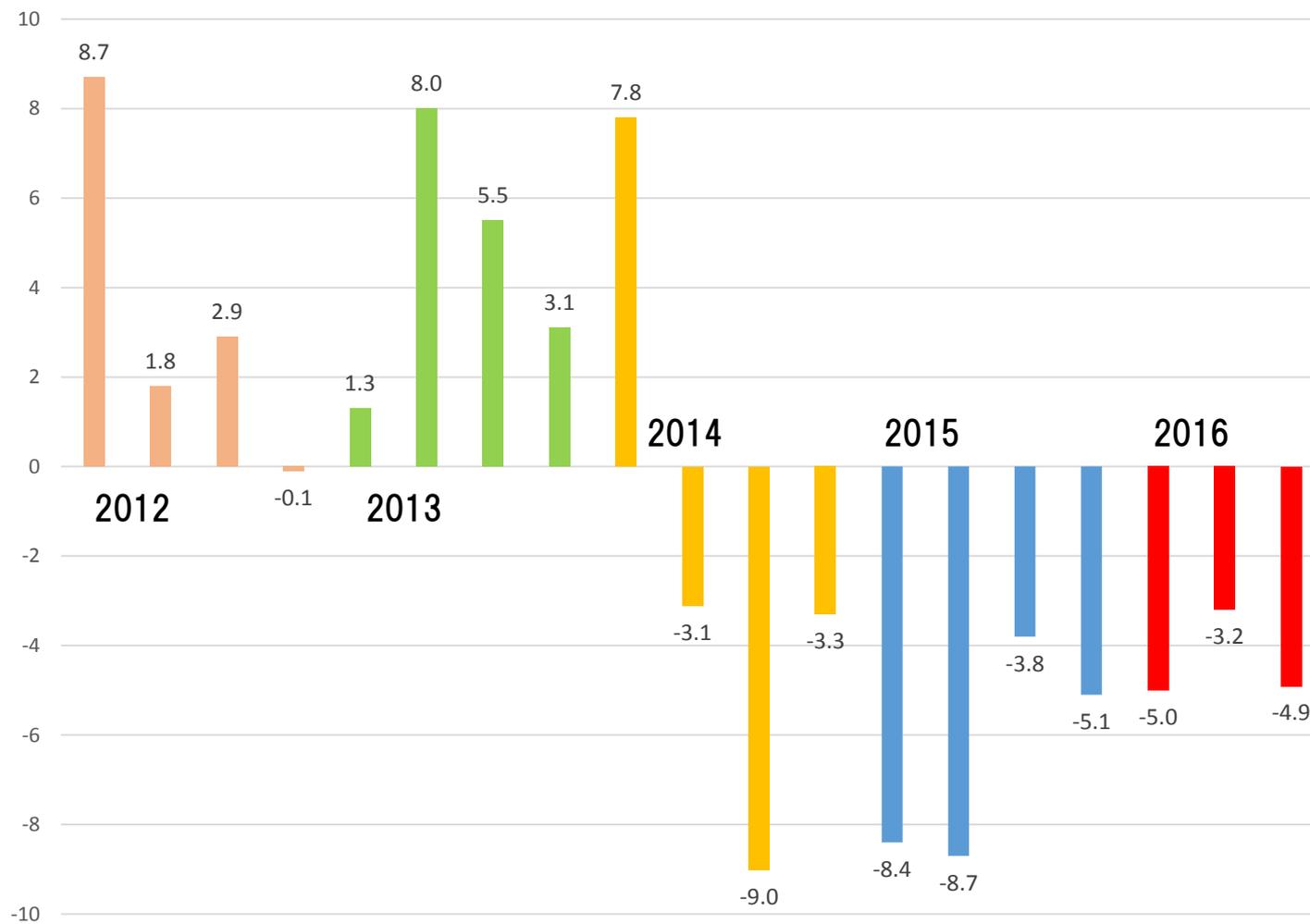
Fonte: IBGE
Elaboração: FGV

Indústria Geral

1º Sem/15	2º Sem/15	2015	1º Sem/16
-5,92	-10,41	-8,27	-9,10

建設実績 対前年同期比推移

出所: CBIC(ブラジル建設業協会)



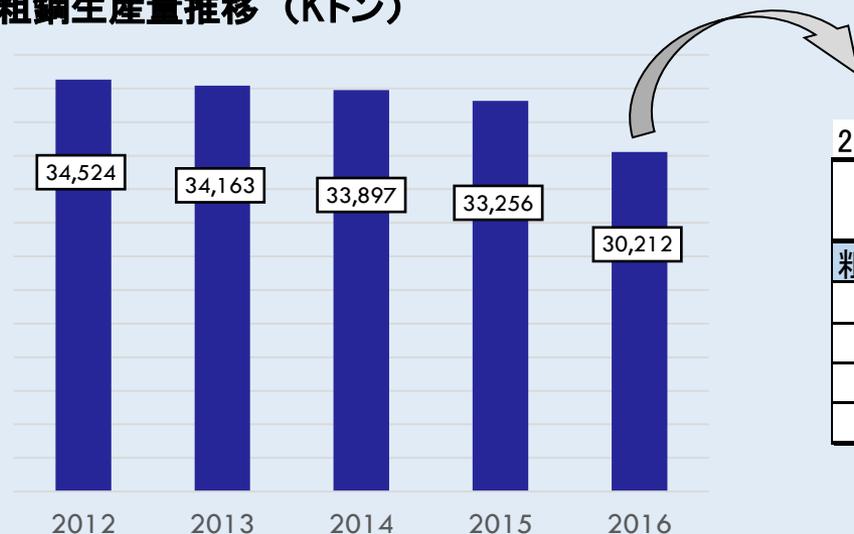
1. マクロ指標関連
2. セグメント別状況
業種・分野別分類

- (1) 鉄鋼
- (2) 電力・社会インフラ
- (3) 建設機械・業務用空調
- (4) 切削工具・ベアリング
- (5) トラクター
- (6) 産業機械(非汎用圧縮機・ポンプ)

3. 副題-景気回復に向けていま為すべきことは-

伯鉄鋼生産関連情報 (伯鉄鋼協会)

粗鋼生産量推移 (Kトン)



2016年実績

数量は千トン、前年同期比

	生産		国内販売		輸出	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
粗鋼	30,212	▲9%	16,524	▲9%	13,432	▲2%
圧延鋼板	12,274	▲8%	9,401	▲4%	3,088	▲12%
型鋼	8,620	▲7%	6,811	▲16%	1,706	27%
スラブ	6,913	▲13%	180	▲19%	8,638	▲3%
他	1,394	23%	132	32%		

輸入 1,880 ▲41%

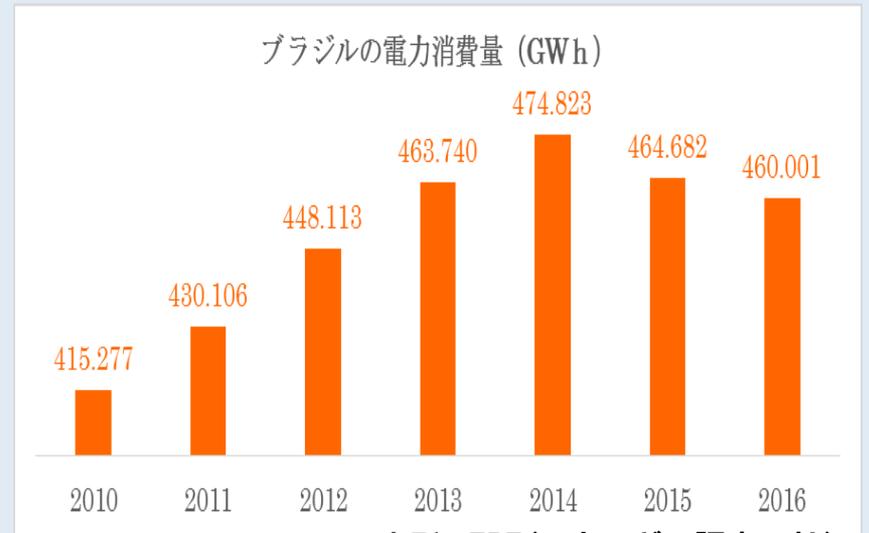
- ・ ブラジル鋼材需要の約80% (自動車・建設・機械) の需要低下→5年連続の生産減
- ・ 鉄鋼各社設備の閉鎖、休止
→ 主要5社 (Usiminas/CSN/Gerdau/AMB/CSA) 高炉14基中3基休止 (稼働率55~60%)
- ・ 輸出: 16年前半リアル安もあり17%伸びたが、通年▲2% (リアル高/世界的供給過剰)
- ・ 輸入: 国内需要低迷、リアル安→前年比▲41% (前半▲64%)

〈2017年展望〉

- ・ 国内需要の緩やかな回復により、生産も微増を予想
- ・ 米国に続き、欧州でも熱延鋼板のAD調査開始 → 鋼板輸出は減少か

電力

- ・ 経済活動の停滞により電力消費は2015年比1.0%減少
- ・ 工業分野の電力消費は過去32カ月間減少
2016年12月0.9%増加し、2ヶ月連続の増加
2017年工業電力の需要増大予想
- ・ 発電容量9.5GW、6.7%増加(新規水力/風力発電稼働開始) 電力需給ギャップ拡大



出所: EPE(エネルギー調査公社)

- ・ 2016年A-5エネルギーオークションの新設案件395MW (2005-15年平均3.6GWの1/10程度)
- ・ 2017年も新規発電案件期待薄で、電力会社の設備投資も低調予想

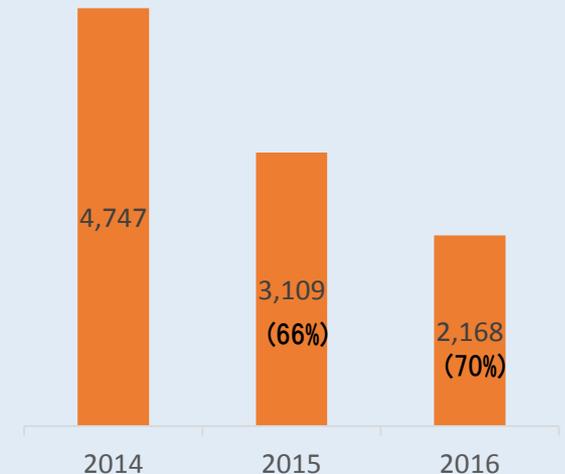
都市交通

- ・ サンパウロ州政府の投資:
2016年 82.5億リアル 対2015年比 11.7%減 (対2014年比 44.5%減)
最大削減分野は、地下鉄/州都近郊鉄道を含めた交通輸送分野
当初予算173億リアル→130億リアル(25%削減)
特に資材機器の調達経費は、当初予算65億リアル→42億リアル(35%削減)
⇒ 地下鉄/州都近郊鉄道の殆どの路線の拡張工事も一時中止や先送り
- ・ 2017年 (コンセッション) 民営化による工事等継続図るも、2018年以降か

建機

- ・ 建設需要の落ち込みに加え、建設機械の昨年末ICMS減免措置廃止憶測で駆け込み需要発生→2016年1～2月反動で激減
油圧ショベル出荷2年で半減
- ・ 小型建機(小型バックホー)販売も、2016年前年比▲47%
(2015年 前年比▲42%) ⇒ 2016年 対2014年比約30%
- ・ 農業、製造業、墓地等非建設用途需要開拓で凌ぐ

油圧ショベル出荷台数推移



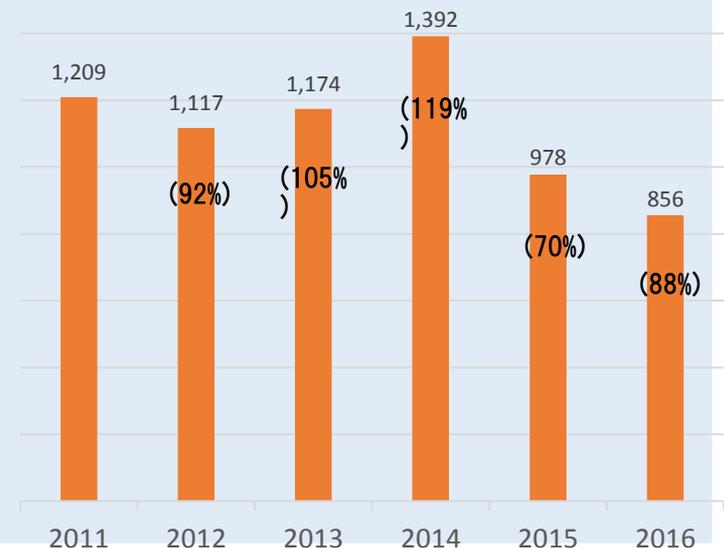
業務用空調

- ・ ビル・工場等の建設減による需要減：
2016年▲12% (2015年 前年比▲30%)

〈2017年展望〉

- ・ 建設業界の回復は2018年以降と予測
- ・ 建機、業務用空調共に、2017年も減少はなくとも横ばい、又は微増

業務用空調需要推移 (K冷凍トン)



主要顧客先は自動車業界

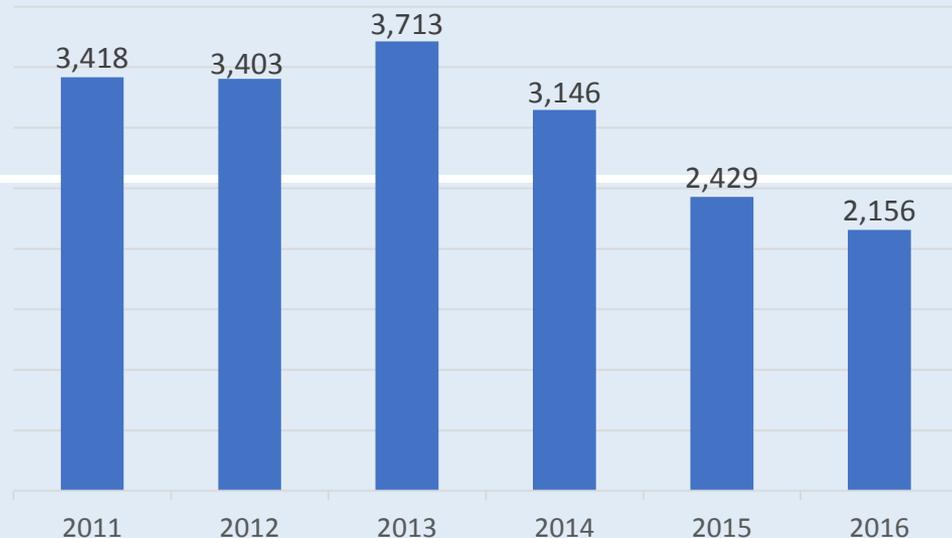
- 自動車生産4年連続減少
- 2016年 対前年比 ▲11%
対2013年比 ▲42%
- 2017年 対2016年 12%増産予想

切削工具

- 2016年/2017年継続して
- 自動車業界向け落ち込みを、航空機、医療機器他でカバー
 - 他社からのシェア奪取

自動車生産台数推移 (K台)

出所: Anfavea(自動車生産者協会)



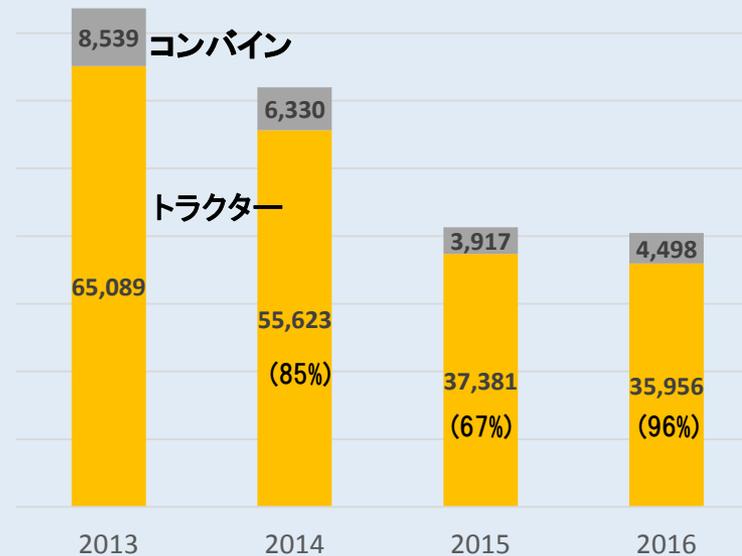
ベアリング

- 自動車に加え、二輪の落ち込みは更に深刻であった。
一方、消費者向けアフターマーケット需要、比較的堅調。(新車買い控えで現有車修理)
- 一般産業機械向けも限定的
- 2017年自動車生産は若干回復予想も、モデルチェンジの関係もあり、本格回復は数年後

トラクター

- ・ 需要：前年比▲4%（2014年 ▲15%、2015年 ▲33%の後底入れ感）
- ・ 農業堅調、政府の農業向け低利融資再開で回復基調
- ・ 2017年：農作物収量増予測され、回復基調継続 → 需要15~20%増加予想

農機販売状況（台）



出所：Anfavea(自動車生産者協会)

非汎用圧縮機

- ・ PETROBRASの投資抑制、資源価格の低位安定等により主要用途である資源開発、石油精製、石油化学向け需要低迷
(石油/天然ガス生産伸び 2016年 2.9%
2015年 8.1%)

〈2017年展望〉

- ・ 原油価格の回復、プレサル鉱区におけるPETROBRASの30%以上の権益優先権の撤廃による海外資本の投資に期待

ガスコンプレッサー輸入額 (KUSD)

タイプ	2015	2016	前年比
ターボコンプレッサー	28,169	1,486	▲94.7%
レシプロコンプレッサー	31,617	10,381	▲67.2%
スクリーコンプレッサー	7,430	7,974	7.3%
合計	67,216	19,841	▲70.5%

出所: Integrated Foreign Trade System(SISCOMEX)

ポンプ

- ・ カスタムポンプ: 主要用途が製鉄、石油化学、電力プラントで、大幅需要減
- ・ 標準ポンプ: 主に農業、建築設備向けで、市場は前年比約5%増

〈2017年展望〉

- ・ 上期はほぼ現状維持、下期以降に緩やかな回復基調を予想

景気回復に向けていま為すべきことは？

- ・ コスト削減： 相対的価格競争力の強化と顧客の投資額低減
- ・ 品質向上： コスト同様品質面での競争力強化
親会社の支援も受け、技術力アップ
- ・ ソリューション提案力強化： 単品売りからの脱却
- ・ 客先情報収集： 顧客訪問（過去の中止/延期案件掘り起し）
景気回復後のご要求に対応出来る体制準備
- ・ 新規業界/顧客/地域等の開拓

自動車 部会

溝口 イサオ 部会長

Departamento Automotivo

Presidente: Issao Mizoguchi

ブラジル日本商工会議所 業種別部会長シンポジウム 「自動車部会」レポート

2017年2月23日

＜2016年の回顧と2017年の展望＞

景気回復に向けて、今為すべきことは？

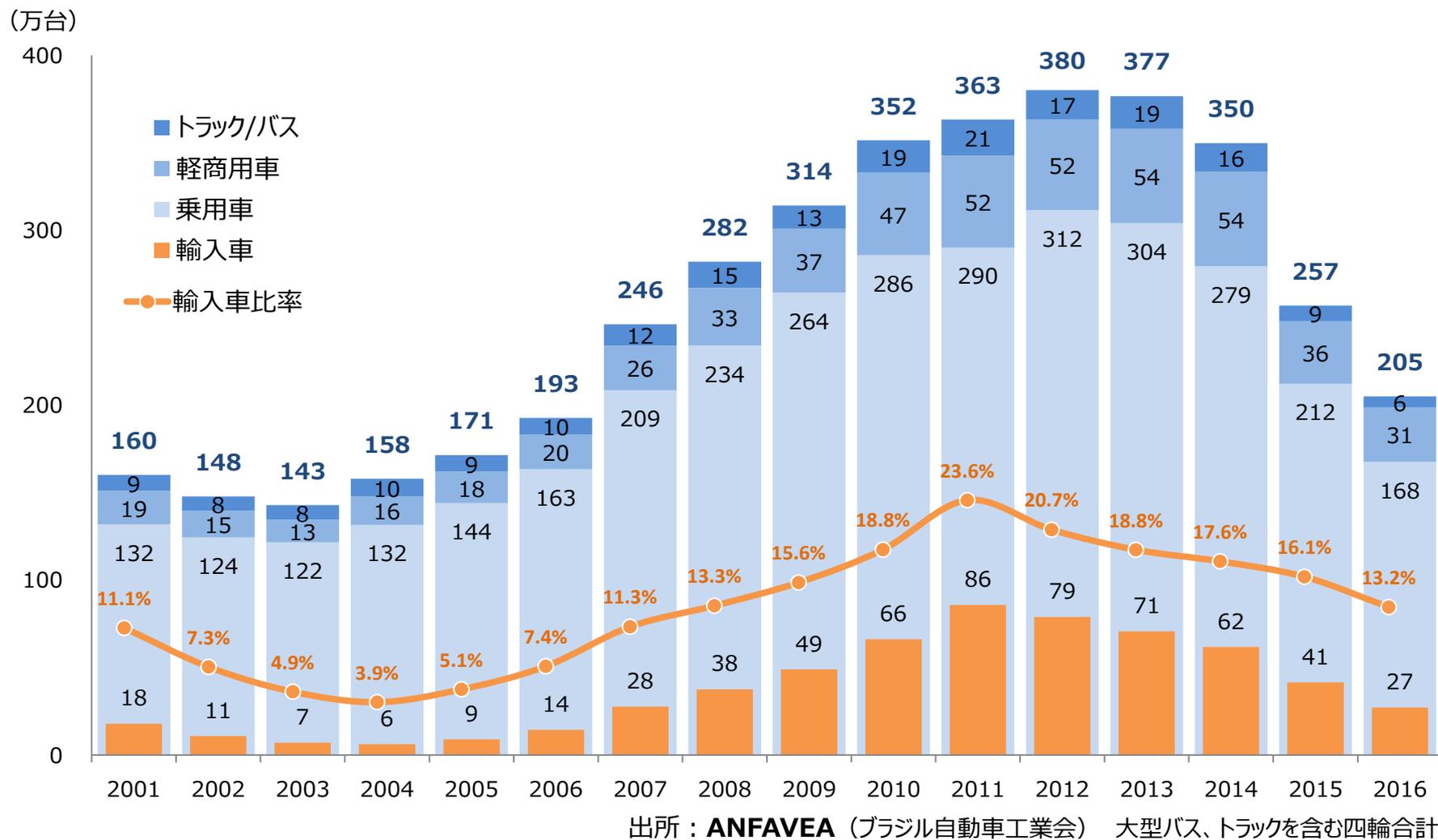
- 四輪業界動向
 1. 2016年 振り返り
 2. 2017年 展望
 3. 長期展望
 4. 日系ブランド課題への対応
 5. 総括

- 二輪業界動向

四輪業界動向

1. 2016年振り返り
2. 2017年展望
3. 長期展望
4. 日系ブランド課題への対応
5. 総括

1. 2016年 振り返り - 販売台数 推移

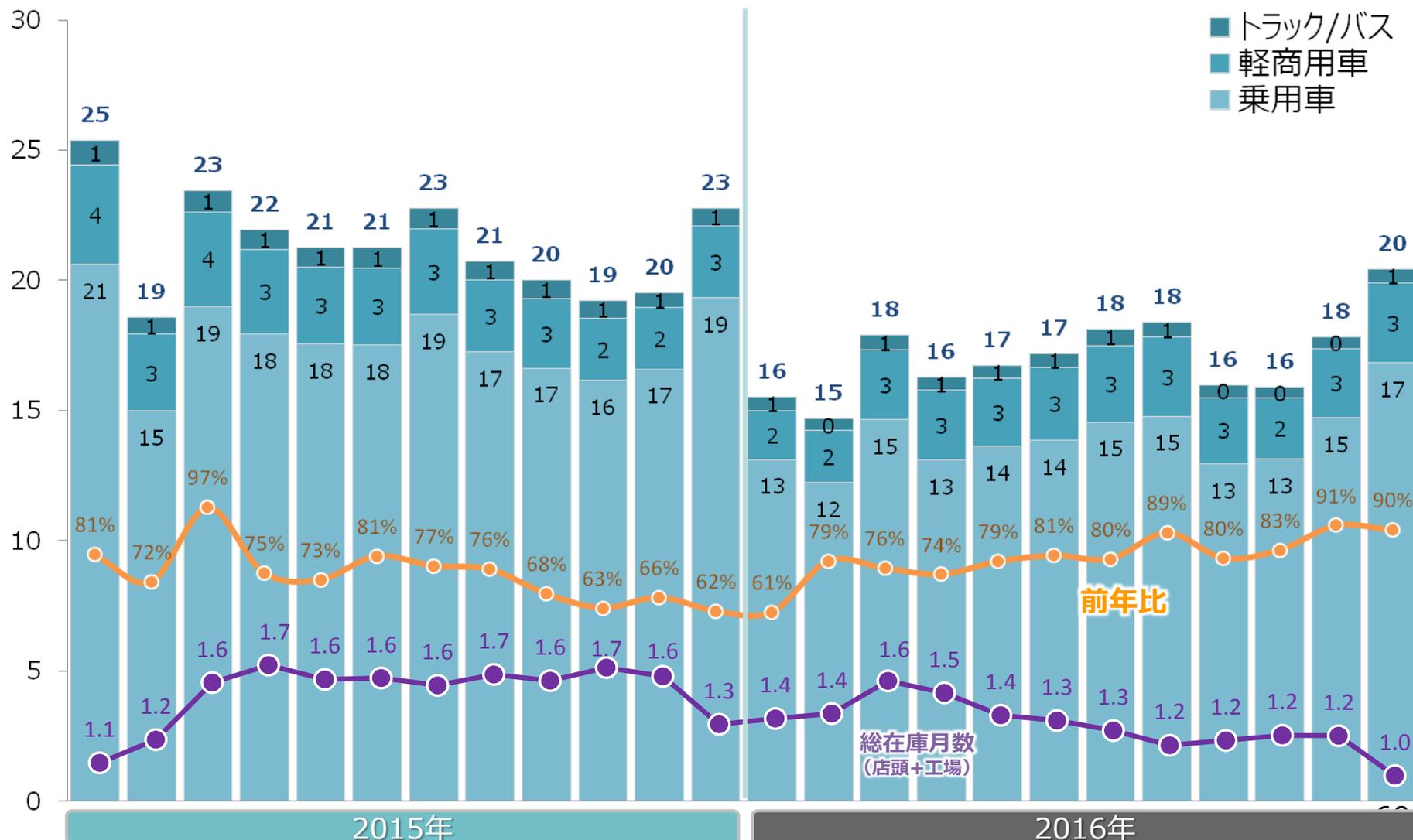


- 2016年四輪総市場は約205万台(前年比 約80%)と4年連続の減
- 輸入車比率も13.2%と5年連続で低下

1. 2016年 振り返り 一月別販売台数 推移

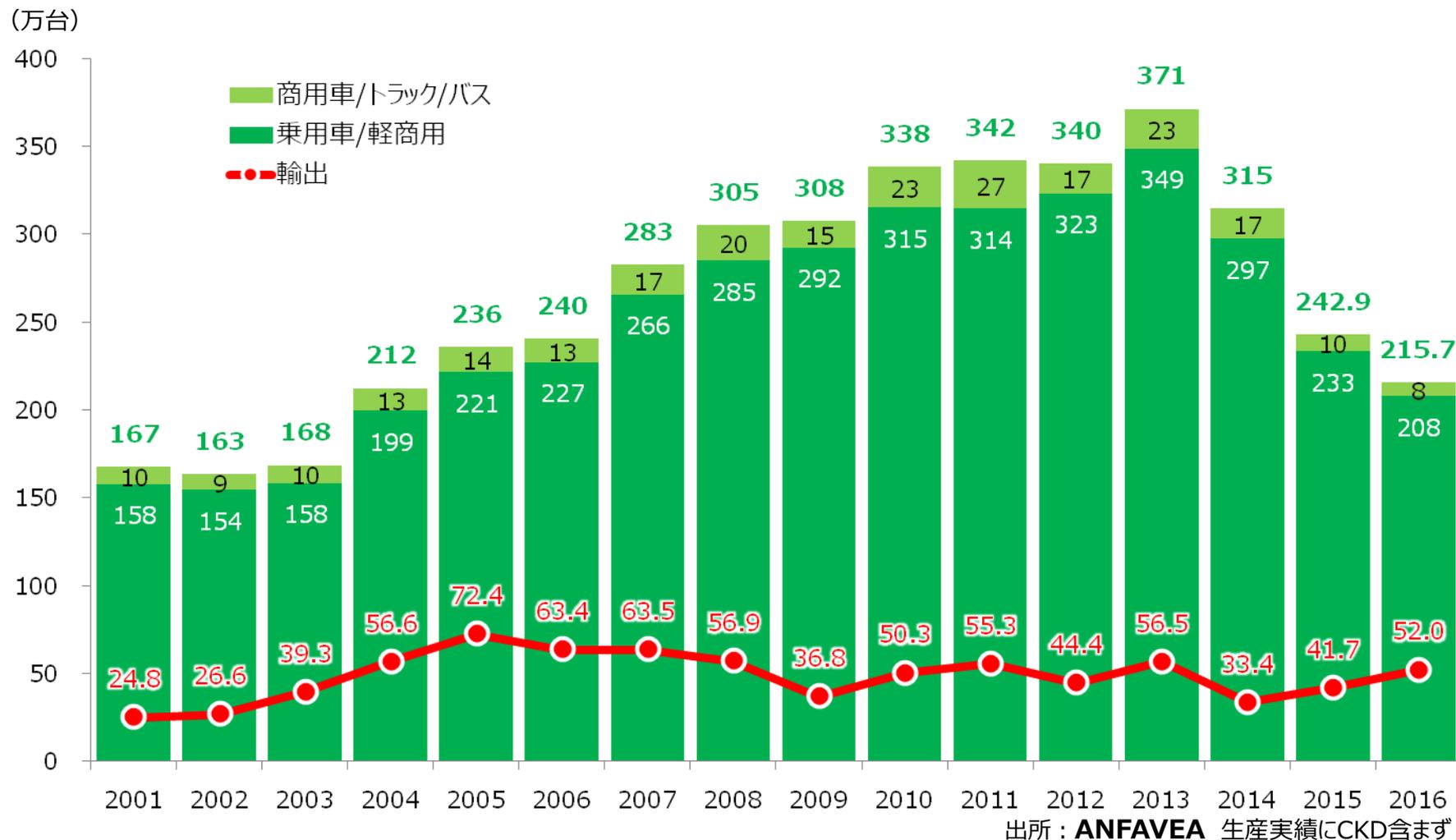
(万台)

出典：ANFAVEA 大型バス、トラックを含む四輪合計



- 2016年1月以降、景況感のさらなる悪化、失業率上昇等の影響により、前年に比べ販売が減少
- 在庫月数は1か月前半で推移。各社生産調整により在庫調整は一巡

1. 2016年 振り返り – 生産・輸出台数 推移



- 2016年の総生産台数は約215.7万台（前年同期比：88.8%）
- 一部メーカーで引き続き生産調整を実施するも、レイオフ・解雇などは上期に比べ減少
- レアル安の影響で輸出増加（前年同期比：124.7%）

1. 2016年 振り返り - 輸出台数 詳細

◆ カテゴリー別 輸出概要 (単位：台)

出所：ANFAVEA/MDIC

カテゴリー	2015年	2016年	差違	前年比
乗用車	316,531	410,153	+93,616	+29.6%
ライトトラック	72,230	78,903	+6,417	+9.2%
トラック	20,869	21,470	+486	+2.9%
バス	7,325	9,760	+2,435	+33.2%
合計	416,955	520,286	+102,954	+24.8%

◆ 輸出相手国別 輸出金額 (CKD含む)

2015年		
	輸出相手国	FOB(百万ドル)
1	アルゼンチン 	1,660
2	メキシコ 	161
3	インドネシア 	66
4	サウジアラビア* 	55
5	コロンビア 	51

2016年			
	輸出相手国	FOB(百万ドル)	前年比
1	アルゼンチン 	3,173	+25%
2	アメリカ合衆国 	242	+3585%
3	メキシコ 	234	-17%
4	チリ 	127	+198%
5	コロンビア 	117	+84%

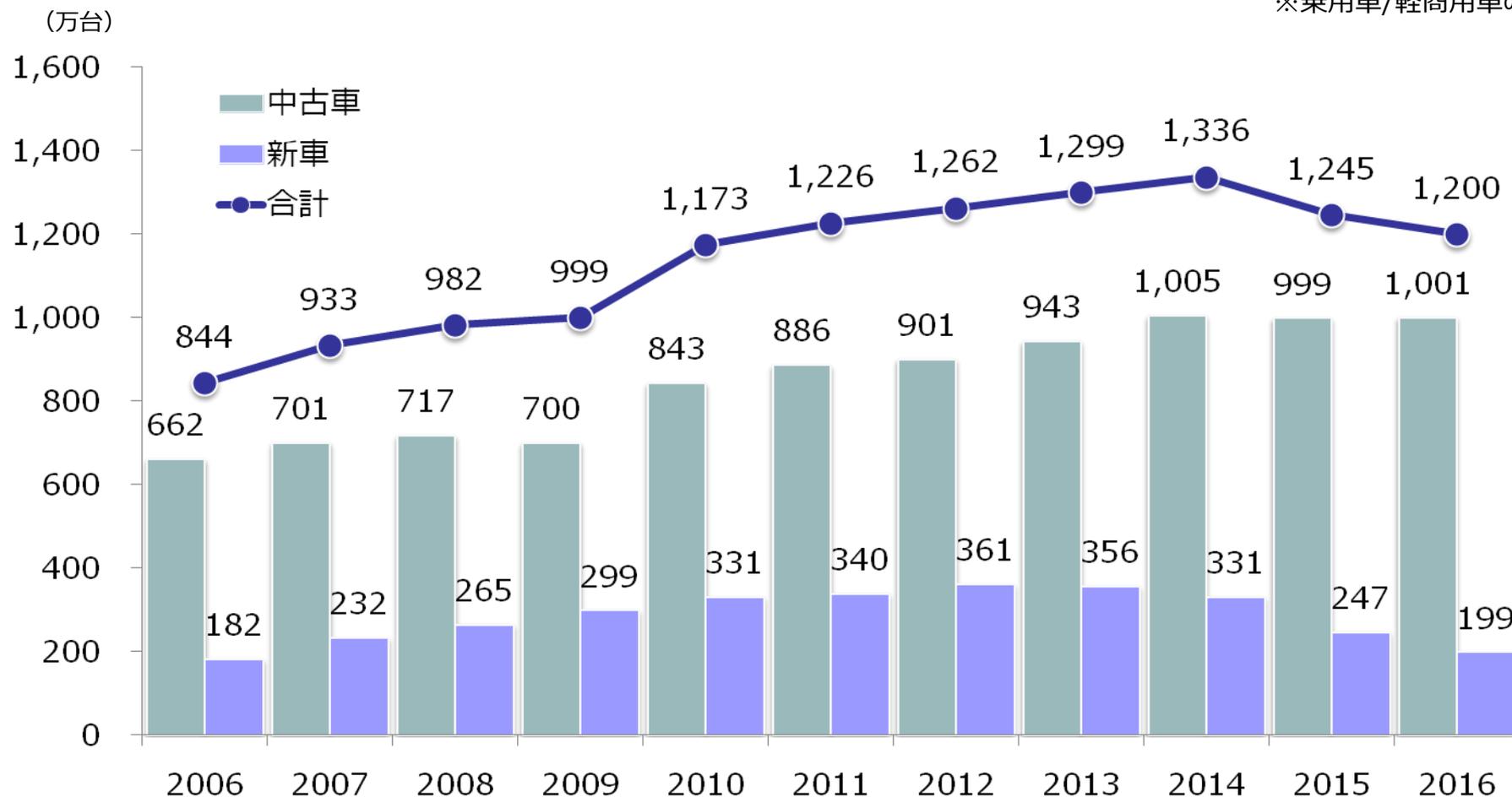
* サウジアラビアへの軍事車輛等

➤ 各社輸出に力を入れ、前年比で大幅にプラスとなるも、国内販売の落ち込みをカバーするには不十分

1. 2016年 振り返り – 自動車業界(中古・新車)

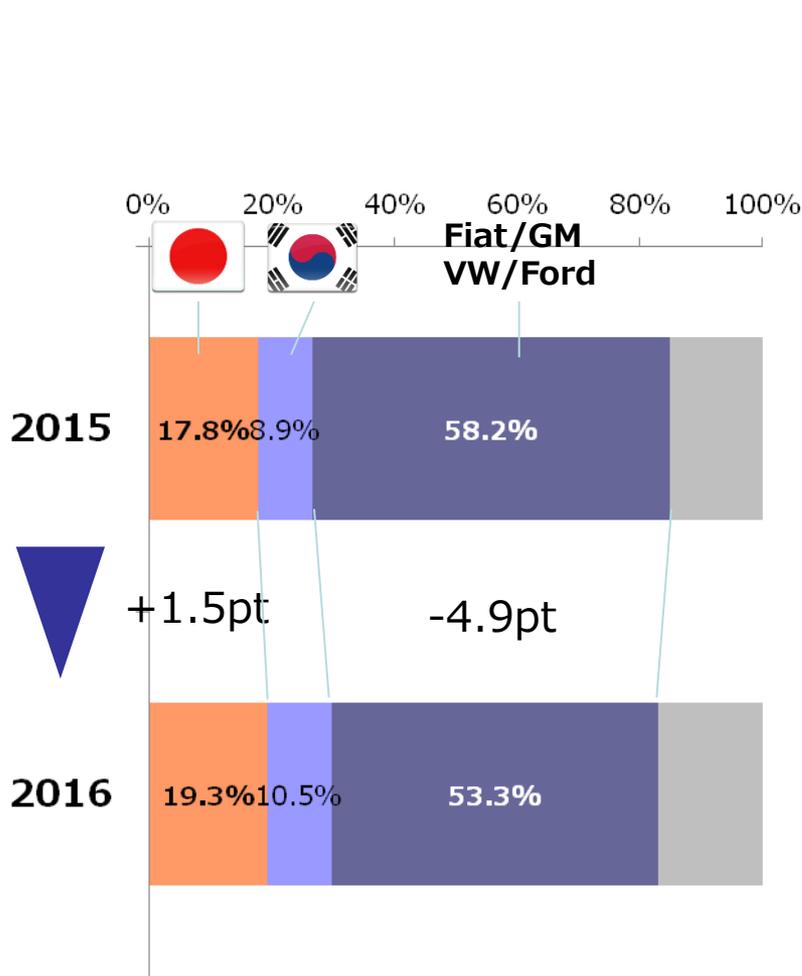
出典：FENABRAVE/ ANFAVEA

※乗用車/軽商用車のみ



➤ 新車市場が大きく落ち込む中、中古車市場は横ばいで推移。年間約1,000万台の規模を維持。

1. 2016年 振り返り - 日系ブランドの健闘



出所：ANFAVEA (バス・トラックを除く)

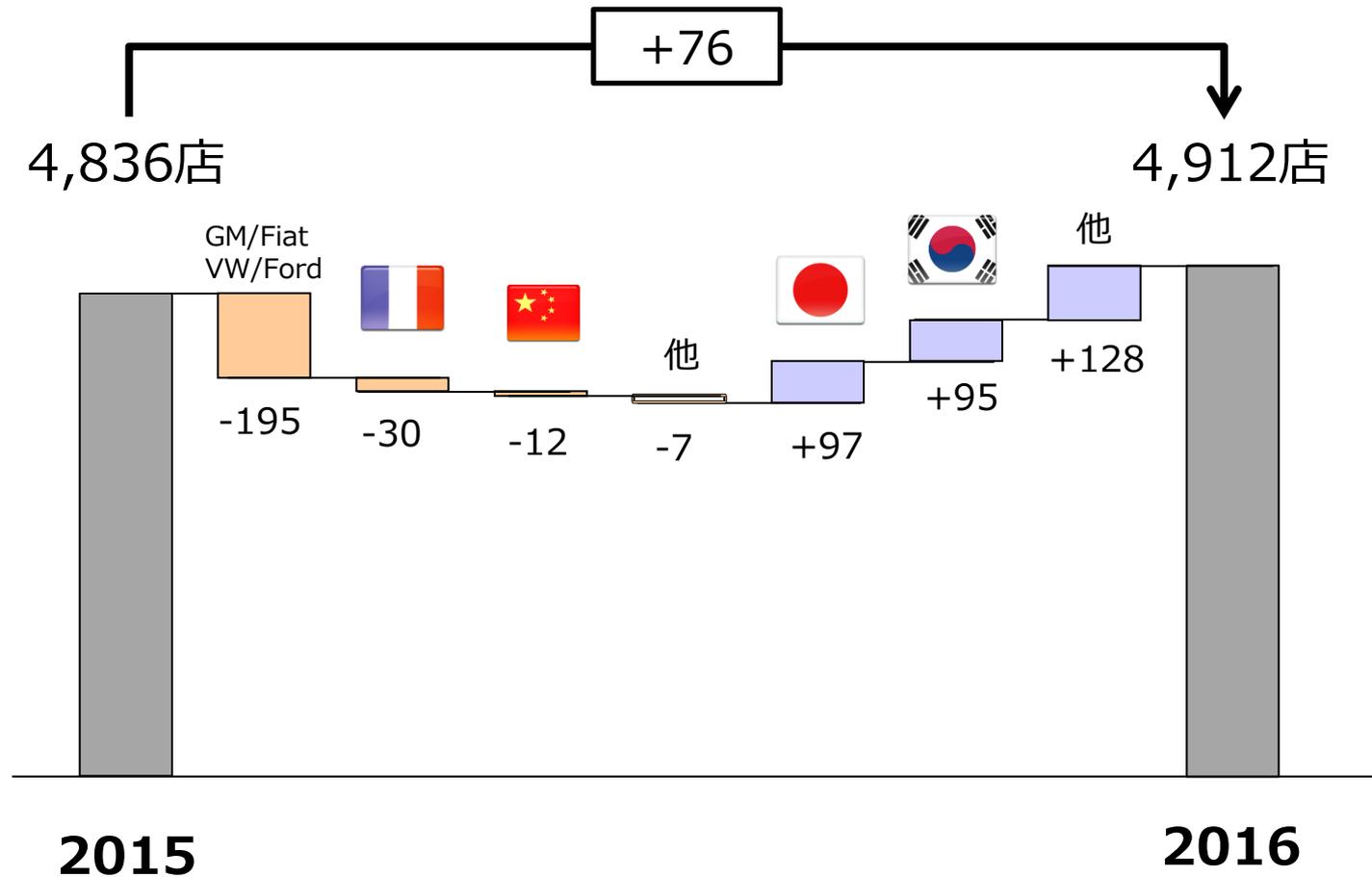
	'15	台数	シェア
1		436	17.7%
2		388	15.7%
3		360	14.6%
4		254	10.3%
5		205	8.3%
6		178	7.2%
7		176	7.1%
8		153	6.2%
9		61	2.4%
10	Jeep	42	1.7%

	'16	台数	シェア
1		346	17.4%
2		305	15.3%
3		228	11.5%
4		198	9.9%
5		180	9.1%
6		180	9.1%
7		150	7.5%
8		123	6.2%
9		61	3.1%
10	Jeep	59	3.0%

- 長期にわたって変動のなかったTop4ブランドからFordが6位に転落。Top4シェア過半数割れ目前。
- 一方日系及び韓国ブランドは健闘し、着実にシェアを拡大

1. 2016年 振り返り - 日系ブランドの健闘

Data:新車販売店(Honda調べ)



- Big 4が多くの販売店を閉鎖する一方、日系ブランド、韓国ブランドは販売網を拡大
- 市場全体としては、前年比で販売店数増

1. 2016年 振り返り – Sao Paulo Motor Show



SALÃO INTERNACIONAL
DO AUTOMÓVEL DE SÃO PAULO
2016

第29回 サンパウロモーターショー

1960年より、隔年で開催される「南米最大」の四輪Motor Show

来場者：71.5万人 (2014年：75.6万人 ▲5.4%)

出展企業：546社 (内完成車メーカー：30社) Press Day:11月8日・9日 一般日:11月10～20日

■日系ブランド 発表概要



CH-R (Concept)

主な展示
CH-R(Concept)
Corolla/Etios
Mirai(FCV)

Etiosの輸出拡大、
新車/中古の包括プログラム
などで更なる事業強化を狙う



Kicks

主な展示
Kicks/Frontier
March
VGT 2020 (concept)

Kicksのブラジル生産と
new Frontierで
シェア拡大を狙う



WR-V

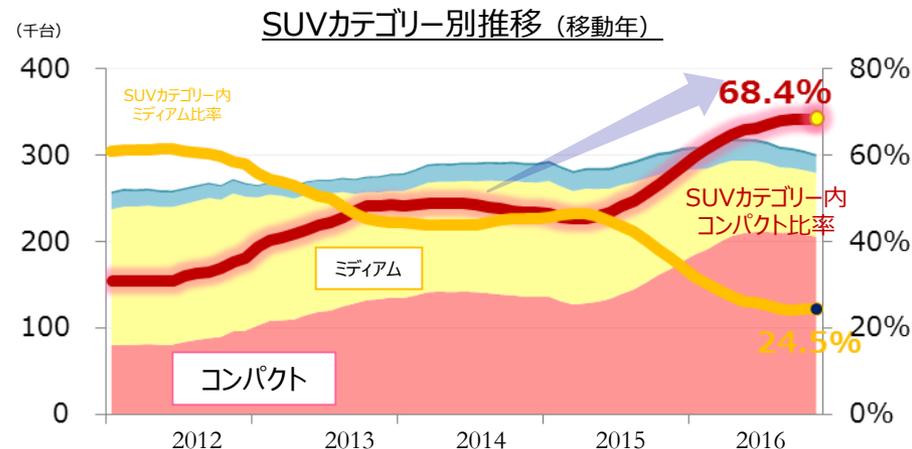
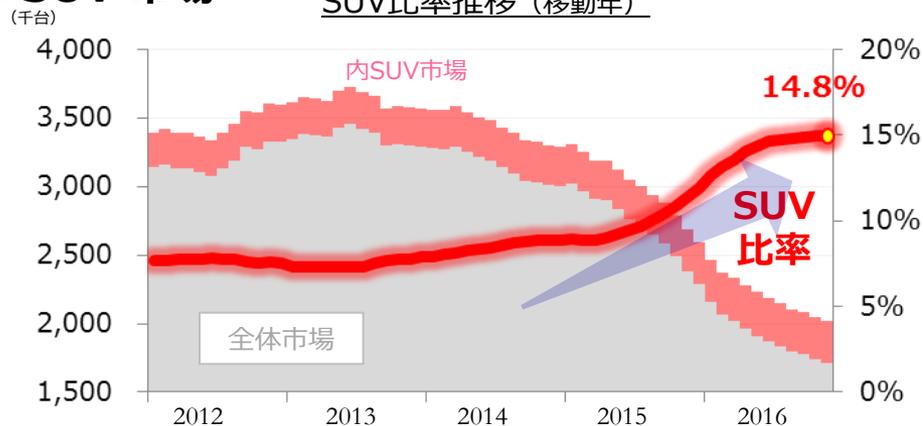
主な展示
WR-V
Civic
Clarity Fuel Cell (FCV)
MP4-31 (F1)

ブラジル開発のWR-V
により南米市場での
競争力強化を狙う

新車発表に加え、先進環境安全技術やコンセプトカーを日系ブランドが積極的に展示。
来場者、メディアの注目を集めた。

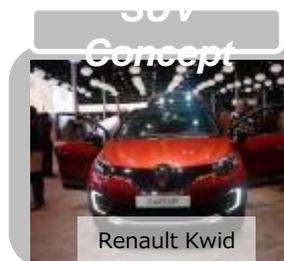
1. 2016年 振り返り – Sao Paulo Motor Show

■ SUV 市場



2013年以降、全体市場が落ち込む中、SUVセグメントは拡大傾向。

■ 注目SUV



各社堅調なSUV市場に積極的にモデルを展開。厳しい市場の中、SUV市場は今後も拡大傾向。

四輪業界動向

1. 2016年振り返り
2. 2017年展望
3. 長期展望
4. 日系ブランド課題への対応
5. 総括

2. 2017年展望 – 経済

Data : Banco Central do Brasil
(As of January, 27th 2017)

◆ブラジル経済指数

	2012	2013	2014	2015	2016	2017 Forecast
実質経済成長率 GDP (%)	1.0	2.5	0.1	-3.8	Forecast -3.3*	0.5
為替 年末予想 (BRL/USD)	2.05	2.36	2.66	3.90	3.34	3.4
インフレ (IPCA - %)	5.8	5.9	6.4	10.67	6.3	4.7
金利 (SELIC) 年末予想 (%)	7.25	10.00	11.75	14.25	13.75	9.5

- 2017年GDP成長率はプラス予想
- インフレは5%を下回る水準となる予想。金利は9.5%まで下げられる見込み。
- 対ドルレートは2016年末と同水準と予測

2. 2017年展望 – 自動車業界

出典：ANFAVEA 生産実績にCKD含まず

◆ ブラジル市場・輸出・生産の2017年予測

単位：万台

		2016年 中間修正予測		2016年 最終結果	2017年予測	
		ANFAVEA (6月6日発表)	自動車部会		ANFAVEA (1月5日発表)	自動車部会
国内 市場	トラック・バス 含む総合計	208.0 前年比：-19.0%	—	205.0 前年比：-20.2%	213.0 前年比：+4.0%	210.3 前年比：+2.4%
	トラック・バス 除く合計	201.4 前年比：-18.8%	200.0 前年比：-19.4%	198.9 前年比：-19.8%	206.7 前年比：+3.9%	204.0 前年比：+2.6%
輸出台数		50.7 前年比：+21.5%	-	52.0 前年比：+24.7%	55.8 前年比：+7.2%	-
生産台数		229.6 前年比：-5.5%	230.0 前年比：-5.3%	215.7 前年比：-11.2%	241.0 前年比：+11.9%	241.0 前年比：+11.9%

- 経済環境の回復予想に伴い、ANFAVEAは2017年 販売台数予測を約213万台（前年比：+4%）と市場が5年ぶりに増加に転じると予想
- 輸出は、レアル安などにより増加した昨年をさらに上回ると予想
- 国内市場の回復、および輸出台数増により、生産台数は前年比 +12%となる見込み

四輪業界動向

1. 2016年振り返り
2. 2017年展望
3. **長期展望**
4. 日系ブランド課題への対応
5. 総括

3.長期展望 – 経済指標

◆ GDP成長率

Bank	2015*	2016	2017	2018	2019	2020
 BANCO CENTRAL DO BRASIL	-3.8	-3.6	0.5	2.2		
 Santander	-3.8	-3.6	0.7	3.0	3.0	3.0
 Itau	-3.8	-3.4	1.0	4.0	3.0	3.1
 Bradesco	-3.8	-3.6	0.3	2.5	3.0	3.0
今回平均	-3.8	-3.6	0.6	2.9	3.0	3.0
前回平均	-3.8	-3.4	1.4	3.3	3.6	3.2
差異	0.0	-0.2	-0.8	-0.4	-0.6	-0.2

◆ インフレ率

Bank	2015*	2016	2017	2018	2019	2020
 BANCO CENTRAL DO BRASIL	10.67	6.30	4.70	4.50		
 Santander	10.67	6.30	4.80	4.50	4.50	4.50
 Itau	10.67	6.30	4.70	4.00	3.90	3.90
 Bradesco	10.67	6.30	4.54	4.54	4.50	4.50
今回平均	10.67	6.30	4.69	4.39	4.30	4.30
前回平均	10.67	6.98	4.96	4.57	4.39	4.45
差異	0.0	-0.7	-0.3	-0.2	-0.1	-0.2

◆ FX Rate (BRL/USD)

Bank	2015	2016E	2017E	2018E	2019E	2020E
 BANCO CENTRAL DO BRASIL	3.90	3.26	3.40	3.50		
 Santander	3.90	3.26	3.75	3.84	3.94	4.03
 Itau	3.90	3.26	3.50	3.50	3.55	3.65
 Bradesco	3.90	3.26	3.50	3.60	3.70	3.80
今回平均	3.90	3.26	3.54	3.61	3.73	3.83
前回平均	3.90	3.36	3.56	3.69	3.76	3.83
差異	0.00	-0.10	-0.02	-0.08	-0.03	-0.01

◆ 金利 (SELIC)

Bank	2015*	2016	2017	2018	2019	2020
 BANCO CENTRAL DO BRASIL	14.25	13.75	9.50	9.00		
 Santander	14.25	13.75	9.75	8.50	8.50	8.50
 Itau	14.25	13.75	9.75	8.50	7.25	7.00
 Bradesco	14.25	13.75	10.25	9.25	9.25	8.75
今回平均	14.25	13.75	9.81	8.81	8.33	8.08
前回平均	14.25	13.19	10.31	8.92	8.67	8.83
差異	0.0	0.5	-0.5	-0.1	-0.3	-0.8

- 各行、GDP成長率は半年前の予想より下方修正する一方、インフレ率と金利は直近のトレンドを受け前回予想より低下
- 2016年を底として緩やかな回復傾向を予想

3. 長期展望 – ブラジル自動車市場

前回見直し

現状の販売状況、および長期経済指標などを総合的に見た場合

ブラジル自動車市場が回復に転ずるのは2017年以降と予想

今回見直し

現状の販売状況、および長期経済指標などを総合的に見た場合

ブラジル自動車市場は底打ち状態にあり、

回復に転ずるのは2017年後半～2018年と予想

四輪業界動向

1. 2016年振り返り
2. 2017年展望
3. 長期展望
4. 日系ブランド課題への対応
5. 総括

4. 日系ブランド 課題への対応

日系ブランドの課題

自動車部会にて
整理した課題と対応

① 厳しい状況に対する事業体質の強化

現地生産と現地開発の強化

エンジンベンチ&エンジン工場の新設（トヨタ）
⇒**エンジン工場の増強**

Sumare工場 SEDBA集約（ホンダ）
⇒**地域に向けたモデル開発**

② 市場回復時の飛躍につながるブランド強化

環境安全規制強化とその対応

4. 日系ブランド 課題への対応 – 現地生産と現地開発の強化

背景

- 部品の現調率を向上するためにサプライヤーの技術力の育成が課題
- エンジンの現地生産は現調率向上への重要案件
- ブラジル市場により適した車の開発が課題



5月10日 中南米地域で初となるトヨタエンジン工場の開所式を実施

- 所在地： サンパウロ州ポルトフェリス市
- 生産能力： 年産10.8万基
- 従業員数： 約320名
- 投資額： 約180億円（約5.8億レアル）
- 生産エンジン： 排気量1.3Lと1.5LのNRエンジン（エティオス搭載用）



「シンプル＆スリム」「フレキシブル」をキーワードに、日本の工場でも導入を進めている革新的生産技術を導入。その結果、エンジン工場の主要工程（鋳造・機械加工・組み付け）を一つの建屋に集約し、コンパクトで需要変動に強い工場が完成。

11月 エンジン新工場(ポルトフェリス)の能拡を発表

投資額:600百万レアル⇒投資額を計1,180百万レアルに倍増
エティオスのエンジンに加え、19年下期からカローラのエンジンを生産。
現状108K基/年産⇒174K基/年産。



期待される効果：

- エンジン部品の現調率向上により、為替の影響とコストの低減を目指す
- ブラジルのお客様により適した商品の提供
- サンベルナルド工場におけるエンジンベンチ新設と併せた現調化のスピードアップ、およびローカル・サプライヤーの育成と技術力向上

4. 日系ブランド 課題への対応 — 現地生産と現地開発の強化

研究所 建屋 [スマレ]



- 2013年10月、四輪研究所をサンパウロ市内からスマレ工場敷地内へ移転
- お客様が求める商品をよりスピーディに開発・生産



2014年10月 スマレ工場内にSEDBAの機能を集約

S: Sales/ E: Engineering/ D: Development
B: Buying/ A: Administration



南米地域に向けたコンパクトSUV「WR-V」をブラジルで開発・生産・輸出

- 地域市場に根差した商品開発・生産を行うことにより、市場での競争力を強化
- 現調化や輸出含め、事業体質の強化を推進

四輪業界動向

1. 2016年振り返り
2. 2017年展望
3. 長期展望
4. 日系ブランド課題への対応
5. 総括

5. 総括 ーまとめ

2016年実績/ 2017年展望

- ジウマ大統領の弾劾手続き継続が採択された4月以降、一部経済指標で若干の改善が見られる。
- 2016年後半以降、経済回復に向けた具体的な消費刺激策が打ち出されており、自動車業界においても底打ち状態からの回復が期待される。
- 一方で、消費者購買意欲は上向きにはならず、需要停滞継続。

状況を踏まえた対応

- 一部経済指標で回復の兆しが見られるものの、急激な変化が今後も起こり得るという前提の下、中長期の方向性は変えず、環境変化に負けない事業体質強化が引き続き求められる。
- 為替対応を踏まえた部品現調化や生産性向上などにより、コスト低減、および輸出促進を図る。
- 現調化や輸出のさらなる加速には、ブラジルの国際的コスト競争力向上が鍵となる
- 税制改革や裾野産業の育成など、低いコスト競争力を打開する恒久的な取組みが官民連携の下で必要

5. 総括（政府への提言）

政府および自動車業界の取り組みと課題

1) 新技術導入を促進する適切な自動車政策

- 新技術を搭載した商品のブラジルのお客様への提供、ブラジルへの新技術集積

2) 自由貿易政策／輸出促進政策

- ブラジル製車両の輸出拡大に向け、短期の経済情勢や貿易収支動向に影響を受けない一貫した政策の継続

3) 人材育成

- エンジニアや熟練労働者等、技術開発やモノづくりの分野でリーダーシップを発揮できる人材育成

4) 協調的な労使関係

- 生産性向上、および持続的成長に向けた労使協力
（労働環境の改善、柔軟な生産弾力性の確保）

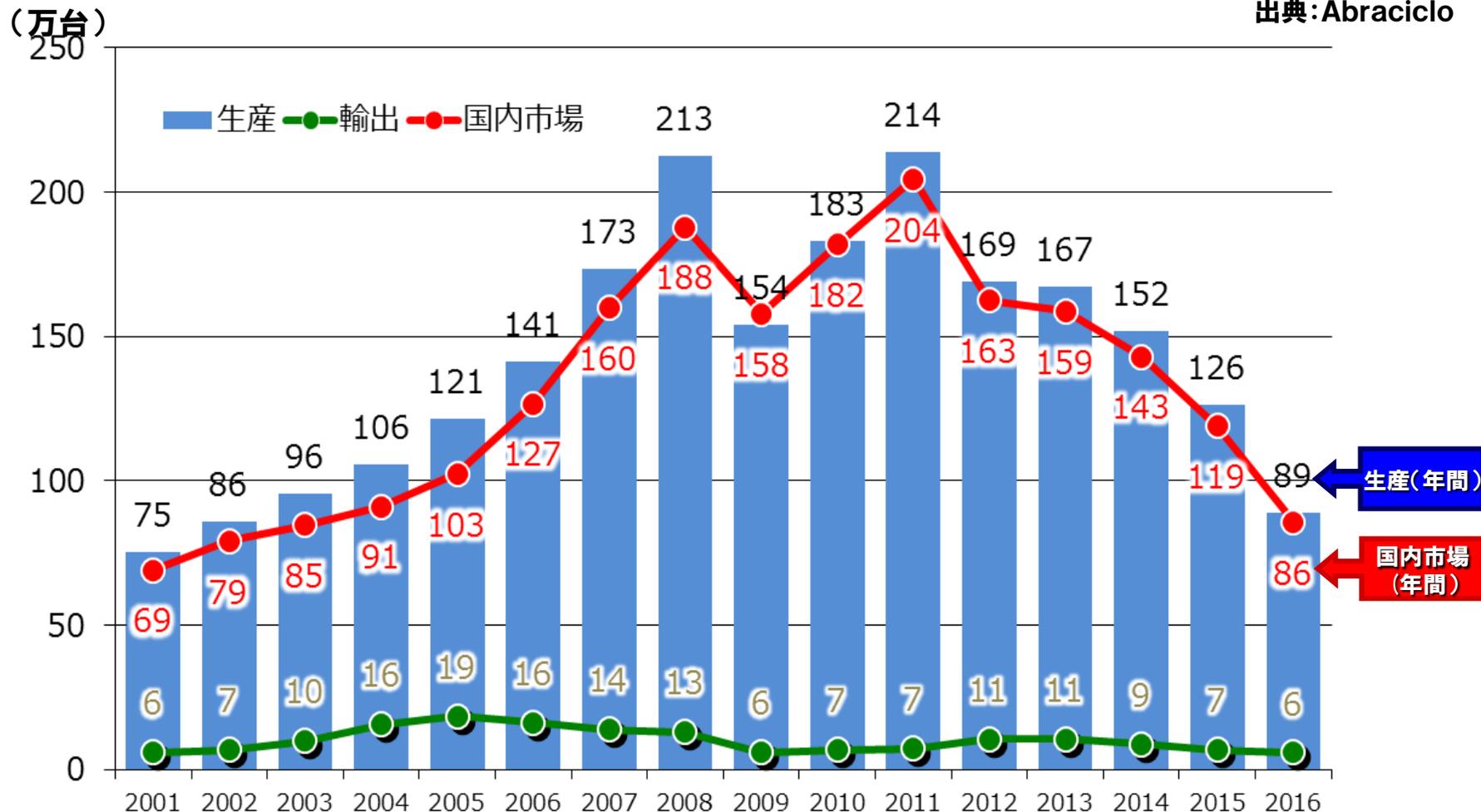
5) 人的交流

- 日伯関係のベースは人的交流

二輪業界動向

二輪車 生産・販売 推移

出典:Abraciclo



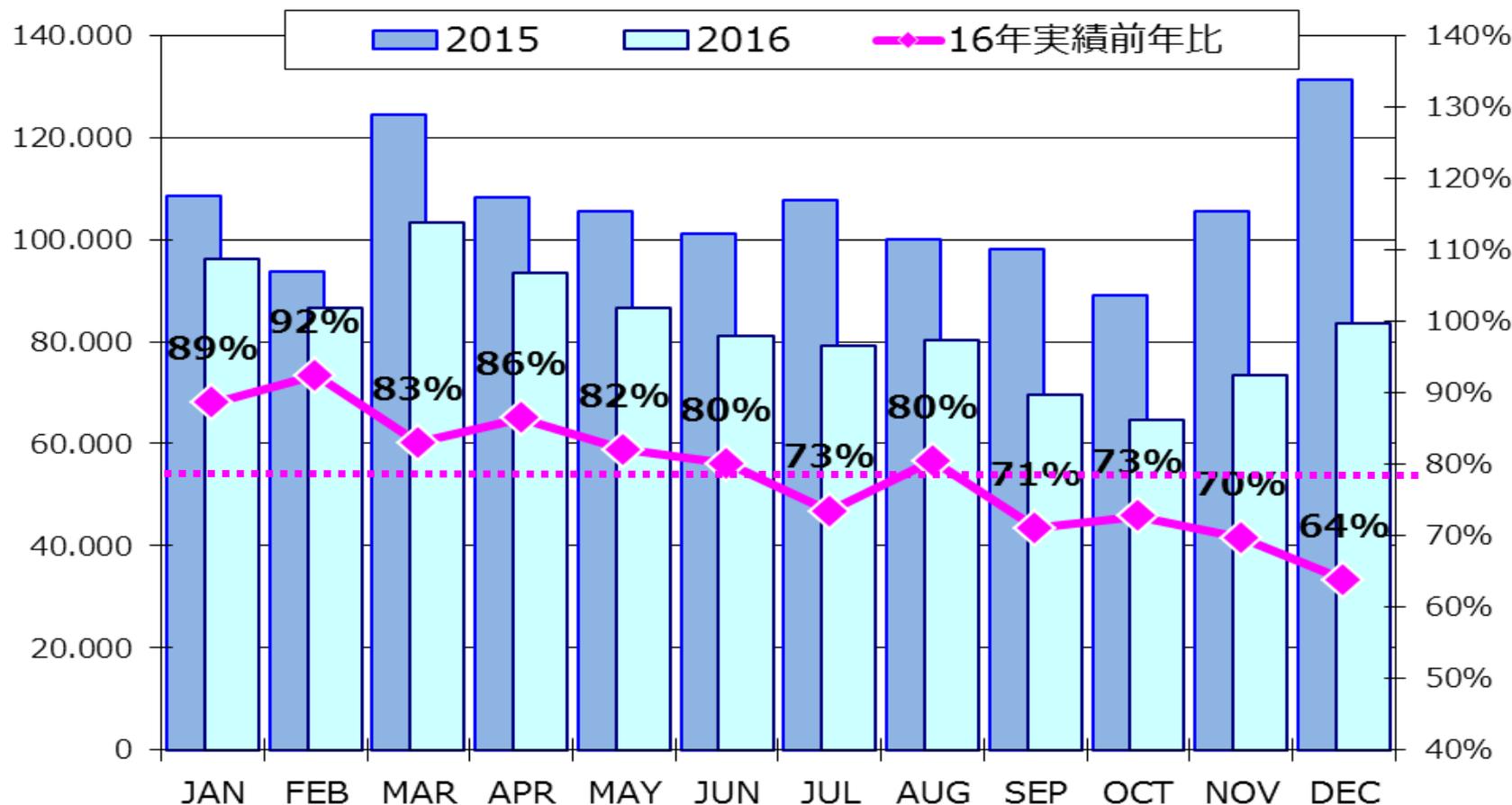
2016年実績

卸 86万台 (前年比72%)
 生産 89万台 (前年比70%)
 輸出 6万台 (前年比85%)

長引く不況や解雇増による将来への不安と購買力の低下により
 市場の落ち込みが加速し、卸 & 生産共に前年比7割となる。

二輪車 月別販売推移 (2015年vs2016年)

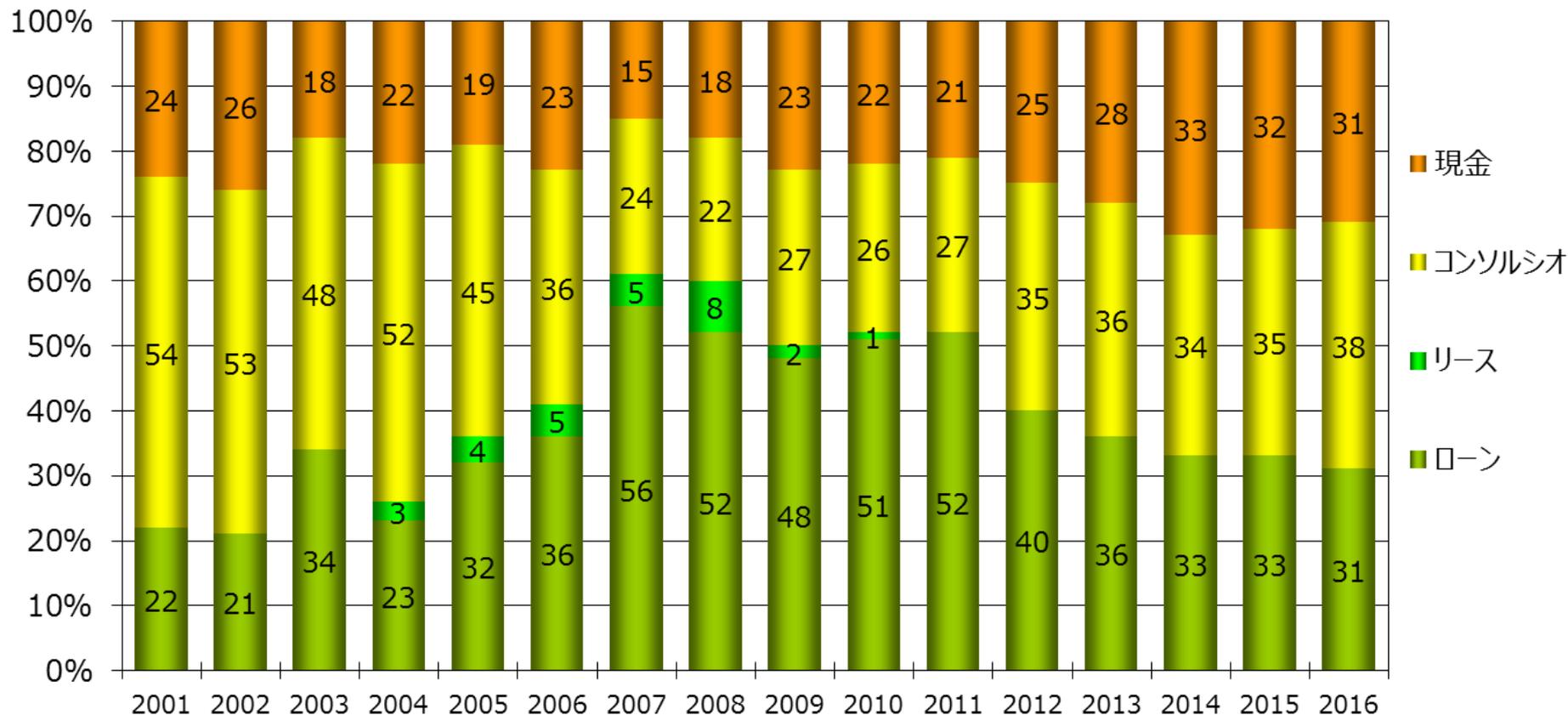
登録データ(DETRAN)



上期の前年比8割から月を追う毎に落ち込み、9月以降は更に落ち込みが加速、例年盛り上がりを見せる12月も回復の兆しが見えない状況。

二輪車 支払形態別 販売比率

※出典: ANEF(自動車メーカー系金融会社協会)



クレジット金利の上昇、可処分所得の低下によりローン申請数自体が減少。
 現金に分類されるディーラーローンも販売台数減少による資金繰りの悪化で減少。
 相対的にコンソルシオ比率は高まるも、バイクを引き取らず換金比率が高まっている状況。

Obrigado!

コンサルタント 部会

関根 実 副部長

Departamento de Consultoria e Assessoria

Vice Presidente: Minoru Sekine

「2016年の回顧と2017年の 展望」

副題:『景気回復に向けて、いま為すべきことは?』

コンサルタント部会

2015年-2016年は為替の影響と輸入の減少でブラジルは自国最高の貿易収支を計上

輸出額でみた三大輸出品目

2015-2016年全体に占める%*

大豆



16.1%

輸送機器・部品



11.4%

金属、鉱物

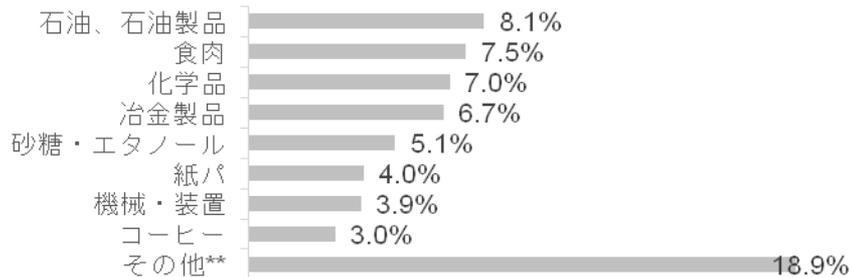


8.4%

注: *2016年10月現在 出所: Industry, External Trade and Services Ministry, 2016.

5つの商品グループが2015年の1月-2016年10月にブラジルの輸出の半分を占める: 鉄鉱石、大豆、原油、砂糖、食肉。

品目別に見る物品6位以下の輸出実績 2015/16^[1]



注: * 2016年10月現在 出所: Industry, External Trade and Services Ministry, 2016.

ブラジルの総合貿易収支*, US\$B



注: * 物とサービス 出所: Oxford Economics, 2016

物品の輸出 US\$B

153.086

↓ -4.6% 2015/1月-2016/10月

物品の輸入 US\$B

114.562

↓ -22.7% 2015/1月-2016/10月

サービスの輸出 US\$B

33.646

↓ -0.4% 2015/1月-2016/10月

サービスの輸入 US\$B

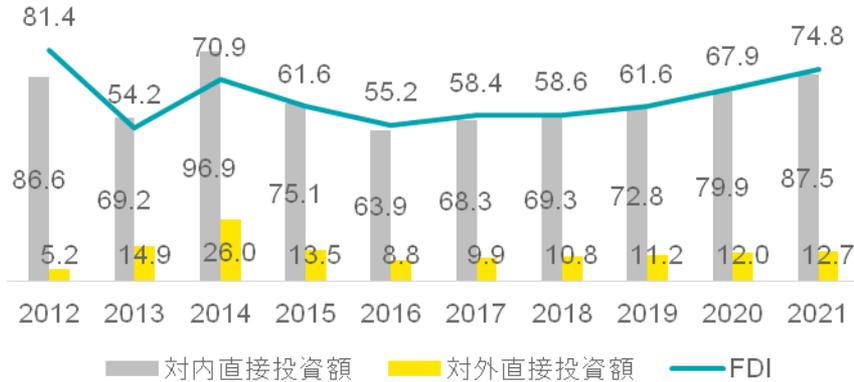
63.382

↓ -10.3% 2015/1月-2016/10月

出所: Industry, External Trade and Services Ministry, 2016. Oxford Economics, 2016.

他のラ米諸国と比べて持続するブラジルの外国直接投資(FDI)

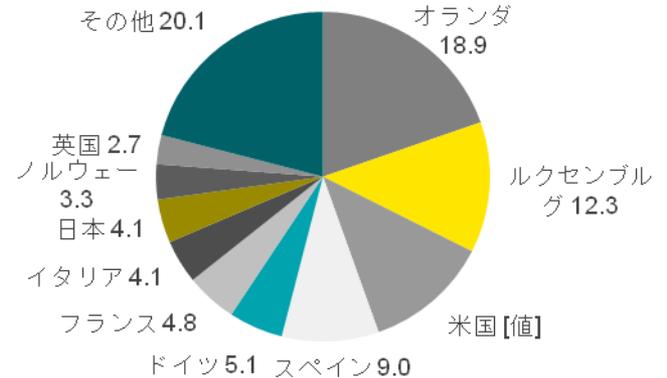
外国直接投資：キャピタルフロー US\$B



出所: Oxford Economics, 2016.

- ▶ ブラジルの深刻な不景気にもかかわらず多額の外国からの投資は止まっておらず、苦境時でも世界では同国が高い魅力を持つことを示す。
- ▶ ブラジルへの最近の主要投資案件は高速道路、電力事業及びテレコム分野に見られた。投資が極めて少ないのは空港、鉄道や港湾であり全FDI額の15%に過ぎない。
- ▶ 2016年9月中国でのG20 首脳会議においてエンリケ・メイレーレス財務大臣はUS\$269B のインフラ・プロジェクト計画を発表したことで空港、鉄道や港湾への投資増大が期待される。

投資国別FDI, 2015/16, US\$

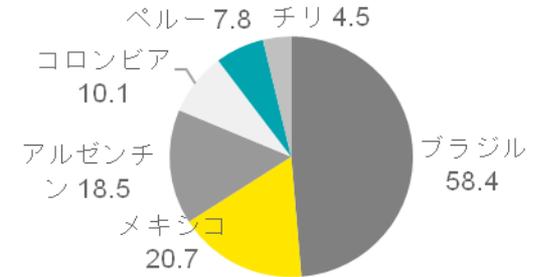


注 * 2015年から2016年10月までの累積FDI 額 出所: BCB, 2016.

2015-16年ブラジルへの最も投資したのは欧州連合 (EU)。大半はサービス業への投資。

2017年もブラジルはラ米諸国の中で最大のFDI 投資先になる見通し。

ラ米におけるFDI 2017年, US\$B



出所: Oxford Economics, 2016.

構造改革を必要としているがブラジルは世界で最も魅力的な投資先

経済成長の原動力

1 – 政治的、制度的な環境



政権が変わったことによるビジネス信頼度の向上で投資の増大が見込める。



エンリケ・メイレーレスによる「オーソドックス」なマクロ経済政策で市場の乱高下は減少。



新たな憲法改正で2016年末に公共支出の凍結が承認。



財政赤字を長期的に均衡に戻すために不可欠な年金制度改革は2017年に実現化する可能性が高い。



新国際貿易政策では新しい二国間および地域間（EU等）貿易協定を主要経済と追求する見込み。

2 – 経済環境



新しいコンセッションと民営化計画では2018年までにBRL1104億（～US\$330億）が提示。



ブラジルの中央銀行は基準金利の金融緩和サイクルを始め2017年の資本コストは低下。



産業活動は2016年にどん底に陥ったが2017年にはビジネスマインドは緩やかな回復へと移行。

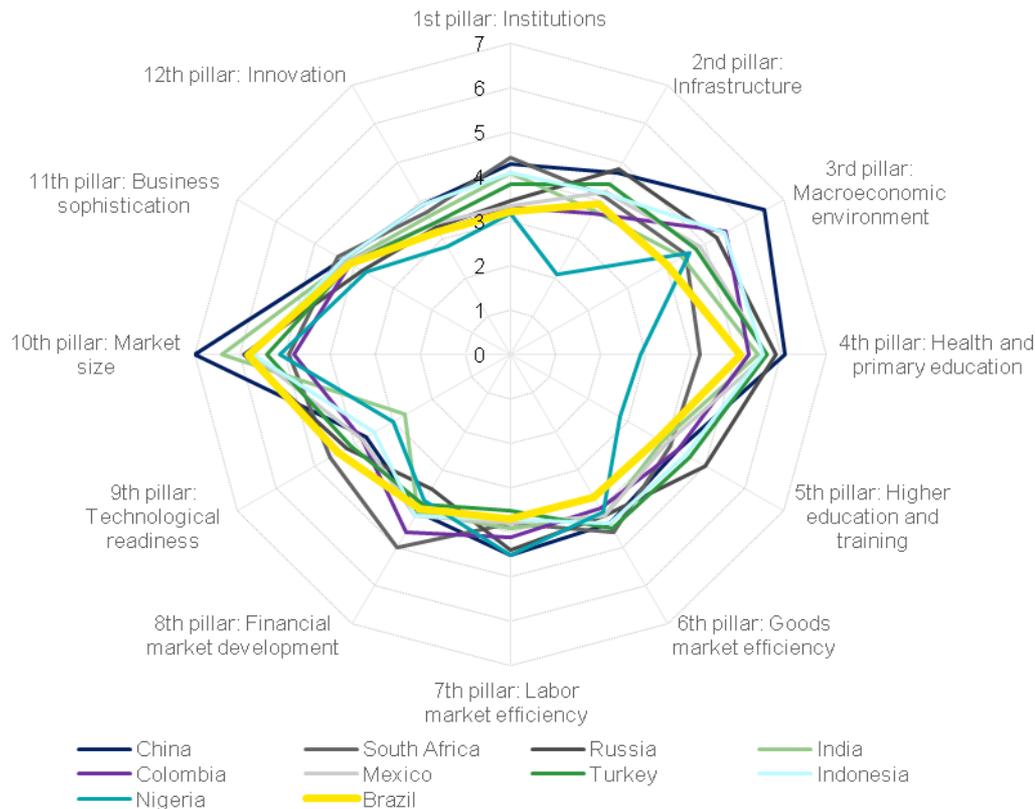


ブラジルはラ米で最大のFDIシェアを持つ。2017年には世界で7番目に多くのFDI額を得ると見られている。



巨大な消費者ベースがあり豊富な炭化水素、鉱物、農業資源を有する。

Global competitiveness analysis



- ▶ The *Global Competitiveness Report 2016-2017* assesses the competitiveness landscape of 138 economies, providing insight into the drivers of their productivity and prosperity. The different aspects of competitiveness are captured in 12 pillars, which compose the Global Competitiveness Index.
- ▶ China ranks 28th and continues to lead the BRICS economies by a wide margin—well ahead of India (39th), Russia (43rd), South Africa (47th), and Brazil (81st).
- ▶ Brazil lost its 4th position among BRICS to India in 2015 and ranks 81st in the overall rank this year.
- ▶ Brazil's still-weak macroeconomic environment is negatively impacting the country's competitiveness: Corruption scandals have undermined trust in institutions (120st). Important reforms are also needed to provide higher-quality education (84th) and to increase the Brazilian infrastructure system (72nd).
- ▶ Brazil's most important competitiveness strength is its extremely large market size (8th).
- ▶ Addressing these weaknesses, for Brazil as for other BRICS economies, will require implementing reforms, winning political stability and engaging in productive investments.

M&Aバロメーター*

▶ ブラジル

- ▶ 30%は政治不安定はコアビジネスとM&A戦略にとってリスクである。
- ▶ 31%はブラジル経済にポジティブに期待している。6ヶ月前は3%であった。
- ▶ 6ヶ月間に比べ収益もあがり、短期市場安定や株式評価の向上をポジティブに期待している。
- ▶ ブラジルでは業務分野の融合(セクターコンバージョン)はデジタルテクノロジーの次に重要なアジェンダとしている。
- ▶ 但し、59%はオーガニックな形で拡大する予定である。
- ▶ 6ヶ月前は11%であったのに対し63%は国内のM&Aに前向きである。
- ▶ 42%はこの12ヶ月にM&Aすることを考えている。
- ▶ 73%は5件以上のパイプラインを持っている。
- ▶ 6ヶ月前は5%であったのに対し27%は過去12ヶ月に比べディールを前向きに考えている。

▶ 世界

- ▶ 57%がM&Aを前向きに考えているがJVなどパートナーシップを考えている。
- ▶ 企業が買収する資産についてはディスラプションを念頭に置きイノベーションは不可欠であるとしている。
- ▶ ディールは小さいのがパイプラインに多い
- ▶ セクターコンバージョンにより顧客重視、テ일러メイドのソリューションが求められている。

*EY監査法人で行われた顧客への調査

景気回復に向けて、いま為すべきことは？

▶ インフラ投資

▶ 経済回復計画

- ▶ 新政府は社会保障と労働法改正を提案
- ▶ 民間との提携インフラ特についても推進(特に空港、鉄道、水や電気事業など)
 - 契約法的拘束力
 - 民間の意見
 - 融資

▶ 戦略

- ▶ デジタルテクノロジー、業務分野の融合(セクターコンバージェンス)、アナリティック

▶ 労務ストラクチャリング

- ▶ ロボティックス

▶ DD慎重に

- ▶ 与信管理—無理な販売は回避
- ▶ キャッシュフローの管理強化

国外環境

Globalizationの反動

米欧の保護主義化

America First
Brexit

多国間協定 ➡ 二国間協定

ブラジル

日本

国内政治・社会混乱の終息化

社会正義 (Justiça Social)の醸成

左翼Populismの減退

構造改革の方向性
財政支出削減、民営化、
労働改革、社会保険改革

友好国



補完性

米中中心の貿易・投資の
多様化

資源・食料の供給源確保

製品・サービス販売市場の
多様化

地政学リスク（紛争）の
回避

親日国、日系社会の存在

コーヒーブレイク

COFFEE BREAK

後半司会

大久保 敦 企画戦略委員長

APRESENTADOR

**Presidente da Comissão
de Planejamento -
Estrategia**

Atsushi Okubo

化学品 部会

鎌倉 勇人 部会長

Departamento de Produtos Químicos

Presidente: Hayato Kamakura

化学品部会

Section of CChemicals

「2016年の回顧と2017年の展望」

副題：景気回復に向けて、いま為すべきことは？

2017年2月23日

発表：ThreeBond do Brasil 鎌倉 勇人

1. 化学品部会 会員企業・団体

会員数: 52社
(団体)

回答数: 28社

Adeka Brasil Representação Comercial Ltda.

Azbil do Brasil Automação Ltda.

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S.A.

Banco Sumitomo Mitsui Brasileiro S.A.

Bridgestone do Brasil Indústria e Comércio Ltda.

Celulose Nipo-Brasileira S.A. (Cenibra)

Daicolor do Brasil Indústria e Comércio Ltda.

EPCOS do Brasil Ltda.

FUJIFILM do Brasil Ltda.

Harima do Brasil Indústria Química Ltda.

Hisamitsu Farmacêutica do Brasil Ltda.

Honda Lock São Paulo Indústria e Comércio de Peças Ltda.

Idemitsu Lube South America Ltda.

Inabata Brasil Importação e Exportação Ltda.

Itochu Brasil S.A.

Jetro, São Paulo (Japan Trade Center)

JICA (São Paulo)

JX Nippon Oil & Energy Brasil Ltda.

Kaneka South America Representações Ltda.

K-I Chemical do Brasil Ltda.

Kisco do Brasil Comércio de Produtos Químicos Ltda.

Kito do Brasil Comércio de Talhas e Guindastes Ltda.

Kuraray South America Ltda.

Kurashiki Chemical Products do Brasil Ltda.

Kurita do Brasil Ltda.

Mitsubishi Corporation do Brasil S.A.

Mitsui & Co.(Brasil) S.A.

Mitsui Chemicals do Brasil Comércio

Miura Boiler do Brasil Ltda.

Nagase do Brasil Comércio de Produtos Químicos Ltda.

Nagawa do Brasil Indústria de Construções Modulares Ltda.

Nichino do Brasil Agroquímicos Ltda.

Nisso Brasileira Representação Ltda.

Okaya do Brasil Comércio Ltda.

Otsuka Indústria de Produtos Químicos do Brasil Ltda.

PILOT PEN DO BRASIL S.A. – IND. E COM.

Rohto do Brasil Planejamento e Desenvolvimento Ltda.

Shin-Etsu do Brasil Representação de Produtos Químicos Ltda.

Shiseido do Brasil Ltda.

SOCIEDADE COMERCIAL TOYOTA TSUSHO DO BRASIL LTDA.

Sojitz do Brasil S.A.

Sumitomo Chemical do Brasil Ltda.

SUMITOMO CORPORATION DO BRASIL LTDA.

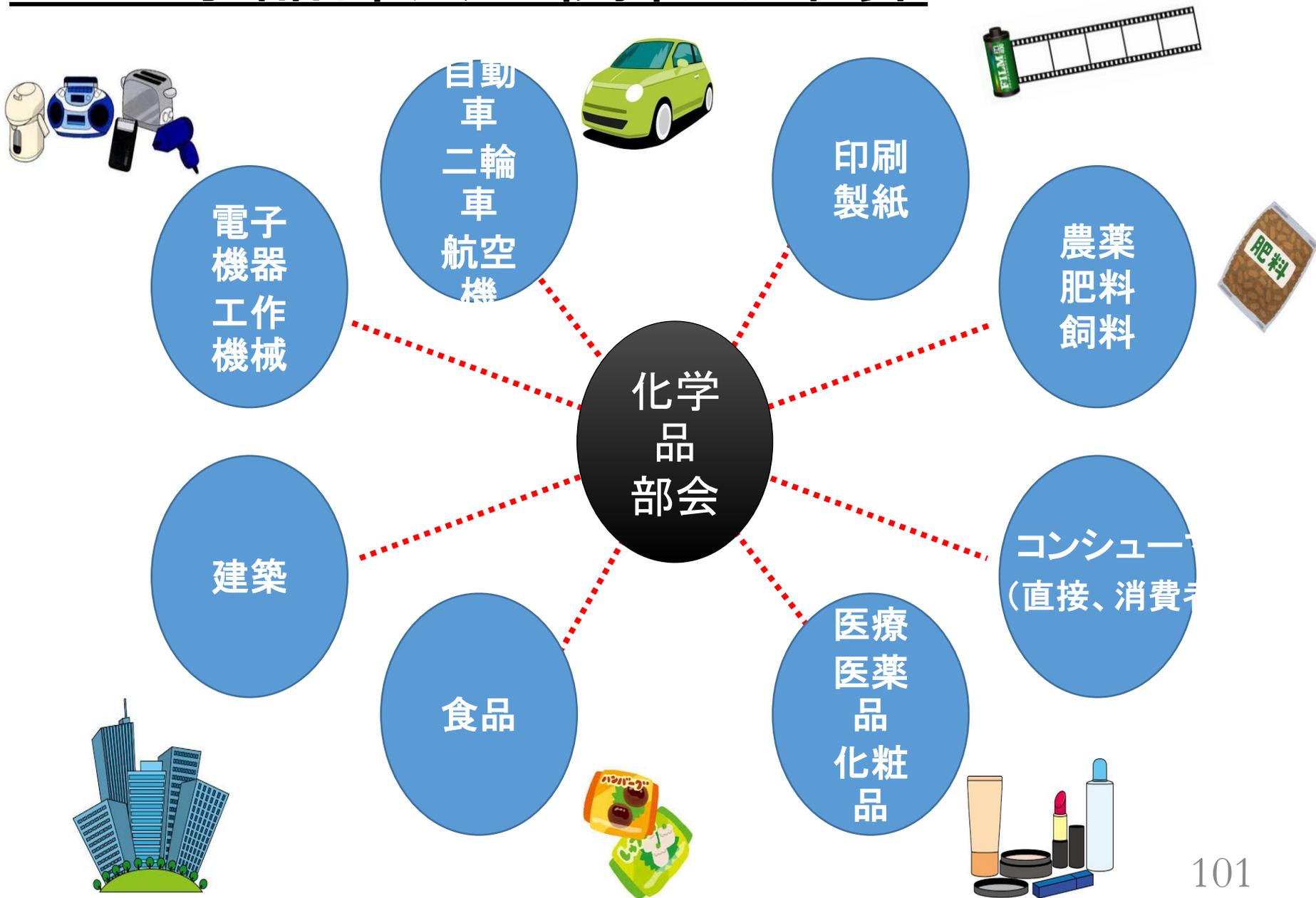
Takasago Fragrâncias e Aromas Ltda.

Three Bond do Brasil Indústria e Comércio Ltda.

Toray do Brasil Ltda.

Toyo Ink Brasil Ltda.

2. 化学品部会が関わる業界



3. 2016年の回顧(市場別)

	結果 (前年 比)	自動車 二輪車 飛行機 計16 回答	電気電 子 工作機 械 計7回 答	建築 計4回 答	食品 計4回 答	印刷 製紙 計7回 答	農薬 肥料 飼料 計9回 答	医療 医薬品 化粧品 計10 回答	コン シュー マー 計2回 答
売上	増加	7	3	0	3	2	5	6	1
	不変	3	0	0	1	0	1	1	1
	減少	6	4	4	0	5	3	3	0
利益	増加	7	2	2	1	3	3	7	1
	不変	2	0	0	2	1	2	1	1
	減少	7	5	2	1	3	4	2	0

3. 2016年の回顧

2015年の回顧: 売上、利益ともに減少

↓↓↓↓

2016年の回顧: 各社対策を打つことで一定の効果あり、
それ以上に景気後退の影響が大きい

<理由>

A. 市場自体の縮小(購買意欲の低下): 7回答

B. 競合品の台頭: 4回答

C. 顧客の経営難(支払いの遅延、倒産): 7回答

3. 2016年の回顧(市場別)

	結果 (前年 比)	自動車 二輪車 飛行機 計 16 回答	電気電 子 工作機 械 計 7 回 答	建築 計 4 回 答	食品 計 4 回 答	印刷 製紙 計 7 回 答	農薬 肥料 飼料 計 9 回 答	医療 医薬品 化粧品 計 10 回答	コン シュー マー 計 2 回 答
売上	増加	7	3	0	3	2	5	6	1
	不変	3	0	0	1	0	1	1	1
	減少	6	4	4	0	5	3	3	0
利益	増加	7	2	2	1	3	3	7	1
	不変	2	0	0	2	1	2	1	1
	減少	7	5	2	1	3	4	2	0

3. 2016年の回顧(プラス要因)

<外部要因>

- A. 新規顧客の獲得 (5)
 - 他社との差別化
 - 販売方法の見直し
- B. 周辺諸国への輸出強化、代理店設置 (8)
 - アルゼンチン、チリ、コロンビアなど
- C. 市場活性化を目的とした新商品販売 (3)
 - 例: 修理用途の商品
- D. 売掛金回収の向上 (与信管理強化) (7)

<内部要因>

自社工場あり: 13 / 28社

- A. コスト削減 (9)
 - サプライチェーンマネジメントの強化
 - 就業時間の短縮
- B. 設備投資(生産効率の向上) (4)
- C. スタッフの増員 (3)
- D. 労働裁判対策 (3)

景気が後退する中で、リスクを恐れず積極策に打って出た！
自分達でできることを徹底的に実行！

4. 2017年の展望(売上予測)

	結果 (前年比)	自動車 二輪車 飛行機 計16回答	電気電子 工作機械 計7回答	建築 計4回答	食品 計4回答	印刷 製紙 計7回答	農業 肥料 飼料 計9回答	医療 医薬品 化粧品 計10回答	コンシューマー 計2回答
売上	増加	7 → 10	3 → 5	0 → 3	3 → 2	2 → 4	5 → 4	6 → 8	1 → 0
	不変	3 → 3	0 → 1	0 → 0	1 → 0	0 → 1	1 → 4	1 → 1	1 → 2
	減少	6 → 3	4 → 1	4 → 1	0 → 2	5 → 2	3 → 1	3 → 1	0 → 0
利益	増加	7 → 7	2 → 4	2 → 2	1 → 2	3 → 3	3 → 4	7 → 6	1 → 0
	不変	2 → 6	0 → 2	0 → 1	2 → 1	1 → 1	2 → 3	1 → 2	1 → 2
	減少	7 → 3	5 → 1	2 → 1	1 → 1	3 → 3	4 → 1	2 → 2	0 → 0

4. 2017年の展望(対応策・課題)

<プラス要因>

- A. サービスの充実(ユーザーのサポート、トレーニングなど)
- B. 販売拡大の体制を強化(輸出の強化、代理店設置、現地品との差別化など)
- C. 製造コスト削減(設備投資、サプライチェーンマネジメント強化など)

<マイナス要因>

- A. 市場自体の景気がすぐには好転しない(自動車、建築)
- B. 中国製やジェネリック製品など競合品の攻勢(医薬品、農薬、印刷など)
- C. 当局認可や新商品登録に時間がかかる(医薬品、化粧品、肥料、農薬など)

5. 総括

2015年度 売上	増加 9	不変 5	減少 13
2015年度 利益	増加 8	不変 7	減少 12

(計27回答)

2016年度 売上	増加 16	不変 7	減少 14
2016年度 利益	増加 13	不変 9	減少 15

(計37回答)

2017年度 売上予測	増加 19	不変 13	減少 5
2017年度 利益予測	増加 14	不変 14	減少 9

(計37回答)

**ブラジル化学協会
(ABIQUIM)**
*ブラジルの全化学メーカーが対象

2016年トータル生産量
+4.04%

2016年トータル販売量
+3.92%



<日系企業>

2016年度は、2015年の景気後退の影響が色濃く残るも対策ができた会社、できなかった会社で明暗が分かれる結果となる。

2017年度: 明るい兆し!

6. 副題：景気回復にむけて、いま為すべきことは？

- 課税：17回答
- 労働：18回答
- 通関：10回答
- インフラ：5回答
- 政治の安定：4回答
- 新商品登録や当局認可手続きの迅速化：4回答



ご清聴ありがとうございました。

アンケートにご協力いただきました化学品部会の皆様、
各種ご協力いただきましたブラジル商工会議所の皆様に
この場を借りて厚く御礼申し上げます。

化学品部会

Section of Chemicals

電気電子 部会

千野 浩毅 部会長

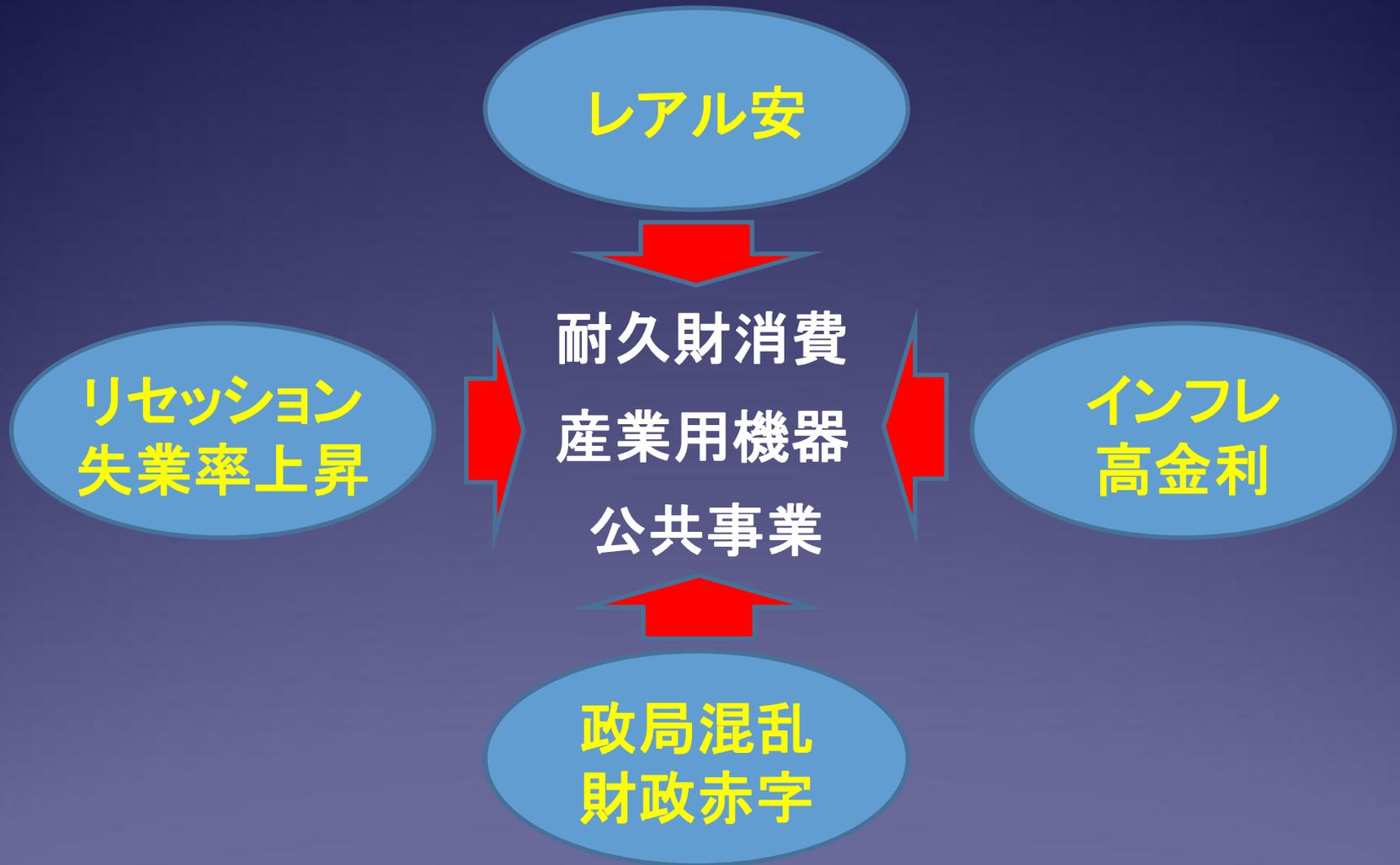
Departamento Eletroeletrônico

Presidente: Hiroki Chino

電気電子業界 2016年回顧と2017年展望

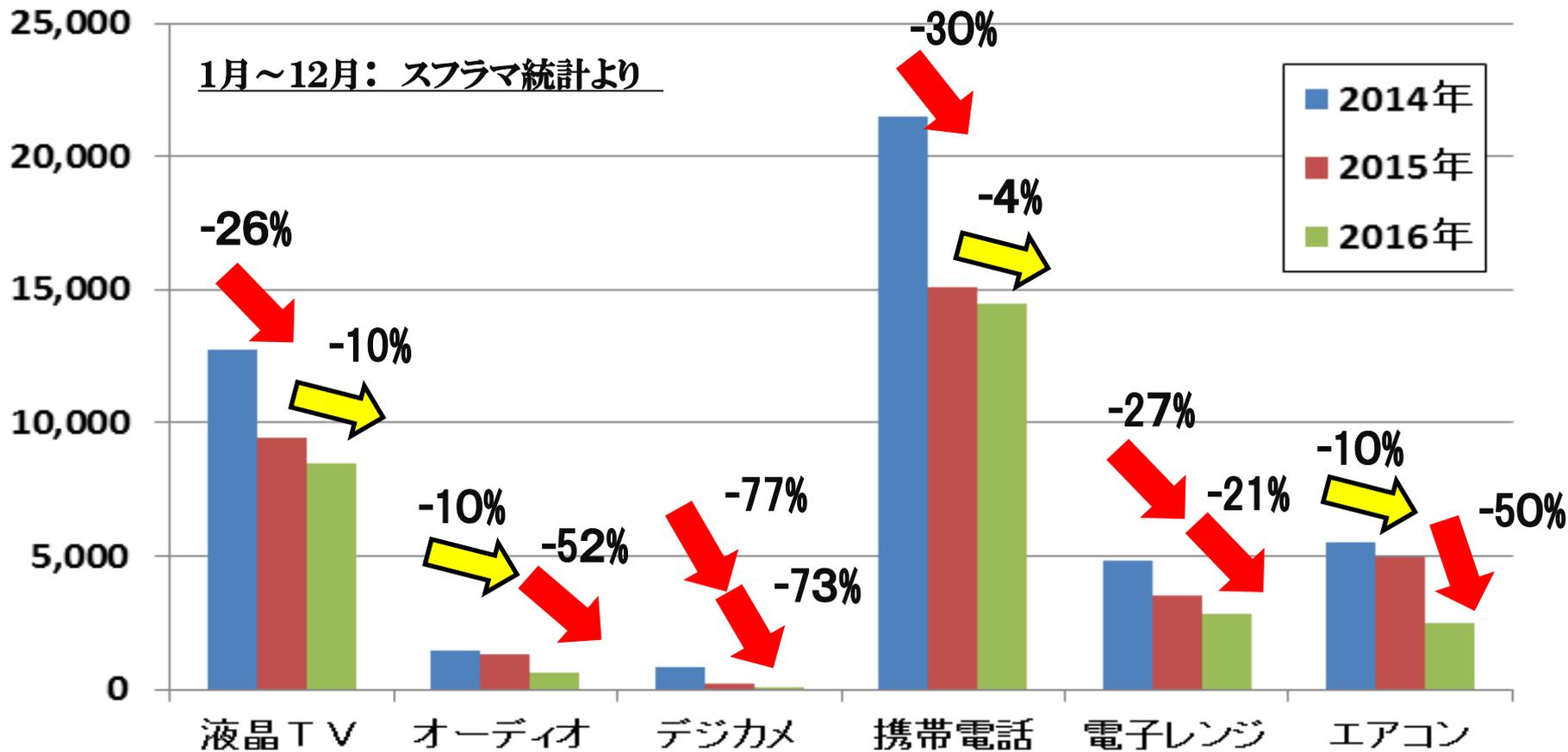
2017年2月23日
電気電子部会

電気電子業界の事業環境



一般消費者向け耐消費材、産業向け機器、公共事業の全分野にわたって
事業環境は「どん底」の状況にある

主要家電製品 マナウス生産数量推移



- 2016年の生産数量は全カテゴリーで減少を記録
- 液晶TVと携帯電話で「底打ち」感が見られるが、電子レンジ、エアコン、オーディオ、デジカメは厳しい状況が続いている

2016年回顧と2017年展望 会員アンケート結果

昨年8月時点での
2016年展望

	改善	維持	悪化	合計
2016年展望	8	2	2	12
(%)	67%	17%	17%	100%



今回の
アンケート
結果

	改善	維持	悪化	合計
2016年回顧	6	5	1	12
(%)	50%	42%	8%	100%
	改善	維持	悪化	合計
2017年展望	9	3	0	12
(%)	75%	25%	0%	100%

「維持」を対前年比100～109%として分類

2016年回顧 会員アンケート 主要コメント

(-)

- 需要の低迷(一般消費、産業需要、官需全般に渡り)
- ラバジャットの影響(ペトロブラス)
- 取引先の経営困難(倒産、資金難)による影響
- インフレによるコスト増
- レアル高による輸出ビジネスへの影響
- 長期に渡るマナウス税関ストライキによる影響

(+)

- 景気の「底打ち」感、需要の「下げ止まり」
- 為替の安定
- 高付加価値商品へのシフト
- 競争力強化によるシェア拡大、「残存者利益」
- 新規ビジネス立ち上げ・拡大(企業買収含む)
- 輸出拡大
- コスト削減努力による採算性の維持
- オリンピック関連需要の獲得(産業向け)

Neutral

- 投資の厳選
- 経営体質の強化(従業員削減)

2017年展望 会員アンケート 主要コメント

(-)

- ・ 市場環境の急速な改善は望めない(時間掛かる)
- ・ 限られた公共投資、産業需要の獲得競争激化
- ・ 税金関連の悪化懸念(増税や優遇措置変更に関する懸念)
- ・ ラバジャットの現政権への影響懸念
- ・ グローバル・ボラティリティ(トランプ政権、Brexit、中国)

(+)

- ・ 「底打ち」から回復への期待
- ・ インフレ率低下、金利低下に伴う購買力回復への期待
- ・ 高付加価値商品へのシフトや競争力強化によるビジネス拡大
- ・ 新規ビジネス拡大(企業買収含む)
- ・ 輸出拡大

Neutral

- ・ 慎重な経営を志向
- ・ ポスト・リセッションに向けた種蒔きと体制構築
- ・ 構造改革・経費削減努力の継続、強化
- ・ 資金管理・債権管理・在庫管理の強化

<サマリー>

- リセッション突入前から事業構造改革に取り組んできた企業が多く、また、「どん底」の経済環境の中でも業績を改善させている企業が多い
- 景気の回復、政治の安定、為替の安定への期待はあるものの、各社ともボラティリティの高い環境を強く意識した慎重な事業運営を志向している
- 各社とも、既存市場のボリューム回復による販売回復ではなく、市場ニーズの変化の中での新たな事業機会や新たな強みの創出を志向している
- ただし、アンケート回答率が5割程度であり、回答がなかった企業の状況は定かでない(過去2年に退会した企業も数社ある)

シンポジウム副題に関して

「景気回復に向けて、いま為すべきことは？」

短期的な業績に左右されずに長期視点での経営判断が重要

急激な回復を期待せず、慎重な経営・投資判断が肝要

経営基礎体力の強化が重要(事業戦略、財務、人材、為替変動への耐性)

リセッションの出口に向けての準備をしっかりと進める時期

品質の良さに磨きをかける、新たな価値や楽しみの提案

ビジネスパートナーの選別(この先、誰と組むか)が重要

様々なスキームの活用、組み合わせによるメリット創出

スペイン語圏でのビジネス伸長を目指した活動

商工会議所、ブラジル政府、日本政府への要望

ポスト高度成長のブラジルの魅力を創出する努力

政治・経済・為替・治安の健全化・安定化への努力

新規事業や輸出拡大へのインセンティブ(「その場しのぎ」でないもの)

税制の改善(増税阻止、簡素化、透明化、低減、ST・クレジット累積問題

の解消、国際標準レベルの移転価格税制への変更)

労働法の改善(現政権の取り組みに期待)

ビジネス・インフラの整備(物流ネットワークなど)

ブラジル・日本の両国政府間での中長期的な関係強化

ファイナンス、ファンディング、パートナーリングの支援・連携促進

ご静聴、ありがとうございました。

食品 部会

秋元 壮介 副部会長

Departamento de Gêneros Alimentícios

Vice Presidente: Sosuke Akimoto

2016年の回顧と2017年の展望

『景気回復に向けて、いま為すべきことは？』

ブラジル日本商工会議所 食品部会

2017年2月23日(木)

目次

- ◆ 2016年業界動向
- ◆ 原材料動向
- ◆ 2017年の展望

2016年の業界動向

◆ 国内市場概況

- 約2年間続いた経済情勢の悪化に底入れ感が出てきている。6月以降のスーパーマーケットの売上高前年比(実質)は7ヵ月連続で前年を上回った。
- 食品・飲料・日用雑貨は、重量前年割れが継続。売上高前年比(実質)も前年割れだが、半年前から0.3%回復し、前年比-3.7%と良化の兆し有り。
- 製品カテゴリー別の購買データから、低価格指向及び、嗜好品への支出を抑制する傾向が継続していることが推察される。

2016年の業界動向

<飲料>

- ・発酵乳飲料 食品部会所属企業では前年比金額ベース102%、数量ベース5%弱減。
- ・粉末飲料市場 103%(金額ベース前年比)

<粉末調味料>

- ・粉末調味料市場 97%(金額ベース前年比)
食品部会所属企業では前年比金額ベース111%

<スープ>

- ・粉末スープ市場 89%(金額ベース前年比)
食品部会所属企業では前年比金額ベース112%

2016年の業界動向

<しょうゆ>

- ・輸入による、現地メーカーとの販売価格差により厳しい状況が続く。日本食材のプロモーション活動通じ、需要発掘取組継続。

<清酒>

- ・食品部会所属企業では、金額ベースで前年対比一桁の中盤程の伸長、数量ベースで前年並み。

2016年の業界動向

<コーヒー>

- ・引き続き低迷する経済状況に対し、原料価格高騰による製品価格上昇を理由に国内消費は伸び悩み。
- ・インスタントコーヒーは需要、市場も伸長。

<即席めん>

- ・対前年金額ベースでは横ばいもしくは微増、数量ベースでは微減。

2016年の業界動向

＜畜肉・畜肉加工品＞

- ・日本在庫過多により、ブラジル産鶏肉の日本への輸出数量対前年大幅減。
- ・日本向け牛肉加熱加工品は、施設認定を経て2016年12月より輸出が可能となる。
- ・食品部会所属企業では加工食品の生産開始、B to B中心に販売。

2016年の業界動向

<チョコレート>

- ・2015年数量ベースで減少に転じた市場は、2016年減少傾向に歯止め掛かるも、前年比横ばいで推移。金額ベースでは値上げもあり横ばいから微増。
- ・一方、業務用市場への影響度は小さく、食品部会所属企業も数量ベースで微増、金額ベースで二桁の伸び。

2016年の業界動向

<香料>

- ・食品部会所属企業では、主力の菓子・飲料向けが低調も新規開拓で補い、全体として昨年並みの予定。

<食品添加剤>

- ・食品部会所属企業では、新規顧客開拓あるも、既存取引低調により全体として売上は横ばい。

2016年の業界動向

<アセロラ製品>

- ・主要産地での干ばつにより、原料供給が少ない状態が続く。
- ・緑果製品(ビタミンC多く含む)の販売比が増加。

<種苗>

- ・世界的なM&Aによる市場のモノポリー化進む。
- ・ブラジル種子業界では種子需要は安定も、天候不順による影響で販売は減少傾向。

2016年の業界動向

＜外食産業＞

- ・外食市場伸長率は9%、2年連続で二桁に至らず。
- ・高級店中心に客数、売上減の一方で、価格的にお手頃感ある業態は伸長。

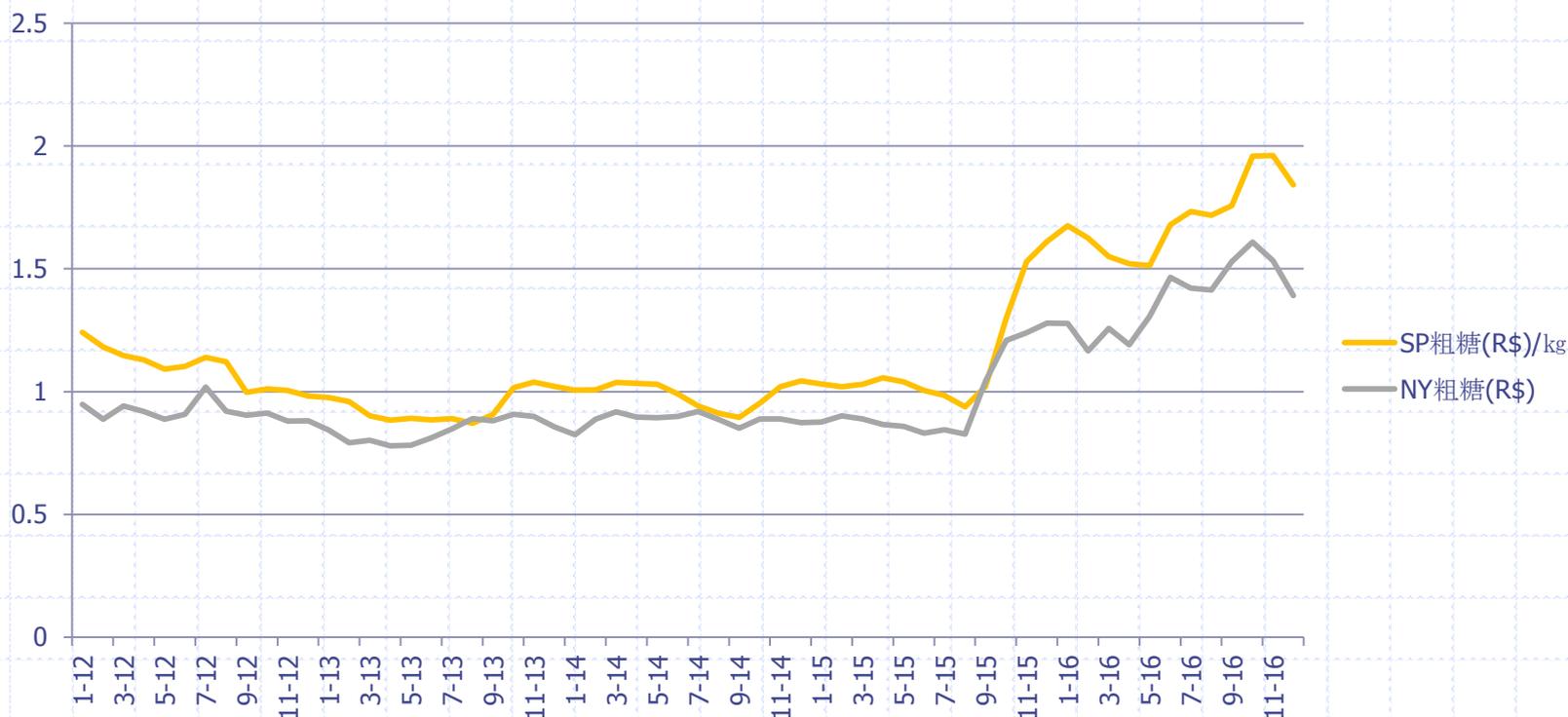
＜輸出＞

- ・飲料原料は、コーヒー、オレンジ果汁共に天候影響による供給減でタイトな状況。
- ・鶏肉原料は、日本在庫過多により価格低迷。

原料動向

砂糖相場の推移(2012～)

粗糖キロあたりリアル単価

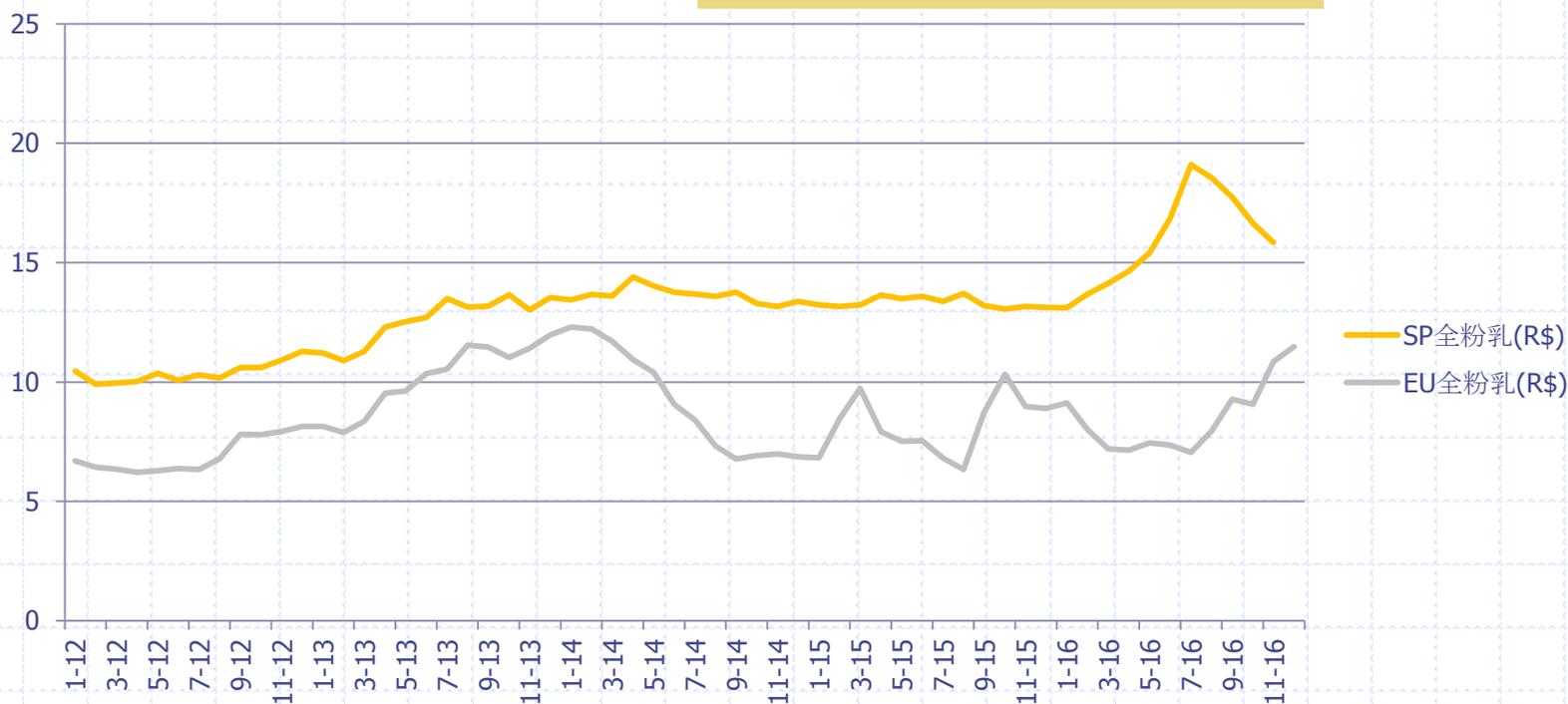


◆2012年以降、サトウキビの生産が安定し相場は落ち着いていたが、2015年後半からの異常気象(ブラジルでの2016年前半の異常降雨もその一つ)による収穫減懸念から高騰、加えてリアル通貨安で国内相場がさらに突出した。

原料動向

乳相場の推移(2012～)

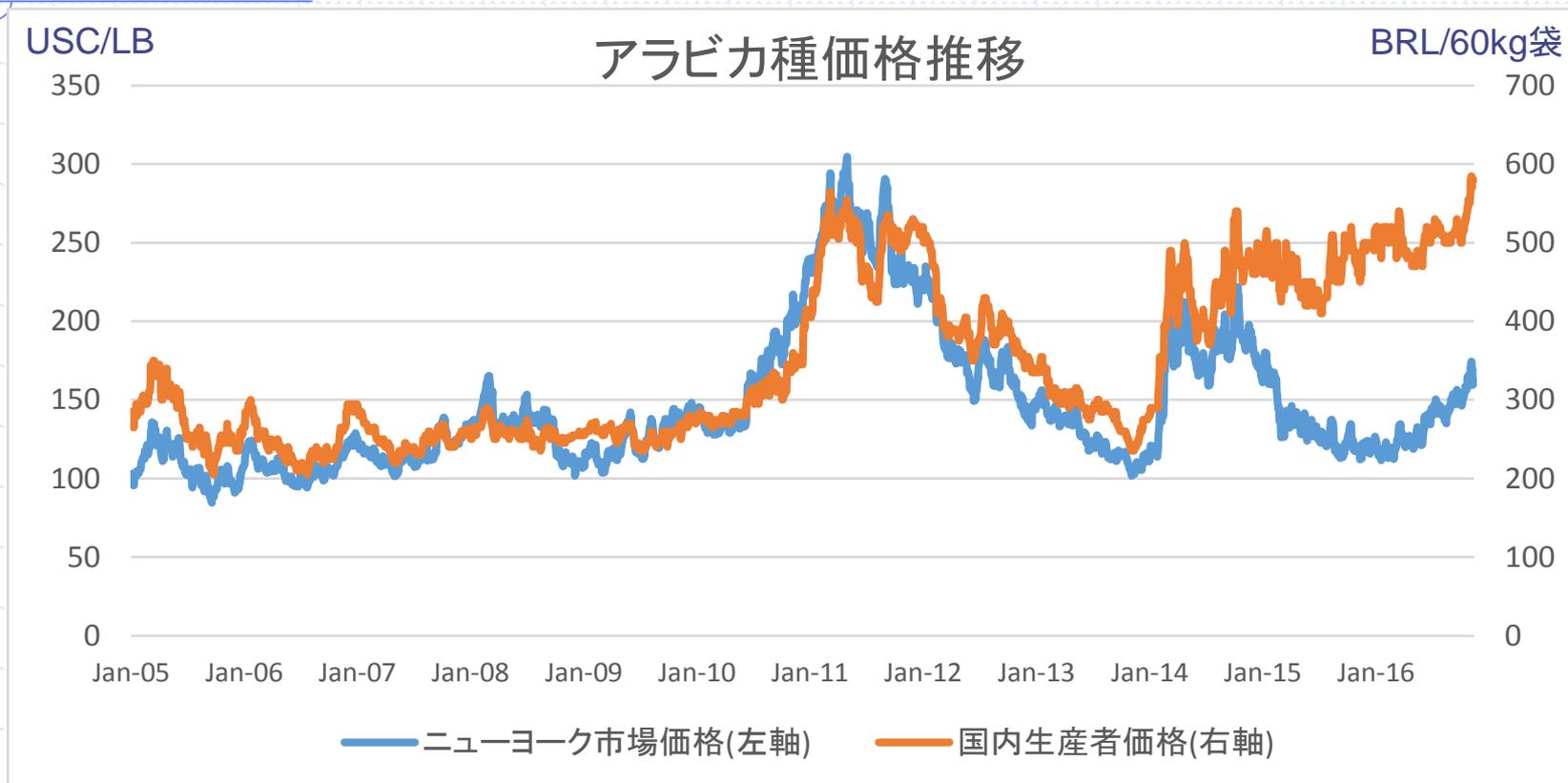
全粉乳キロあたりリアル単価



◆乳製品価格は2014年以降国際的に大きく下落したが、国内相場は高値を維持。2016年は生乳価格の上昇で国内相場が高騰した。2016年後半以降国際価格が徐々に上がっており、リアル安相場の影響下でリアル建て価格が上昇している。

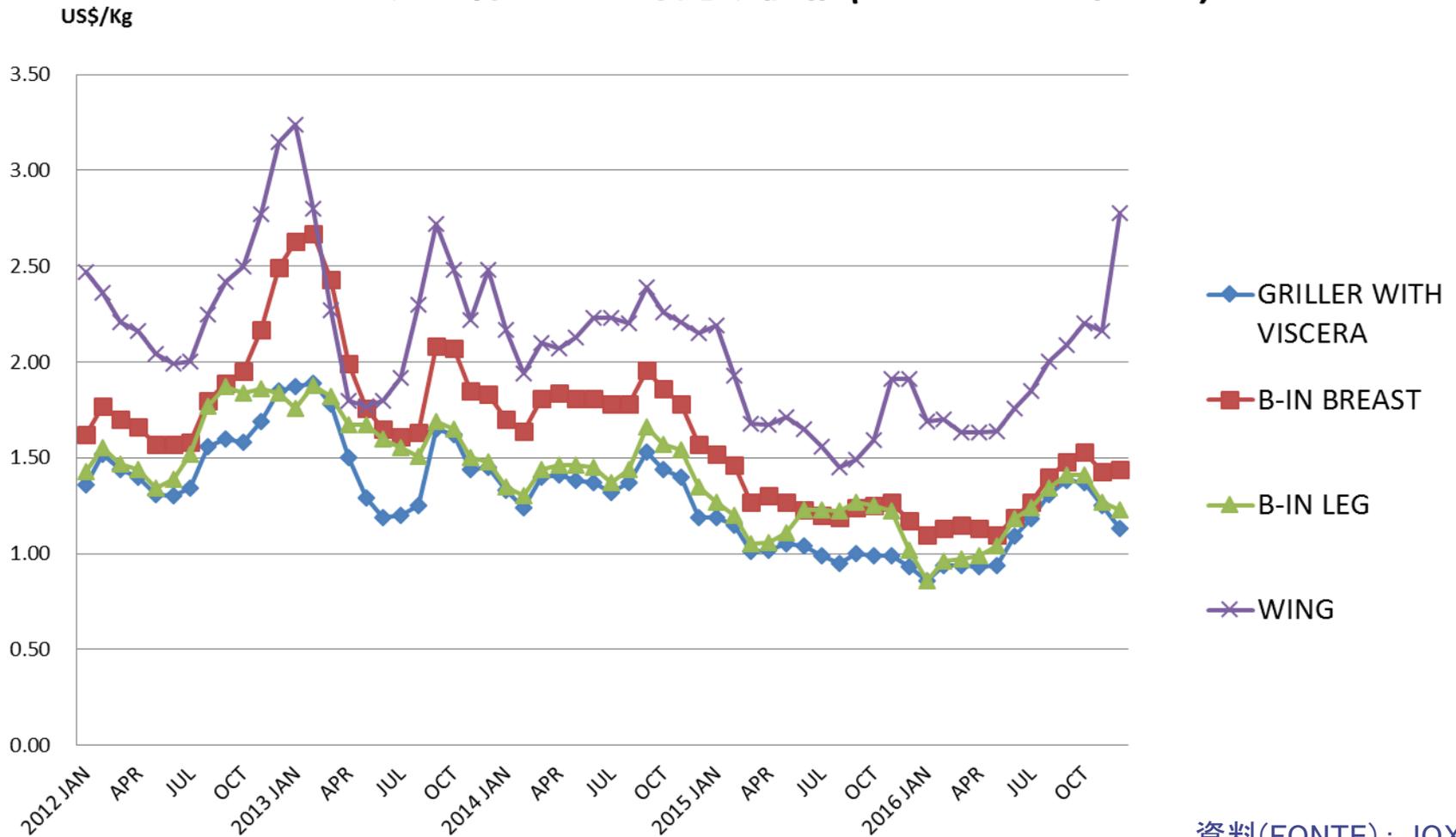
原料動向

コーヒー相場の推移



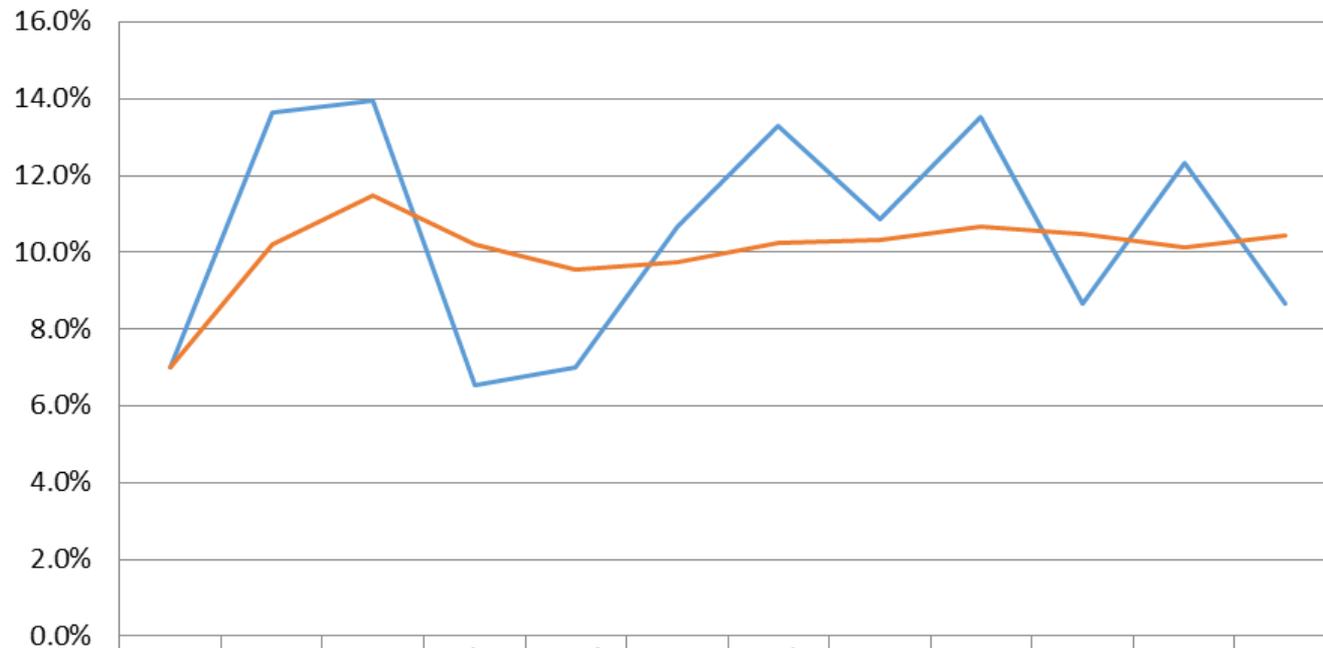
- ◆2016年下期は、ブラジル国内相場はR\$470~600/袋のレンジで右肩上がりに推移。NY先物市場価格動向と乖離が生じているのはレアル安が進んだことに加え、国内需要に対する供給不足によるもの。
- ◆アラビカ種は豊作であったものの、ロブスタ種が大幅減産となり国内需要が逼迫。

サンパウロ 各パーツ卸売り価格(2012～2016年ドル)



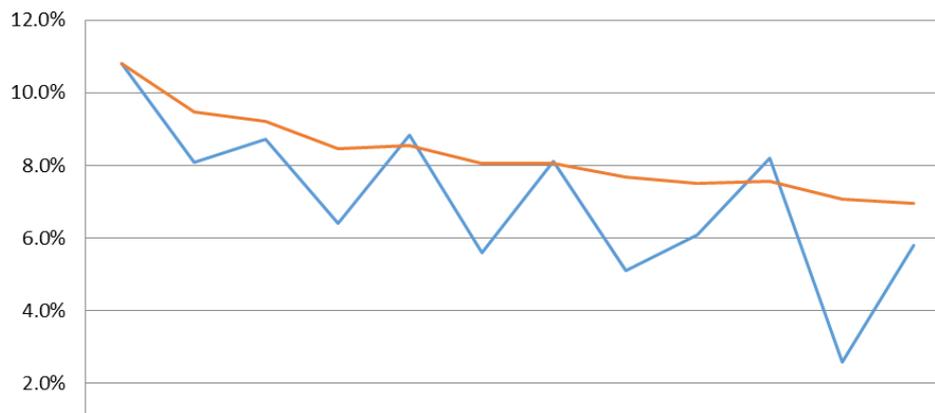
東南アジア(特に中国)向けに輸出の好調なWING(手羽)の価格が高騰を続けており、年末には過去最高に近い価格まで上昇。B-IN LEG(骨付きモモ)は、アジア向けの輸出量が減少した影響を受け、国内での余剰感から、相場下落。BREAST(ムネ肉)は堅調。

2016年度 スーパーマーケット売上前年比(名目)



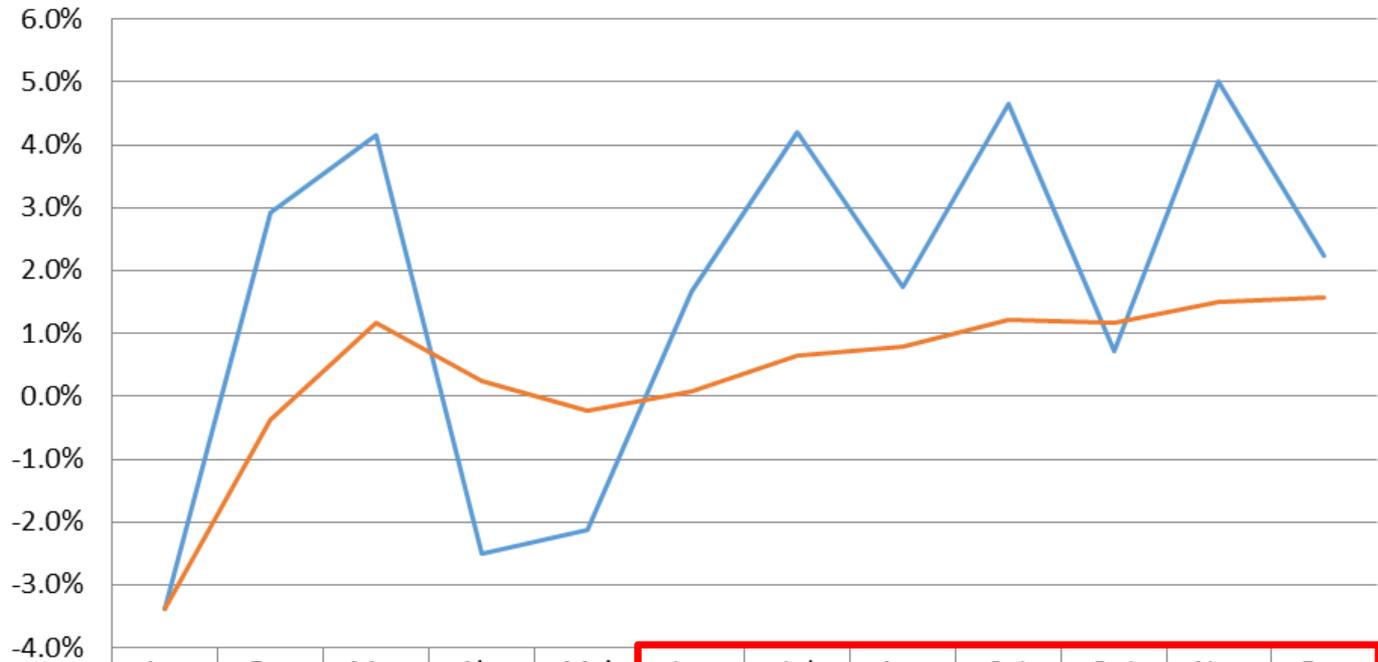
	Jan	Fev	Mar	Abr	Mai	Jun	Jul	Ago	Set	Out	Nov	Dez
単月前年比	7.0%	13.6%	13.9%	6.5%	7.0%	10.7%	13.3%	10.9%	13.5%	8.7%	12.3%	8.7%
累計前年比	7.0%	10.2%	11.5%	10.2%	9.6%	9.7%	10.3%	10.3%	10.7%	10.5%	10.2%	10.4%

(参考) 2015年度 スーパーマーケット売上前年比(名目)



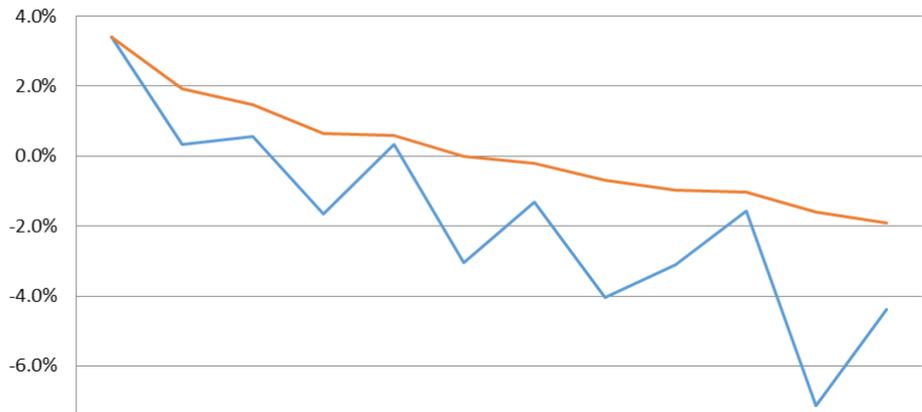
Source:
Economic and research
department - ABRAS

2016年度 スーパーマーケット売上前年比(実質)



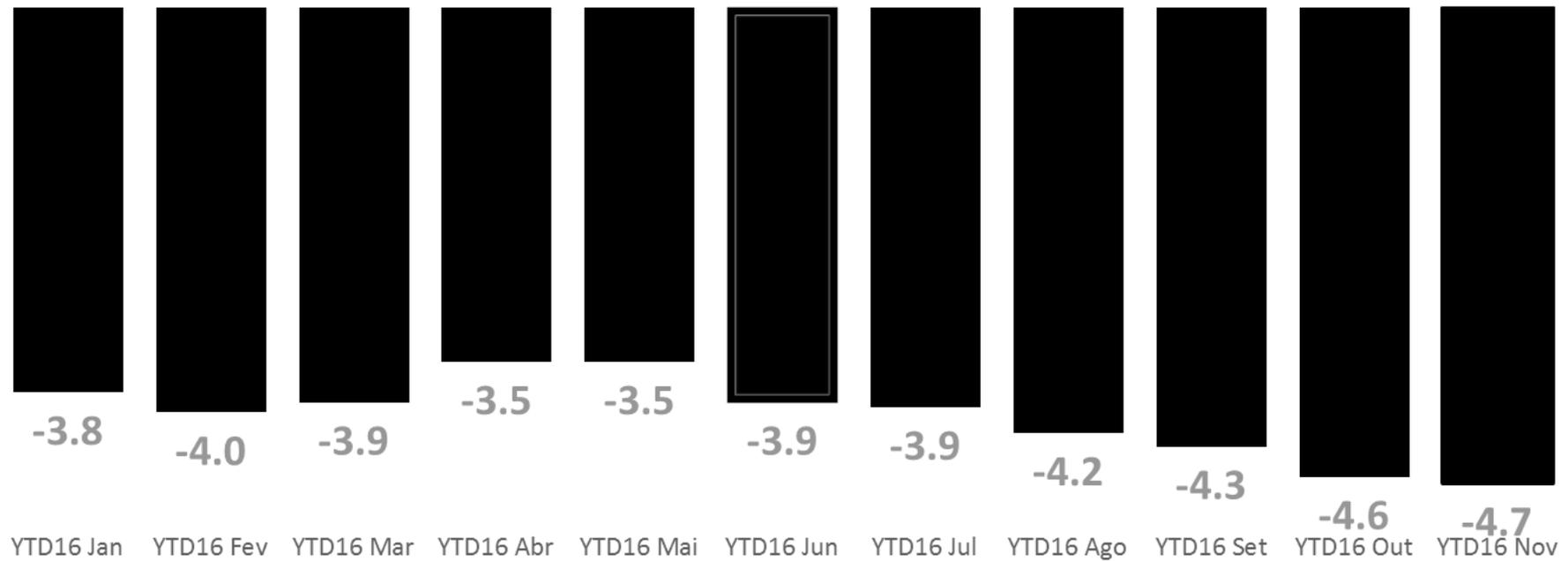
	Jan	Fev	Mar	Abr	Mai	Jun	Jul	Ago	Set	Out	Nov	Dez
— 単月前年比	-3.4%	2.9%	4.2%	-2.5%	-2.1%	1.7%	4.2%	1.7%	4.7%	0.7%	5.0%	2.2%
— 累計前年比	-3.4%	-0.4%	1.2%	0.2%	-0.2%	0.1%	0.7%	0.8%	1.2%	1.2%	1.5%	1.6%

(参考) 2015年度 スーパーマーケット売上前年比(実質)



Source:
Economic and research
department - ABRAS

食品・飲料・日用雑貨の購入重量前年比は引き続き低位で推移。



*データ
1月-11月
(2016年vs
2015年)

Fonte: Nielsen | Retail Index – 123 categorias –
Total Brasil com expansão Geográfica

全地域で昨年より購入重量減少。 半年前と比較し、売上高前年比(実質) は、4エリア(I、II、IV、V)で良化。

Área I (CE até BA)

Área II (ES, MG, interior RJ)

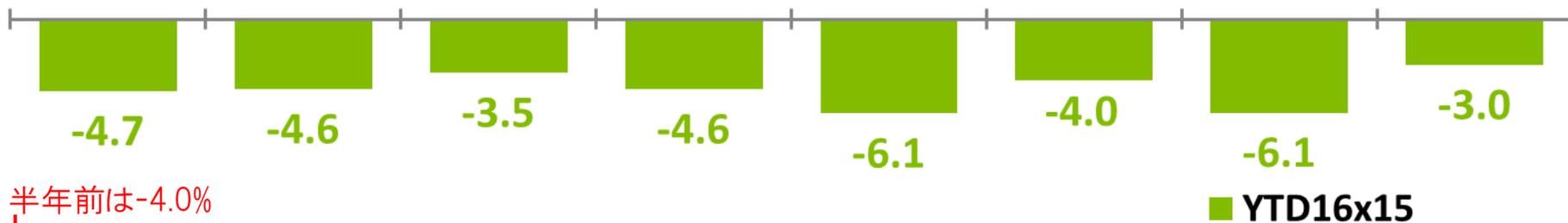
Área III (Grande RJ)

Área IV (Grande SP)

Área V (Interior SP + Litoral)

Área VI (PR, SC e RS)

Área VII (MS, GO e DF)

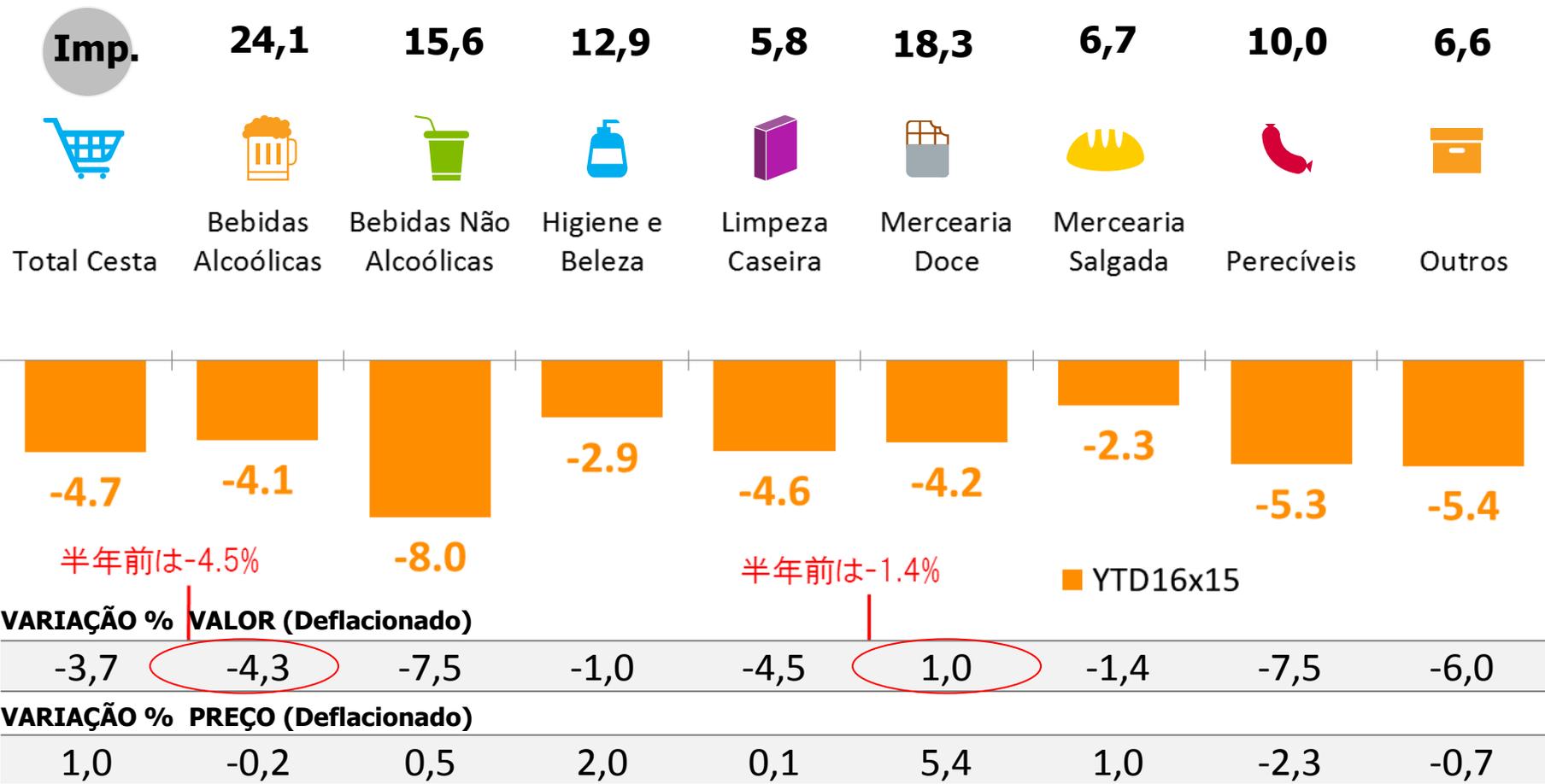


半年前は-4.0%

VARIACÃO % VALOR (Deflacionado)	Área I	Área II	Área III	Área IV	Área V	Área VI	Área VII	
-3,7	-4,0	-3,0	-3,9	-4,9	-3,2	-4,5	-2,2	
VARIACÃO % PREÇO (Deflacionado)	1,0	0,6	0,5	0,7	1,4	0,8	1,7	0,8

Importância das áreas em valor – YTD terminado em SON *データ 12月-11月 (2016年vs2015年) A: 8.995%
 Fonte: Nielsen I Retail Index – 123 categorias– Total Brasil com expansão Geográfica

半年前と比較し、ほぼ全てのカテゴリーで購入重量 前年比が低下したが、売上高前年比(実質)は、 アルコール飲料とDoce(砂糖、コーヒー等)が良化。



*データ 12月-11月 (2016年vs2015年)

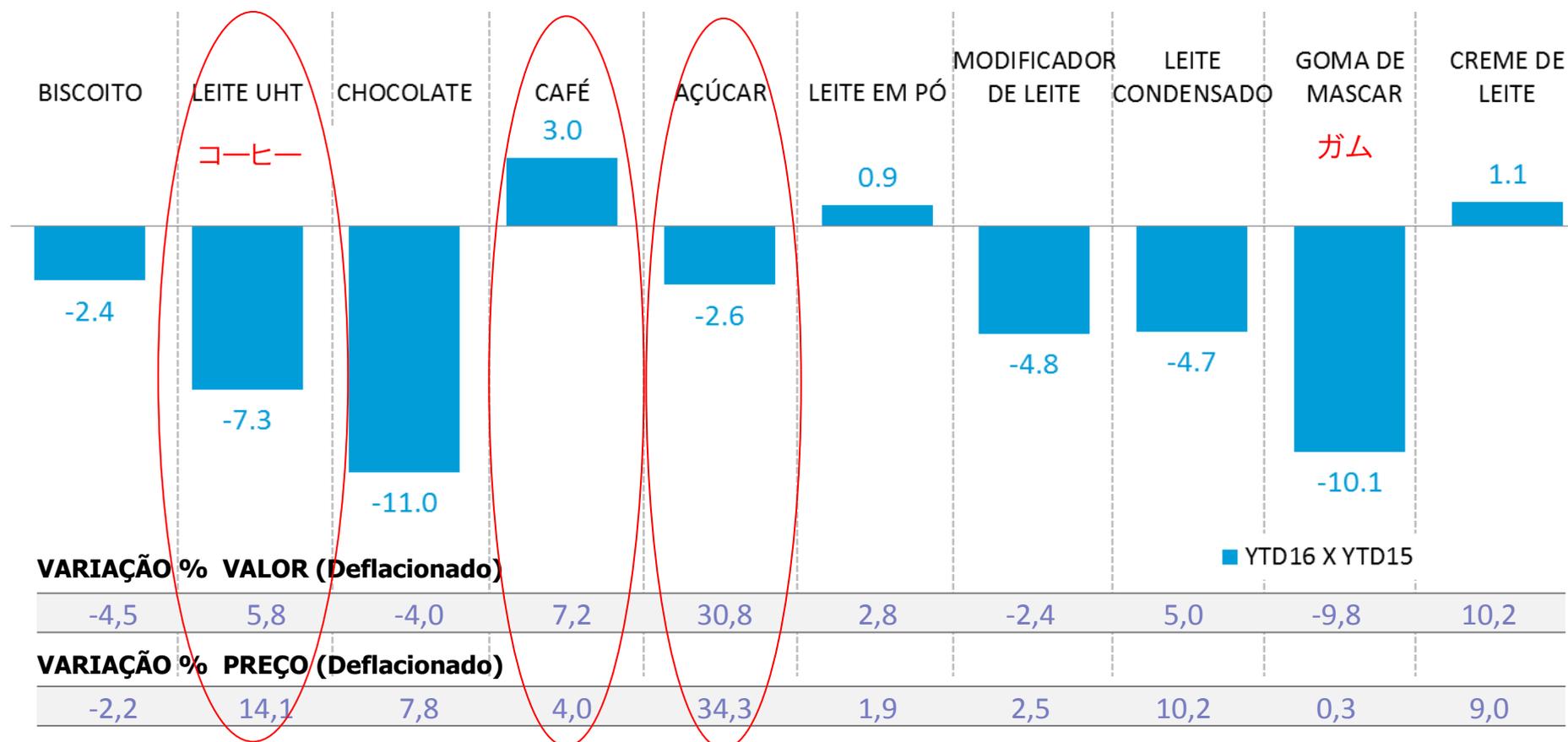
Importância das cestas em valor – YTD terminado em SON

IPCA: 8.995 %

Fonte: Nielsen | Retail Index – 123 categorias– Total Brasil com expansão Geográfica

<コーヒー・乳・甘味系サブカテゴリー前年比>

増加 ; 砂糖、コーヒー、牛乳
大きく減少 ; ガム



*データ 12月-11月 (2016年vs2015年)

IPCA: 8.995 %

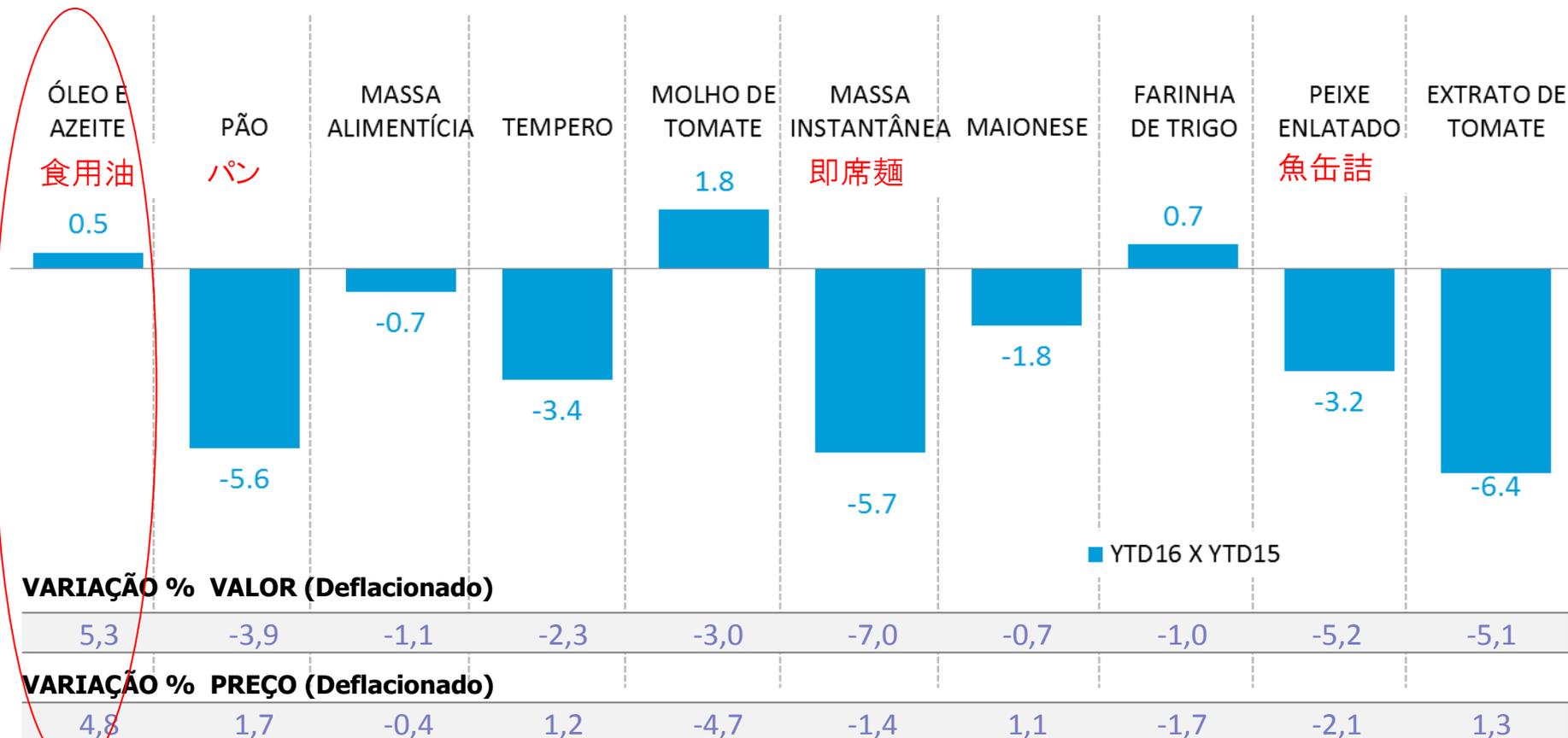
Top 10 Categorias em importância em valor para a cesta – YTD terminado em SON

Fonte: Nielsen | Retail Index – 123 categorias– Total Brasil com expansão Geográfica

<小麦粉・調味料系サブカテゴリー前年比>

増加 ; 食用油

大きく減少; パン、即席麺、魚缶詰



*データ 12月-11月 (2016年vs2015年)

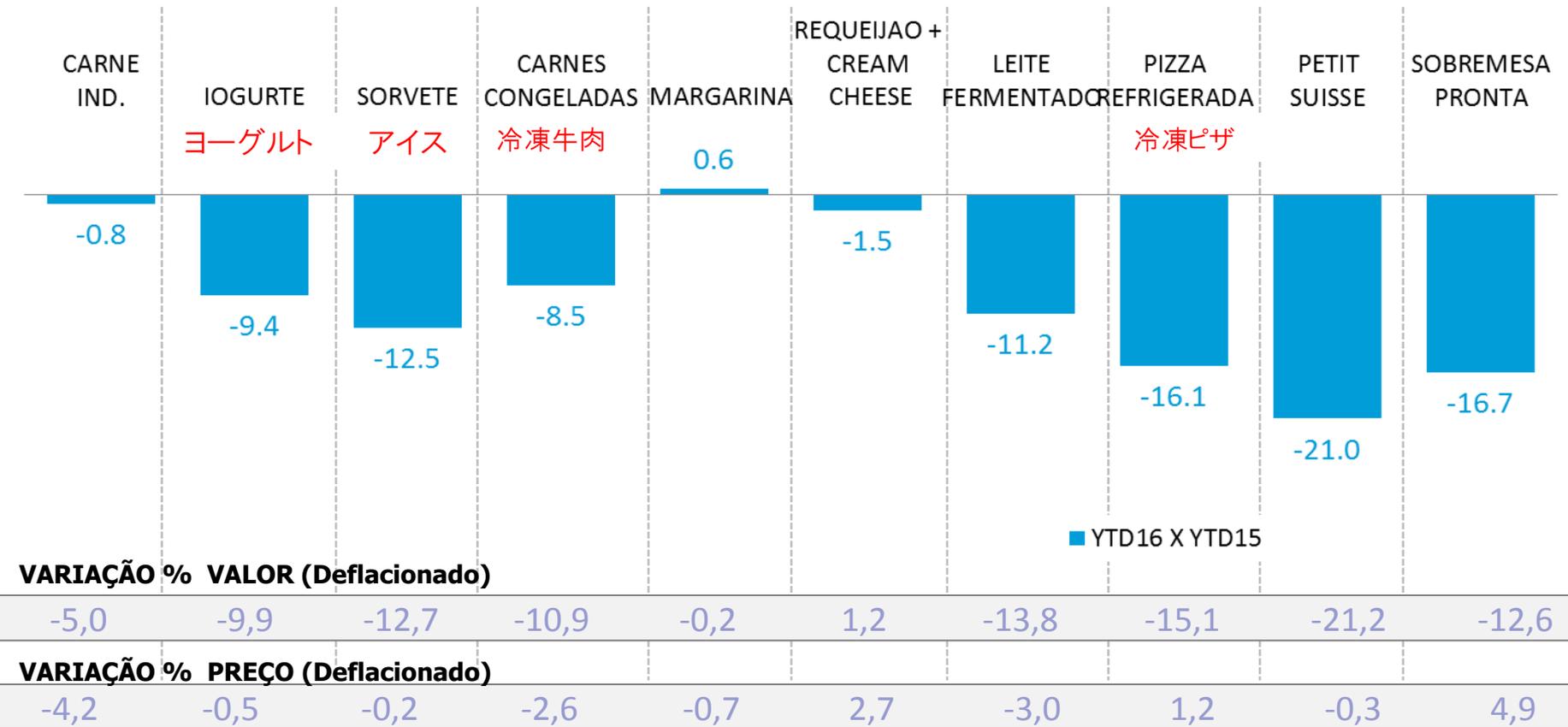
IPCA: 8.995 %

Top 10 Categorias em importância em valor para a cesta – YTD terminado em SON

Fonte: Nielsen | Retail Index – 123 categorias– Total Brasil com expansão Geográfica

<肉・乳加工品系サブカテゴリー前年比>

大きく減少;ヨーグルト、アイスクリーム、冷凍牛肉、発酵乳飲料、冷凍ピザ、デザート(加工品・冷凍品)



*データ 12月-11月 (2016年vs2015年)

Top 10 Categorias em importância em valor para a cesta – YTD terminado em SON
 Fonte: Nielsen | Retail Index – 123 categorias– Total Brasil com expansão Geográfica

IPCA: 8.995 %

2017年の展望

『景気回復に向けて、いま為すべきことは？』

- (1) 経済状況に関して楽観的な予想が徐々に増加している。昨年からの政策金利の低下は、設備投資を拡大させ、低迷が続く消費を下支えすると思われる。2017年の実質GDP成長率は3年ぶりにプラス転換し、+0.5%と見込まれている*。

* 中央銀行がエコノミスト100名を対象に毎週実施している調査の1月6日現在の予想中央値

⇒消費者の動向や社会的変化を見据えた商品開発や市場開拓。

- (2) 近い将来の景気回復時の波に乗れるよう、事業基盤の強化、新たな事業の種まき等の準備を進める。
- (3) 会員企業の新たなビジネスチャンス発掘につながりうるCAMARA食品部会の取り組みを進めていく。

運輸サービス 部会

細谷 浩司 部会長

Departamento de Transportes e Serviços

Presidente: Koji Hosoya

2016年の回顧と2017年の展望

景気回復に向けて、いま為すべきことは？

運輸サービス部会 細谷 浩司

2017年2月23日

運輸サービス部会の対象業界

- 物流
- 海運
- 航空貨物
- 航空旅客
- 旅行、ホテル
- 通信、IT



物流業界

2016年回顧

- 年内に税関ストライキが収束せず、輸出入に支障。
- 輸出入貨物の木材規制強化(ISPM準拠)の開始。
- オリンピック開催による輸送需要は増えるも物流影響少。



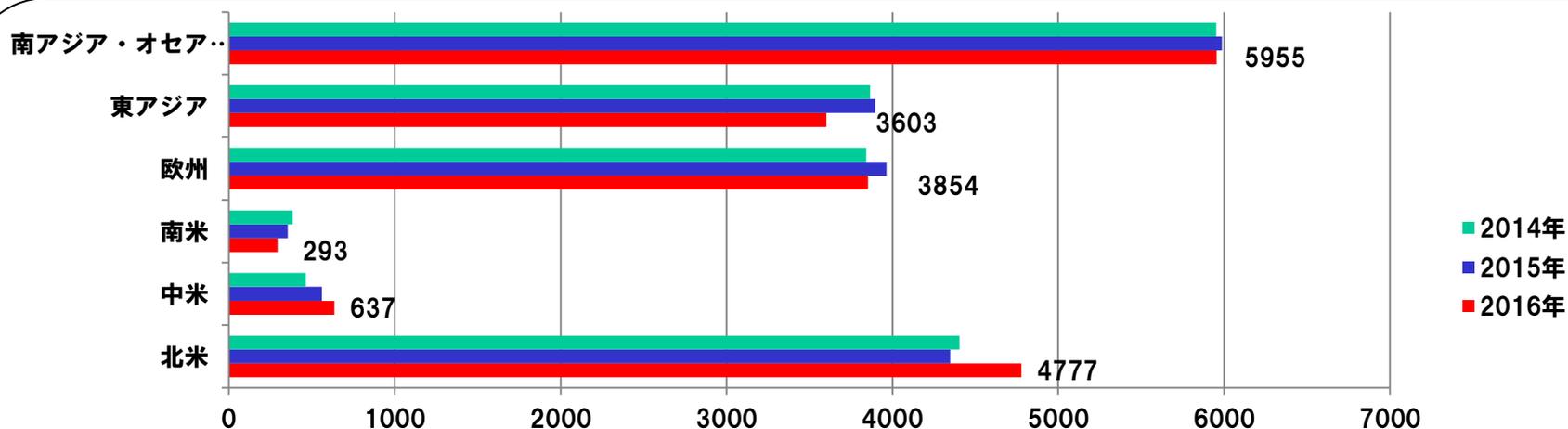
2017年展望

- 1月に税関ストライキは収束。本年もストライキ動向に注視が必要。
- 駐在員数の減少傾向は2017年中も継続する模様。

日本発 各地域向け船便引越件数動向

(単位 発送件数)

資料提供：日本通運



海運業界

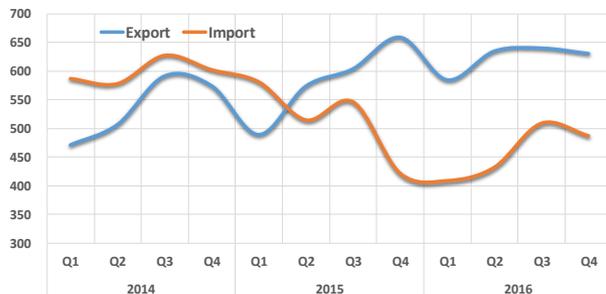
2016年の回顧

- ・ 中南米コンテナ航路は需給バランス改善により運賃は回復。主要コンテナ船社の合従連衡が進む。邦船3社のコンテナ・ターミナル部門も2018年4月より統合される予定。
- ・ 完成車輸送は資源国向けが不調。ブラジルは輸出が輸入を大きく上回る。
- ・ ドライバルク輸送は2016年後半に底を打ったものの引き続き厳しい市況が続いている。
- ・ 2016年のタンカー市況は前年比30-40%減で推移。
- 輸出コンテナ総重量証明の義務化 (SOLAS条約改正) 開始。

2017年の展望

- コンテナ輸送は新造船の供給圧力が強い。南米東岸航路は需給がバランスし運賃水準は安定か。
- 完成車輸送は資源国向けが引き続き低迷か。ブラジルの輸出超過も続く。
- ドライバルク輸送は中国の市況牽引力には疑義あり、市況の回復も穏やかなものとなろう。
- タンカーはOPECの減産合意次第なるも2017年も市況は弱含みで推移するのでは。

ブラジル コンテナ輸出入推移 (2014-2016 / 千TEU)



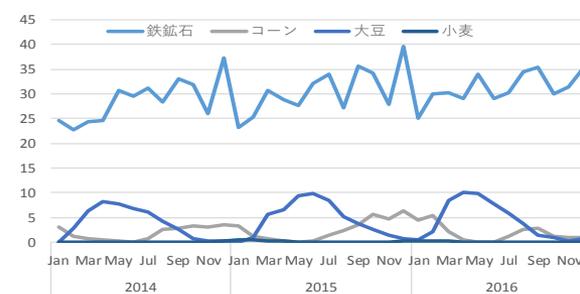
出典 : Dataliner

ブラジル 完成車輸出入推移 (2014-2016)



出典 : Carta da Anfavea

ブラジルバルク貨輸出入推移 (2014-2016 / 百万ト)



出典 : IHS社のGTA (Global Trade Atlas®)

航空貨物業界

2016年回顧

- 主要3空港での比較(GRU,VCP,MAO)※1-12月実績比較

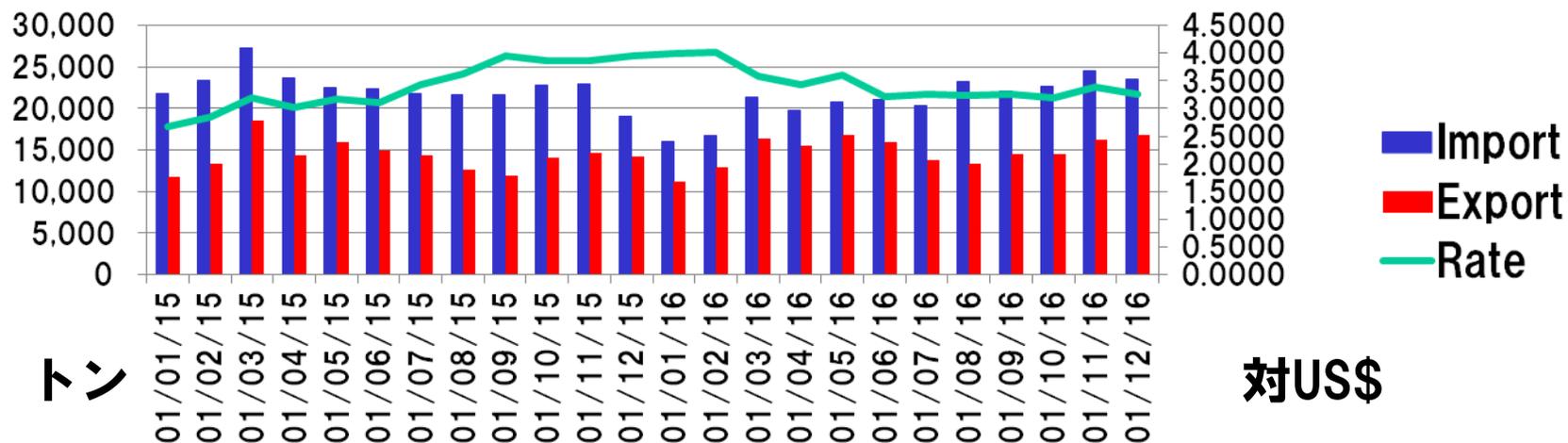
輸入量は対前年同期比 6.9 %減

輸出量は対前年同期比 3.9 %増

2017年展望

- 全体の輸出量増加に伴う航空貨物需要増への期待。
- 航空会社路線撤退（便数削減）、輸出貨物の需要増によるスペース不足の懸念。

GRU,VCP,MAO 3 空港 航空貨物輸出入取扱数量&為替動向（単位：トン、対US\$）



（出典：GRU AIRPORT CARGO,VCP AEROPORT ,INFRAEO CARGO）

航空旅客業界

2016年回顧

- 国内線は、有償旅客キロ＝対前年▲5.68%、提供座席キロ＝同▲5.91%で、近年にない前年割れの実績となった。
- 国際線は、ブラジル系航空会社計で、有償旅客キロ＝対前年▲0.27%、提供座席キロ＝同▲3.07%となり、利用率は+2.3pt上昇したものの、需給調整による規模減が進んだ。
- 利用率低迷の打開策として、航空会社間で廉価な運賃での営業競争が激化し、旅客数の減少以上に収益は悪化した。

データ引用元: ANAC

2017年展望

- 国内線は、LATAM航空やGOL航空の業績悪化により、引き続き両社とも低需要路線・便を中心に運休・減便する可能性が高い。
- 国際線は、ブラジル地方都市発着路線の運休・減便で、渡航者数は減少もしくは横這いになると思われる。

特記・周知事項

- 2016年末までに各社の運休・減便は一旦終息したが、中東系航空会社の動向如何では今後の運賃変動が激しくなると予想される。
 - エティハド航空: 3月26日～ サンパウロ＝アブダビ線運休
 - エミレーツ航空: 3月26日～ サンパウロ＝ドバイ＝成田線を機材大型化(A380投入)
- 東京オリンピック・パラリンピックに向けて、ブラジルからの訪日旅客数を如何に増大させるかが課題となっているが、そのためには、スポーツや経済だけでなく、文化・教育・芸術等の様々な分野でブラジル＝日本間の交流活発化と相互理解が必要である。

旅行・ホテル業界

2016年回顧

	2015第1～3 四半期		2016年第1～3四半期		比較	
	売上高（千）	発券枚数	売上高（千）	発券枚数	売上高	発券枚数
国内線航空券	R\$ 3,297,424	5,629,340	R\$ 2,962,850	5,236,534	-10.1%	-7.0%
国際線航空券	R\$ 2,571,100	726,745	R\$ 2,285,376	644,304	-11.1%	-11.3%
ホテル	R\$ 1,682,930		R\$ 1,484,781		-11.8%	

2017年展望

出所: ABRACORP

- 長引く景気低迷により、企業は経費節減のため出張を減らす傾向にあり、個人は失業などへの不安から個人旅行、特に海外旅行を控える傾向にある。
 - 2016年はリオでオリンピックとパラリンピックという一大イベントがあったので不景気にも関わらず、年間を通した売り上げはあまり落ち込まずに済んだが、2017年は大きなイベントがない。
 - 米国のトランプ大統領の入国規制政策によりブラジル人の米国への渡航がさらに減少することが危惧される。
 - 2017年3月25日をもってエティハド航空がサンパウロ路線を廃止するが、エティハド航空撤退により運賃が高騰することが懸念される。
 - 昨今の治安悪化、黄熱病の流行などにより、日本からブラジルへ来る観光客が激減することが懸念される。
- ◇ 旅行業界にとっては2016年以上に厳しい年になることが見込まれる。一方、ホテル業界は2017年は効率・生産性・創造性を優先した少額投資の期待から緩やかな市場の回復を見込んでいる。

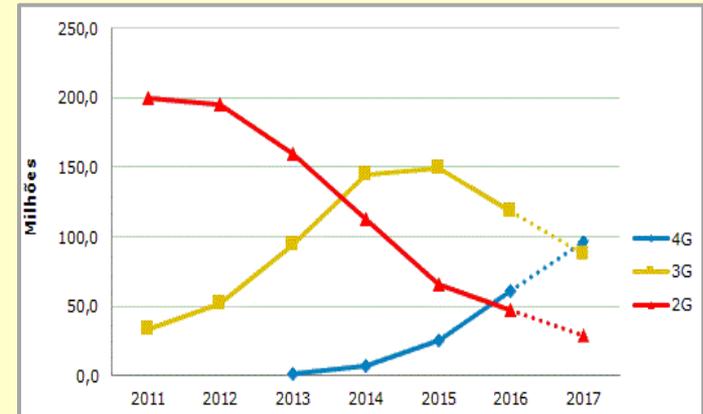
トピックス

- 今年の3月14日より、ある一定数量まで無料だった受託荷物を航空会社が有料で預かることができるようになる。
- 黄熱の予防接種証明書（イエローカード）の有効期間について、2016年7月11日以降は、これまでの「接種10日後から10年間」から、「接種10日後から生涯有効」へと変更された。

2016年回顧

- 全体的な契約者数は、長引く景気低迷の影響に加え、キャリア間の接続料金引下げに伴う複数SIM保有者の減少より、前年より約1,400万減少。
- 4G契約数に関しては、2Gと3Gからの移行が順調に進んで、前年から約3,500万増加。ブラジル市場の25%を占める。

	2016年 [単位: 万]	前年比
携帯電話契約数 (全体)	24,407	▲5.3 %
4G	6,010	+36.2 %
3G	11,910	▲20.1 %
2G	4,762	▲27.8 %
データカード等	1,725	▲0.1 %



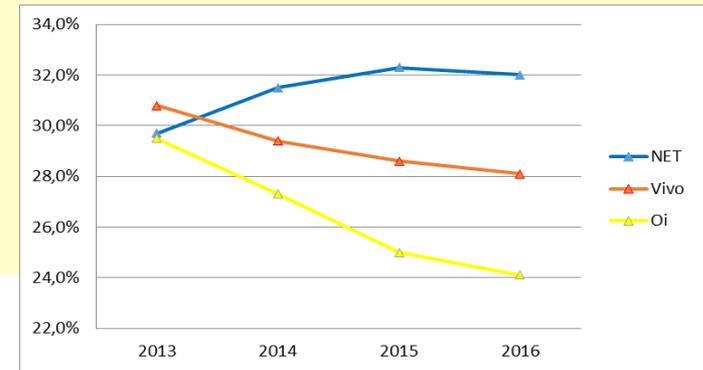
出典]Teleco HP <http://www.teleco.com.br>

2017年展望

- 4Gへの移行は更に加速し、年内に3Gの契約数を超える見通し。
- IoT/M2Mに関しては、狭帯域・低電力化に対応したNB-IoT (Narrow Band IoT)の運用が開始され、更に普及が進むと見込まれる。
- 会社更生手続きを申請したOi社に関しては、債権者との交渉が継続中。具体的な対処については、2018年にずれ込む見通し。

2016年回顧

- インターネットユーザ数：1億3,911万ユーザ（世界第4位）
- ブロードバンドのマーケットシェア：NET32.0%、Vivo28.0%、OI24.0%
- ブロードバンドアクセス数：2672万（2016年11月）
- インターネット普及率は約66.4%（世界第64位）



【出典】Teleco HP <http://www.teleco.com.br>

2017年展望

- 個人のインターネット利用多角化に加え、ビジネスにおけるインターネット経由でのシステム利用が増加する等、引き続き利用者の増加が見込まれる。大都市中心部以外で高速化/安定化/低価格化が求められている。
- ハイスピード回線の提供が継続的に進むことが見込まれる。しかし、個人の動画サービス利用や、企業のサービス型システム利用等の大容量データ通信サービスの提供が進み、帯域の圧迫による回線安定性のさらなる低下が懸念される。

2016年回顧

- システムのサービス化に伴い、サーバやソフトウェアを一般企業が保有する形態ではなく、ベンダーが一元的に提供する傾向があった。
- MicrosoftによるWindows7,8.1からのWindows10への無料アップデート対応が終了。
- Windows Server 2016が発売開始され、ライセンス形態が大きく変更。
- 2016年のIT投資額はシステムのサービス型提供がUSD14.85bilに達し、パッケージソフトウェアのUSD12.92billionを上回る。サービスでの利用が広く普及した。



【出典】Statista HP <https://www.statista.com>

2017年展望

- Windows7,8.1,10を混在利用する企業が増加し、ソフトウェア導入等において対応確認事項が増加する見込み。
- コスト削減の目的で、サービス利用によるシステム更改の需要が高まる見通し。
- クラウドサービス市場は成長を続けており、2012年のUSD217millionから2017年にはUSD1.1billionに達することが予想される等、さらに多くの企業にて導入が進む見込み。

景気回復に向けて、いま為すべきことは？

<為すべきことはなにか>

- ・ 最低限の機能を残した組織を維持し、品質・キャッシュフローの悪化を防ぎ景気回復を待つ。
- ・ 労働法改正、年金制度改革案の採用に期待する。
- ・ モバイルを活用した新たな商品やサービス等の開発による新市場の創出を行う。
- ・ 魅力的な商品を創出し需要喚起を行う。
- ・ ブラジルへの旅行者呼び込みのハードルとなっている、治安の安定化、ビザの簡略化要求を継続し行う。
- ・ 国際法にならって標準化を進めるように促していく。(税制簡素化、シスコセルビ等々)

建設不動産 部会

奥地 正敏 部会長

Departamento de Construção e Imobiliária

Presidente: Masatoshi Okuchi

建設不動産部会

2016年の回顧と2017年の展望
～景気回復に向けて、いま為すべきことは？～

1. 建設市場の現状
2. 不動産市場の現状
3. 部会内の動向
4. ジャパン・ハウスー「建築としての魅力」

2017年2月

建設不動産部会

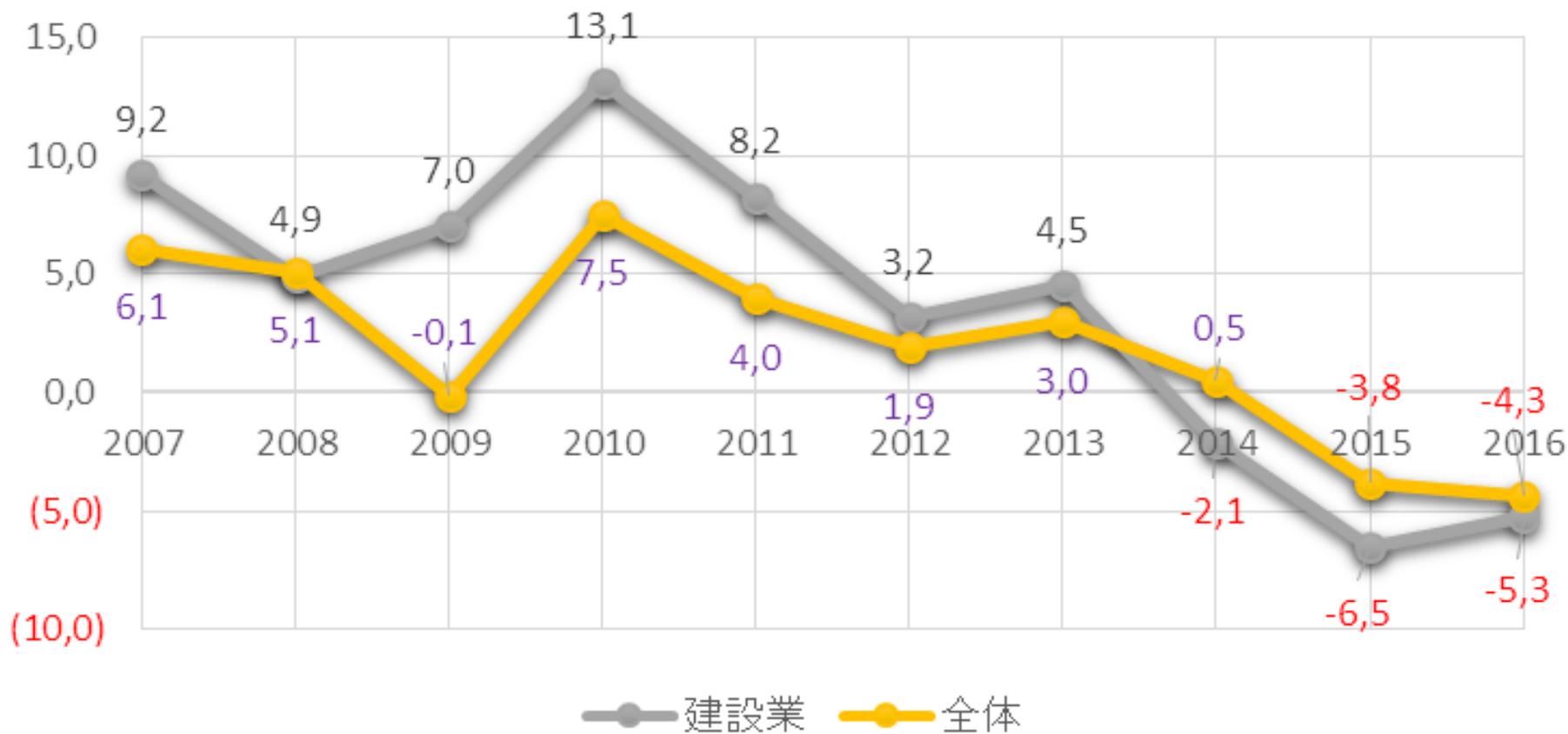
2016年の回顧と2017年の展望
～景気回復に向けて、いま為すべきことは？～

1. 建設市場の現状
 - 1-1) GDP成長率
 - 1-2) 失業率
 - 1-3) 建設コスト

1. 建設市場の現状

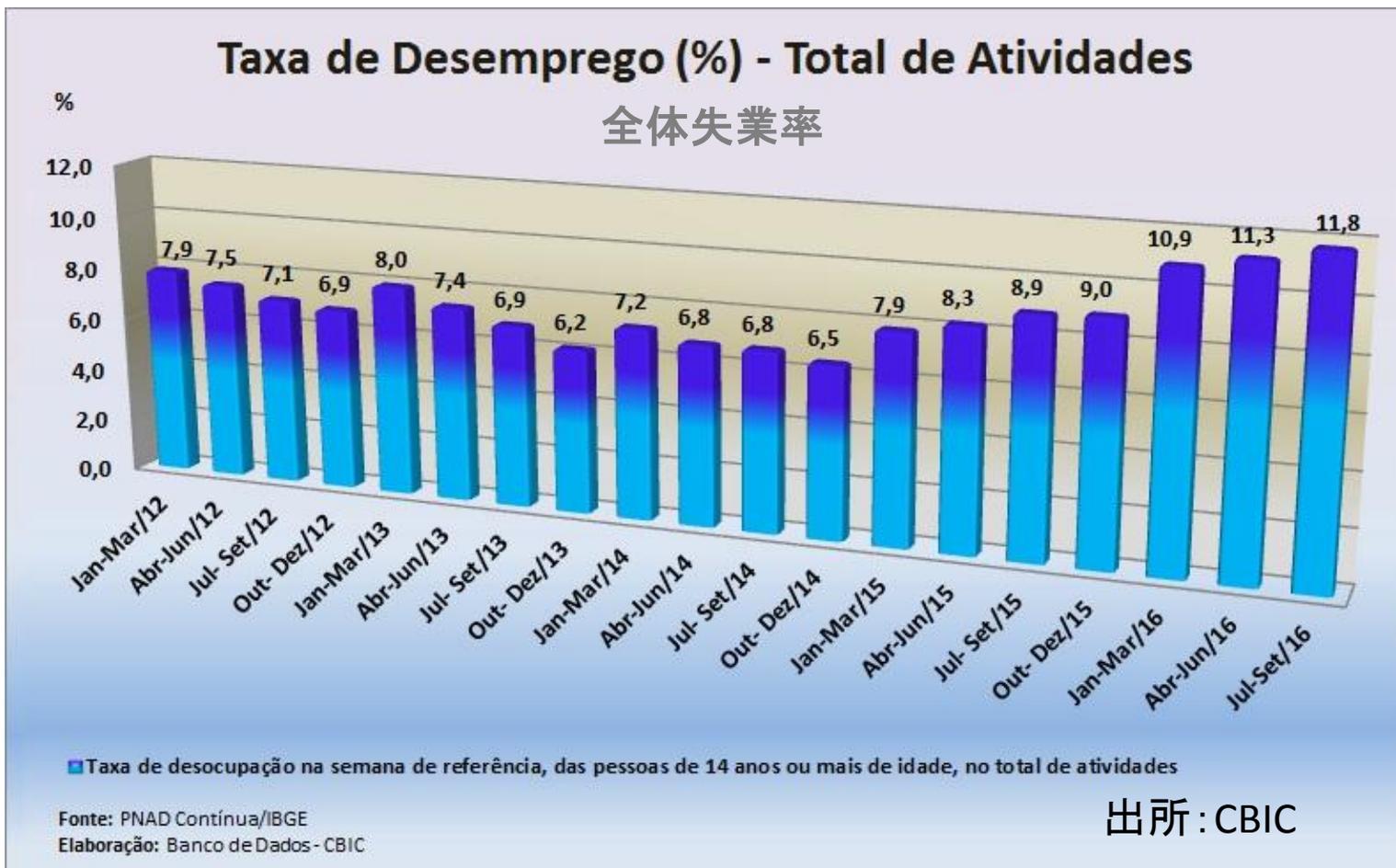
1-1) GDP成長率

実質GDP成長率



1. 建設市場の現状

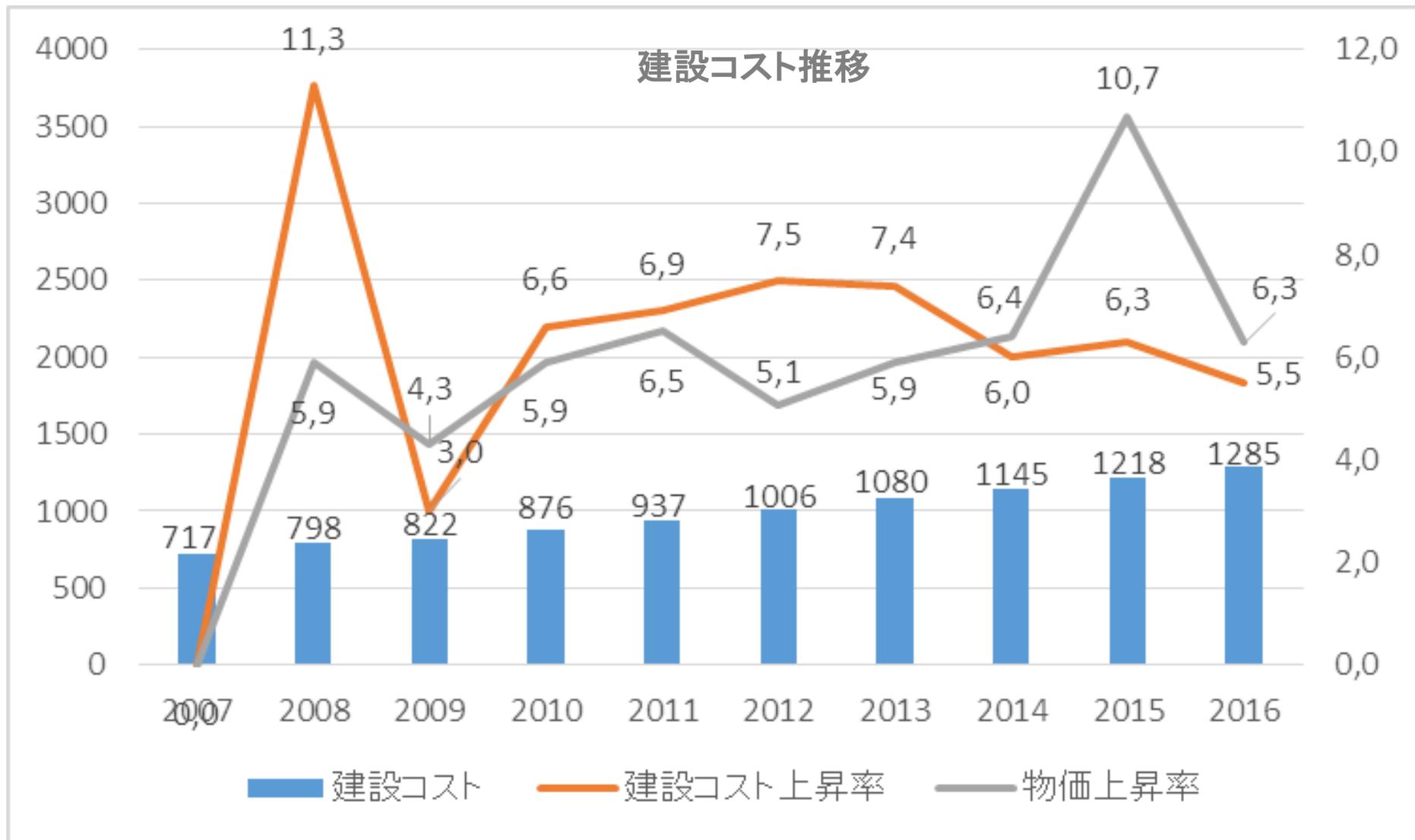
1-2) 失業率



建設業界はワースト1位の14.5%（2016年11月）

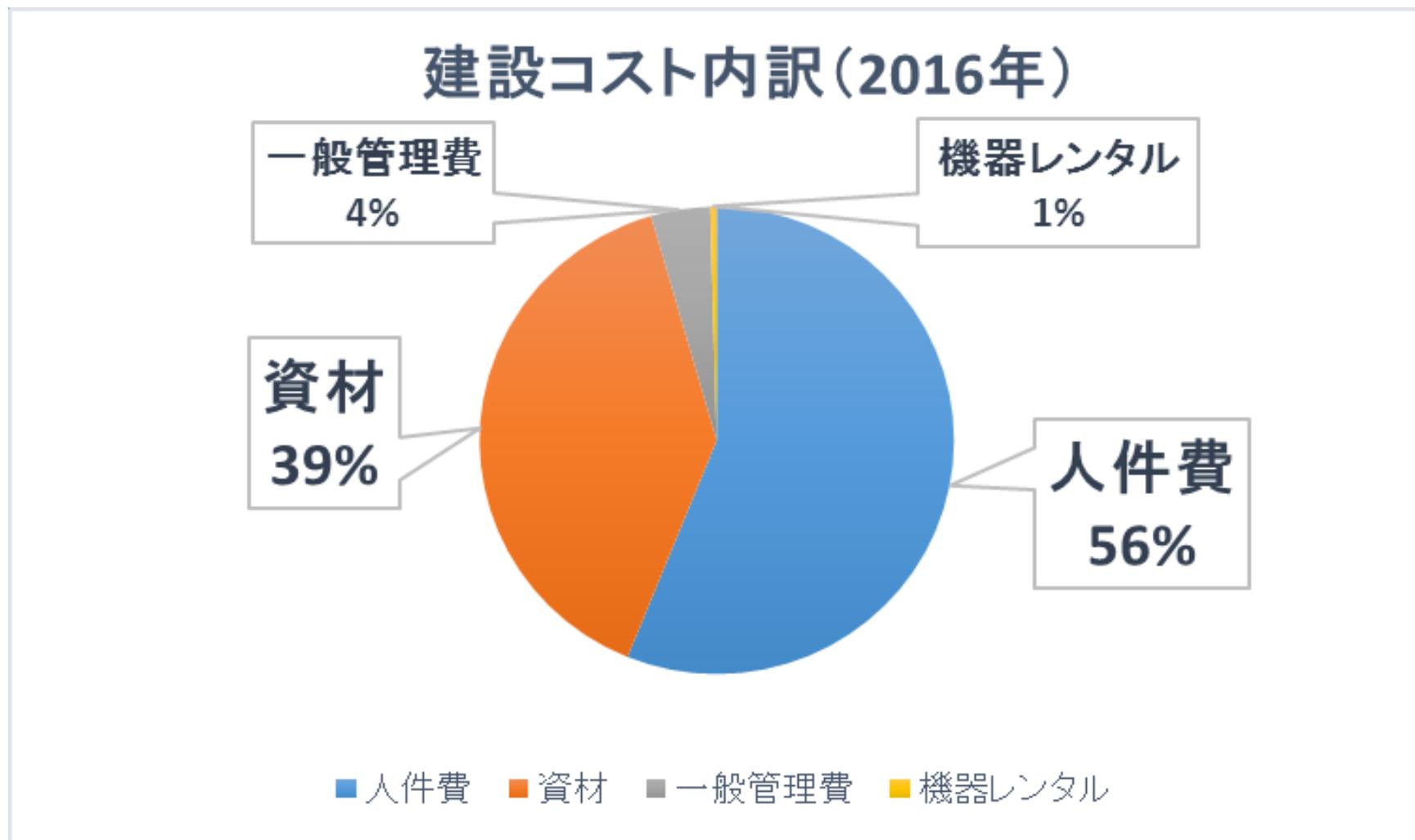
1. 建設市場の現状

1-3) 建設コスト



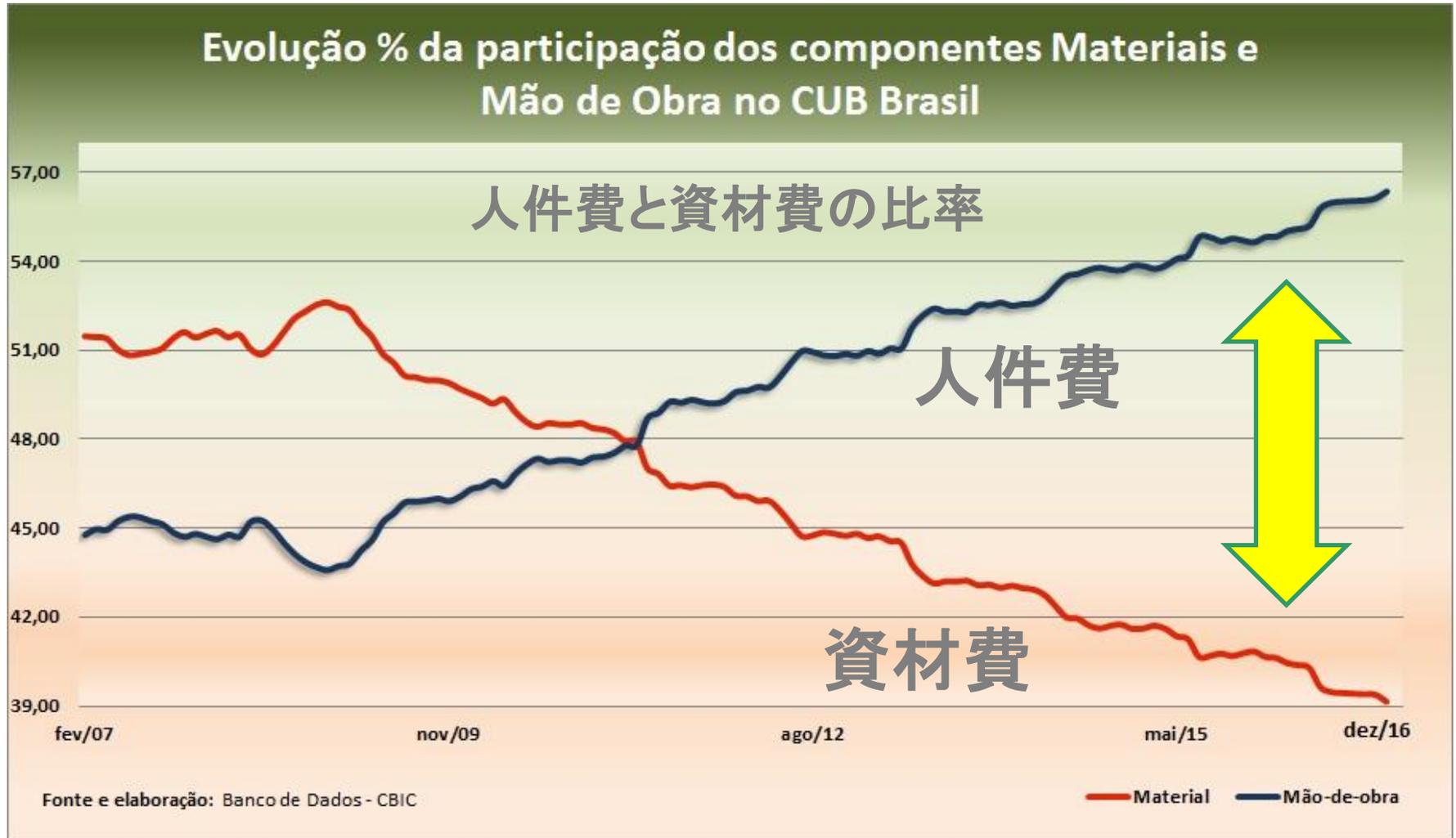
1. 建設市場の現状

1-3) 建設コスト



1. 建設市場の現状

1-3) 建設コスト



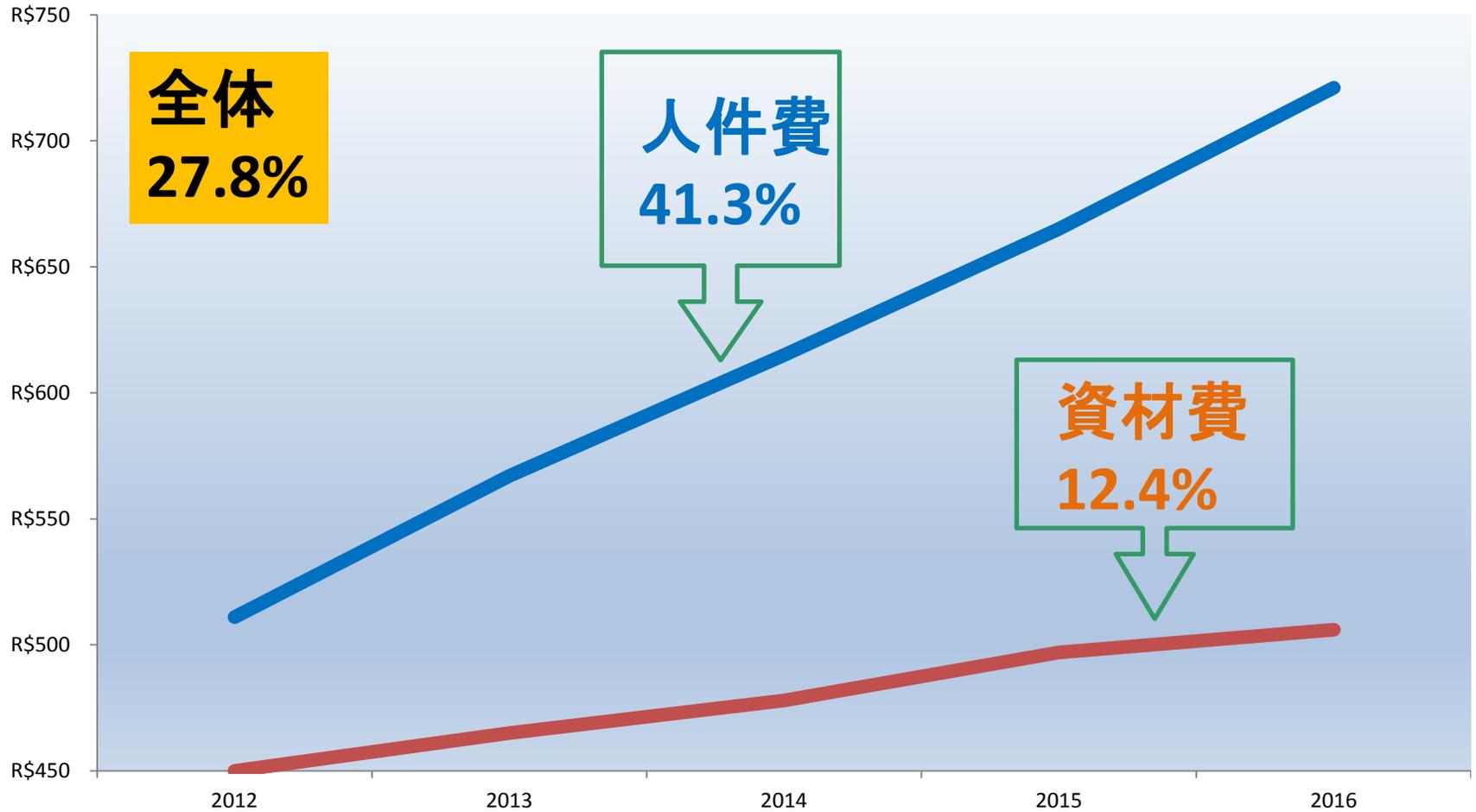
出所: CBIC

建設不動産部会

1. 建設市場の現状

1-3) 建設コスト

上昇率比較



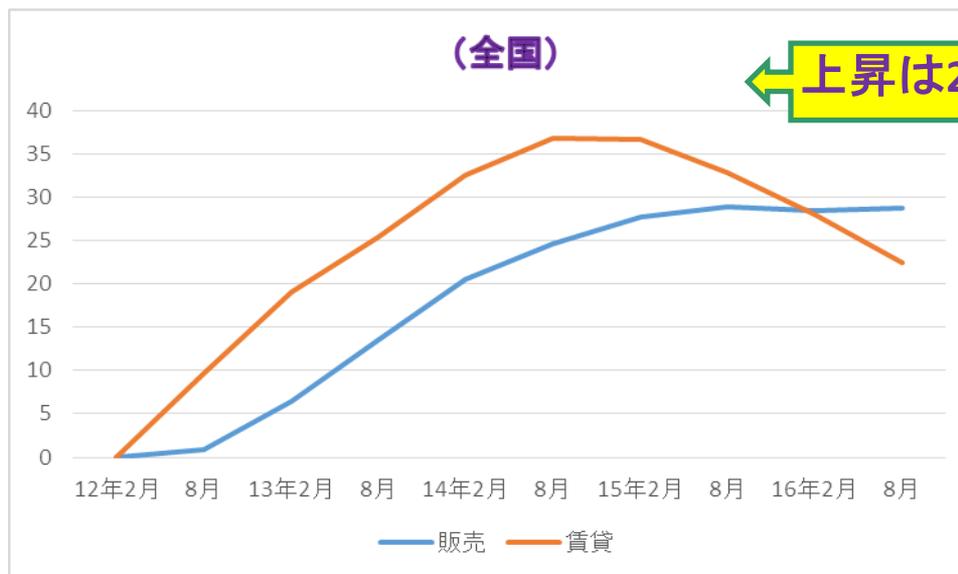
建設不動産部会

2016年の回顧と2017年の展望
～景気回復に向けて、いま為すべきことは？～

2. 不動産市場の現状

2. 不動産市場の現状

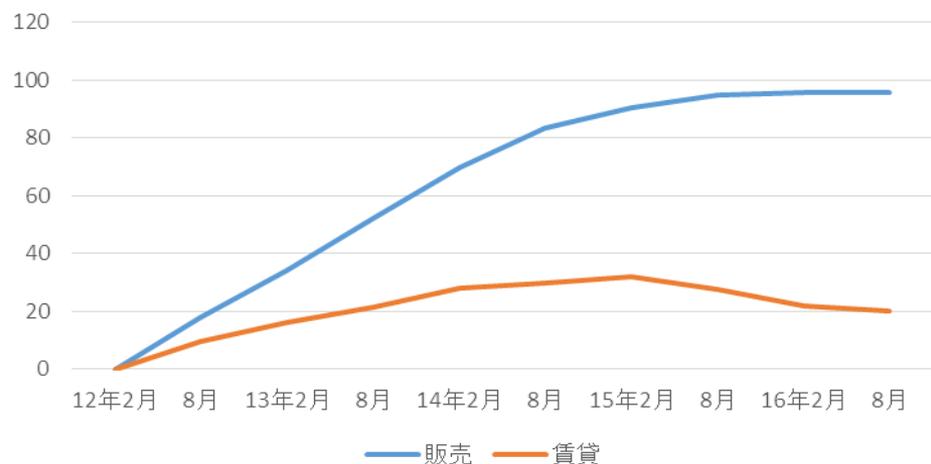
価格推移



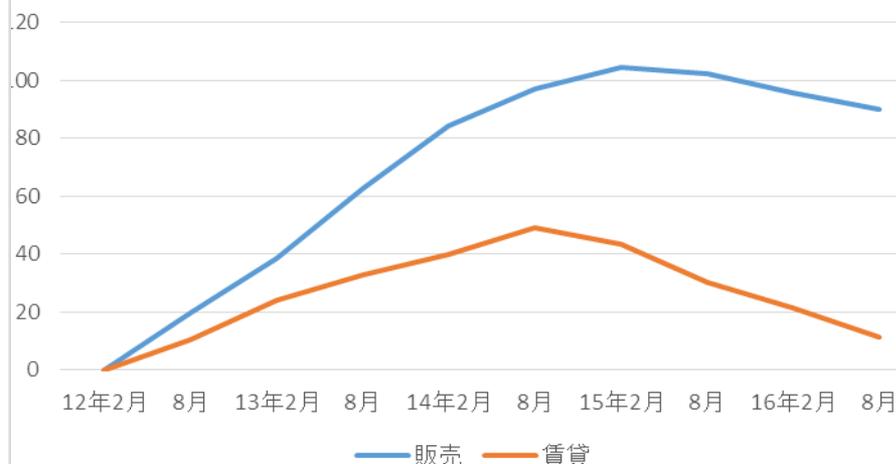
販売
全国、SPは横ばい
リオは下落

賃貸
軒並み下落
下げ幅顕著なリオ

(サンパウロ)



(リオ)



建設・不動産市場向け経済政策

PPI

高速道路
鉄道
空港
港湾
基礎衛生

短期間にR\$20億

MCMV

- ・中所得層にも拡大
- ・上限価格の引き上げ
- ・2014年実績R\$240億

FGTSからR\$70億融資

建設不動産部会

2016年の回顧と2017年の展望
～景気回復に向けて、いま為すべきことは？～

3. 部会内の動向

3-1) 伯経済について

3-2) 政府の課題

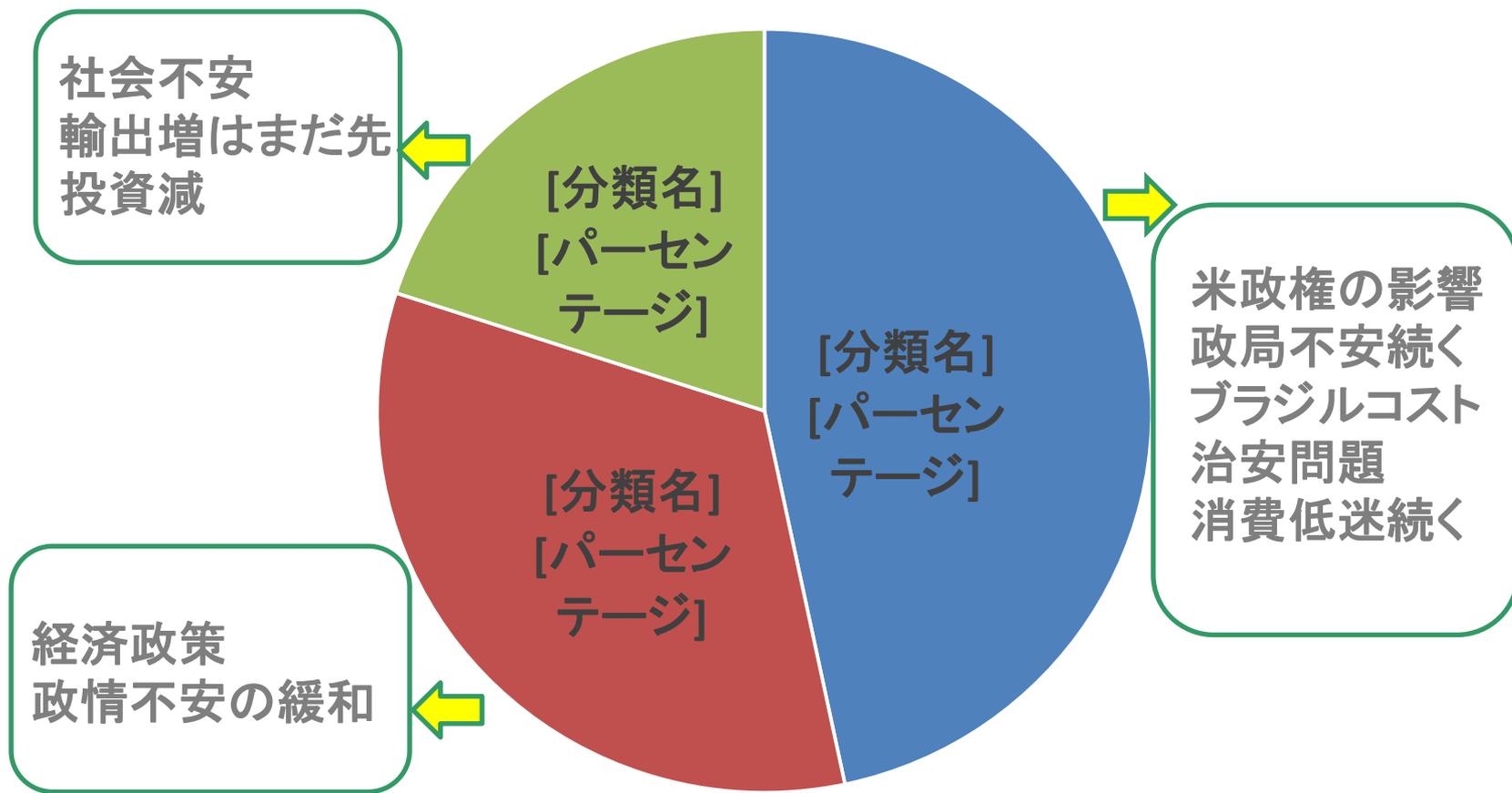
3-3) 部会員の業績

3-4) 回顧と展望

3. 部会の見解

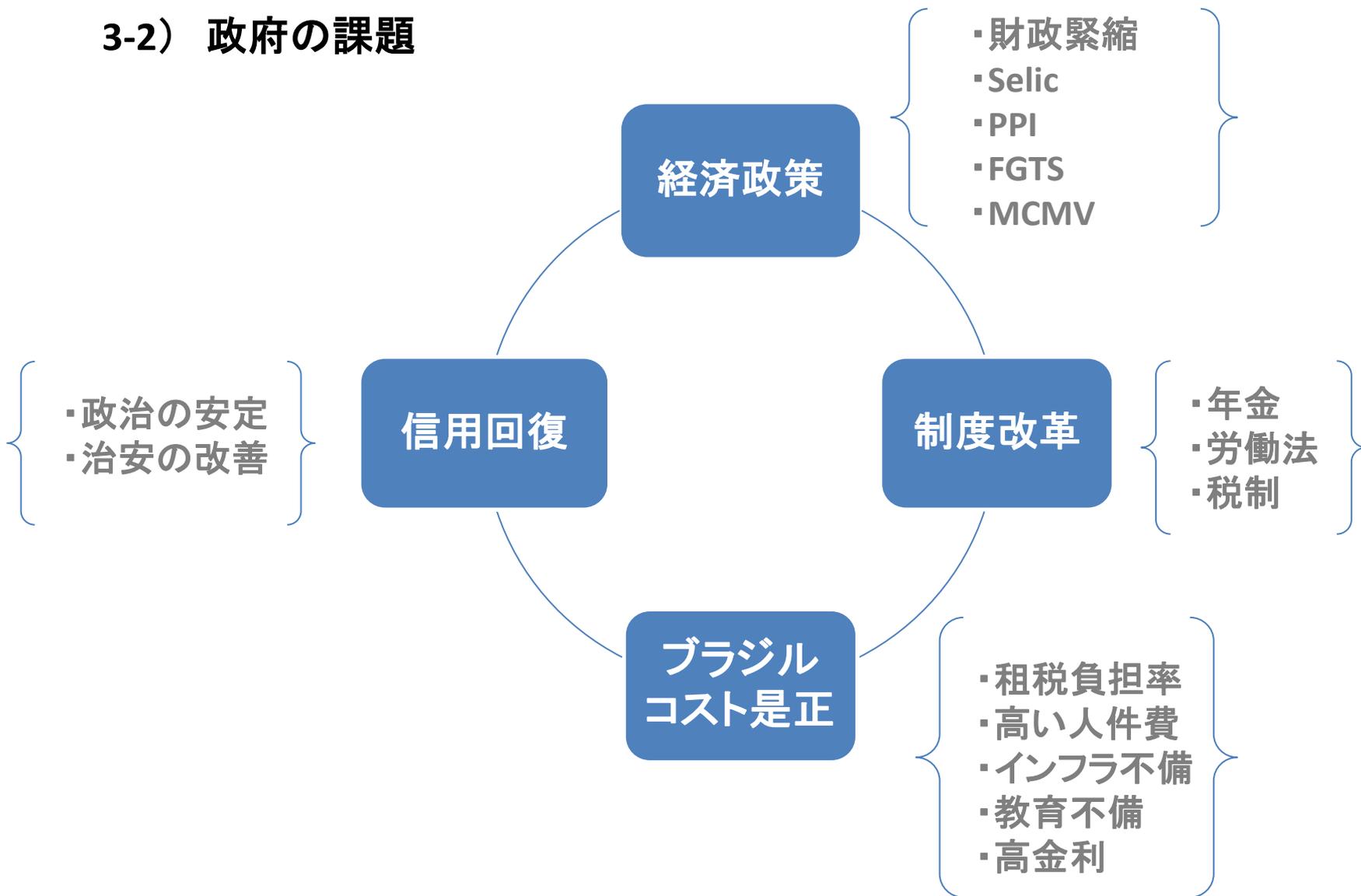
3-1) 2017年度の伯経済予測(前年比)

部会員の見解



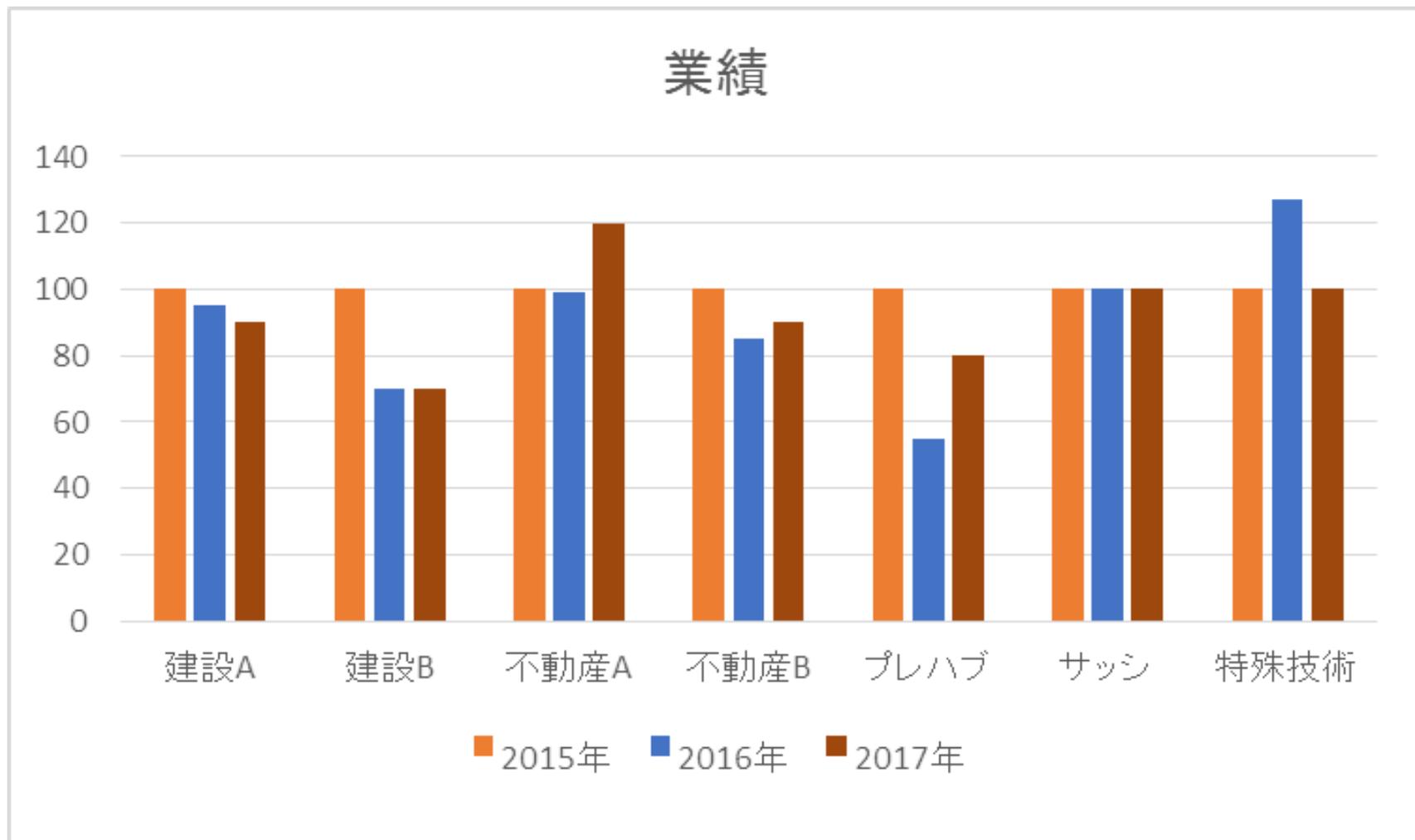
3. 部会の見解

3-2) 政府の課題



3. 部会の見解

3-3) 部会員の業績



3-4) 回顧と展望

2016年

2017年

建設

設備投資抑制により工事量減
受注競争の激化により利益率大幅減
工事の小規模化、日系企業は工事なし



価格競争力向上
営業拡大に注力

不動産

工場用地購入、レンタルともに需要ほぼなし
駐在員数減に伴う業務依頼減、借り換え
需要は安定



相談件数微増
新事業で売上増

プレ
ハブ

日系顧客の割合増（1割→5割強）
五輪後は新規受注なく、前年比半減



営業強化
クロージングへ

サッシ

不動産市場低迷の影響で、受注高2割減



市場回復次第

特殊
技術

大型工事の受注で、売上、完工ともに好調
売上は4年連続右肩上がり



大型工事(地下鉄)
小型工事(下水道)

3-4) 回顧と展望

Construtora HOSS Ltda.

ADATA



UNILEVER



AMBEV



By google image

GESTAMP



PIRELLI



GOODYEAR



CABOT



SYNGENTA



EMBRAER



建設不動産部会

2016年の回顧と2017年の展望
～景気回復に向けて、いま為すべきことは？～

4. ジャパン・ハウスー「建築としての魅力」

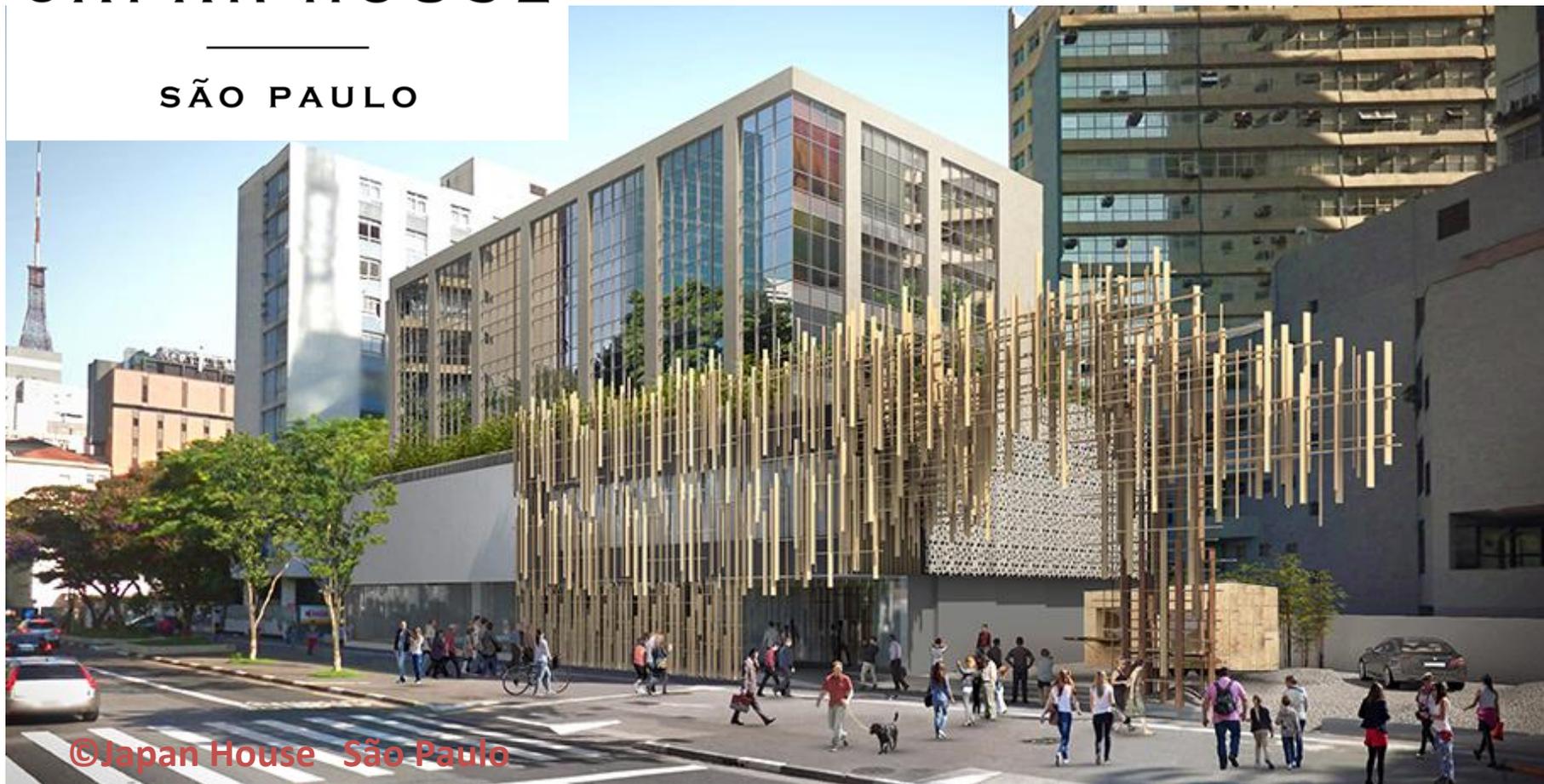
2017年2月

4. ジャパン・ハウス「建築としての魅力」



JAPAN HOUSE

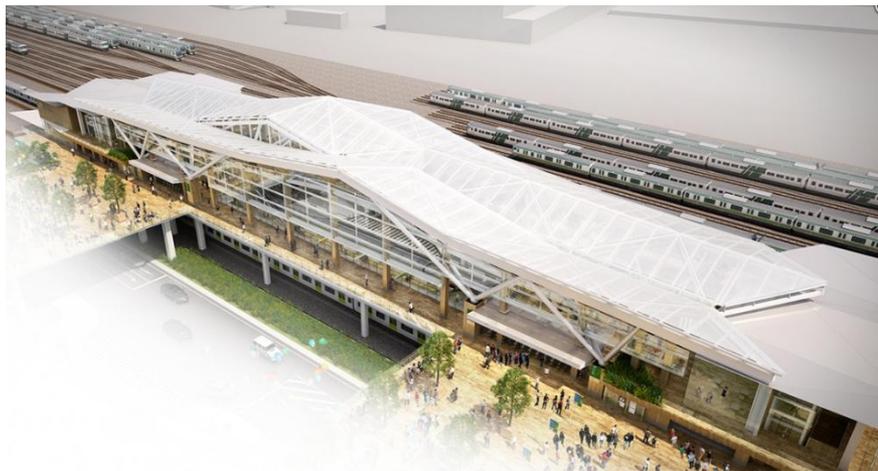
SÃO PAULO



4. ジャパン・ハウスー「建築としての魅力」



東京五輪の舞台となる新国立競技場



再開発の顔、JR新品川駅(仮称)

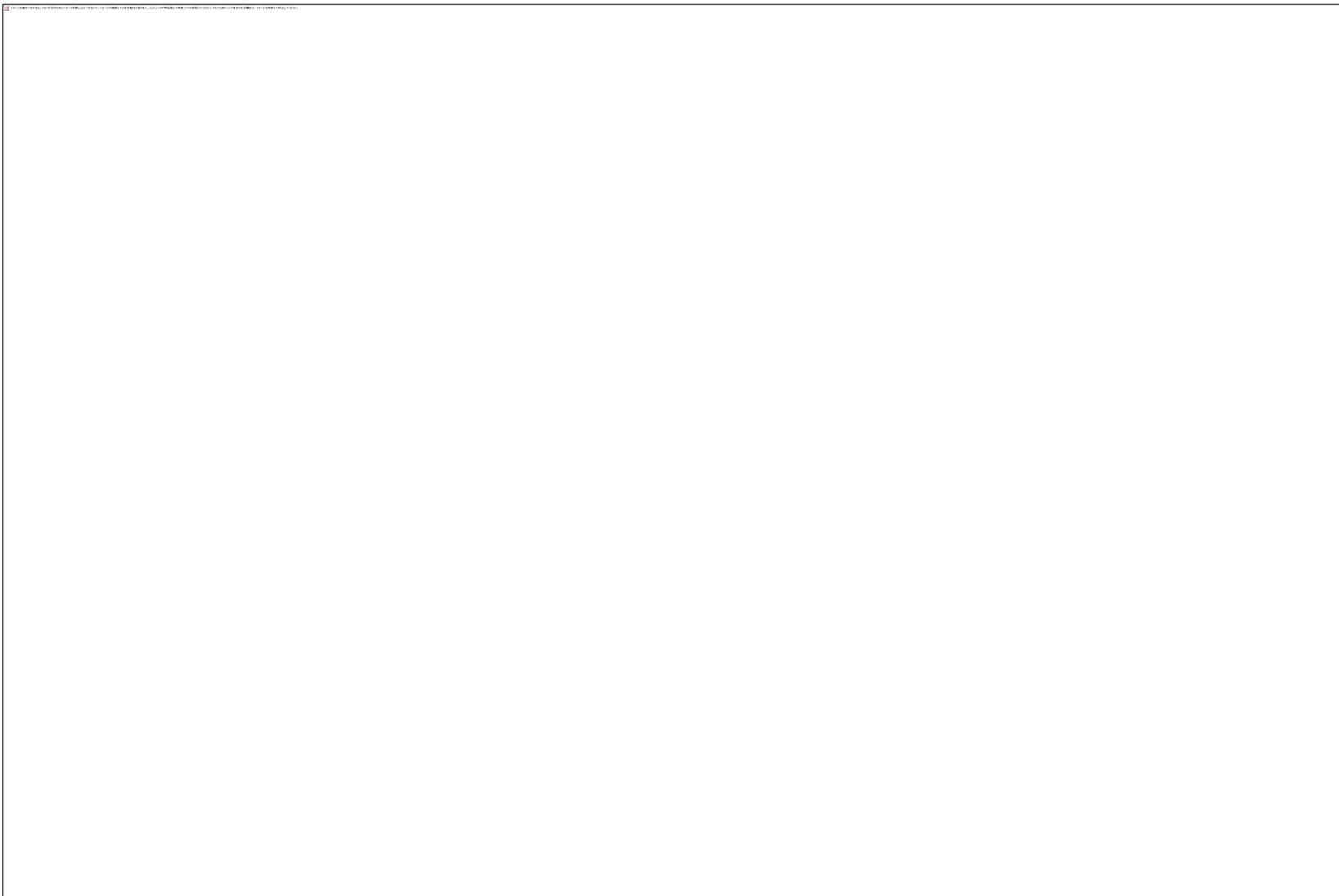


隈研吾

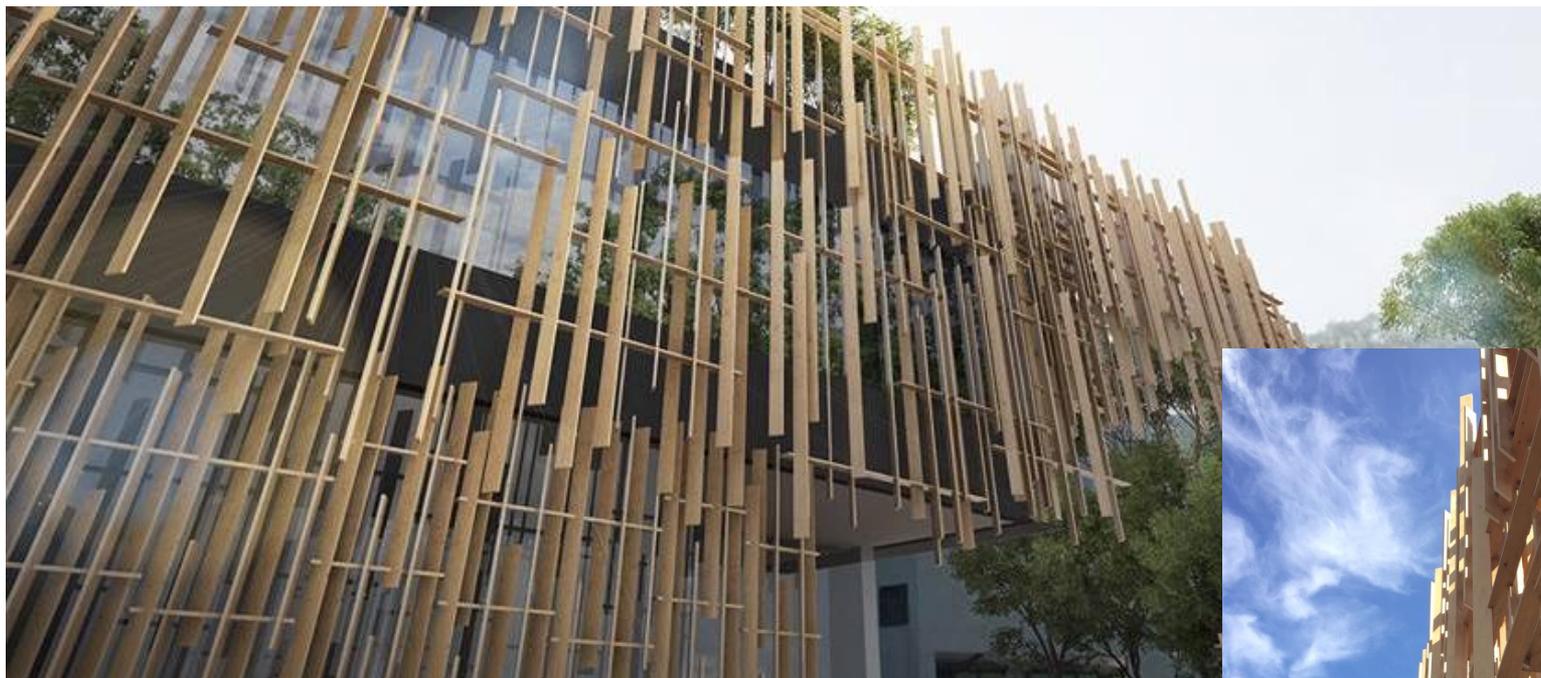
1954年、横浜市生まれ
東京大建築学科大学院修了
2009年から東大教授
代表作:歌舞伎座、サントリー
美術館、豊島区庁舎

4. ジャパン・ハウスー「建築としての魅力」

東濃ひのきを用いたファサード



4. ジャパン・ハウスー「建築としての魅力」



中島工務店
昭和31年創業
岐阜県中津川市
2015年 日本館修復

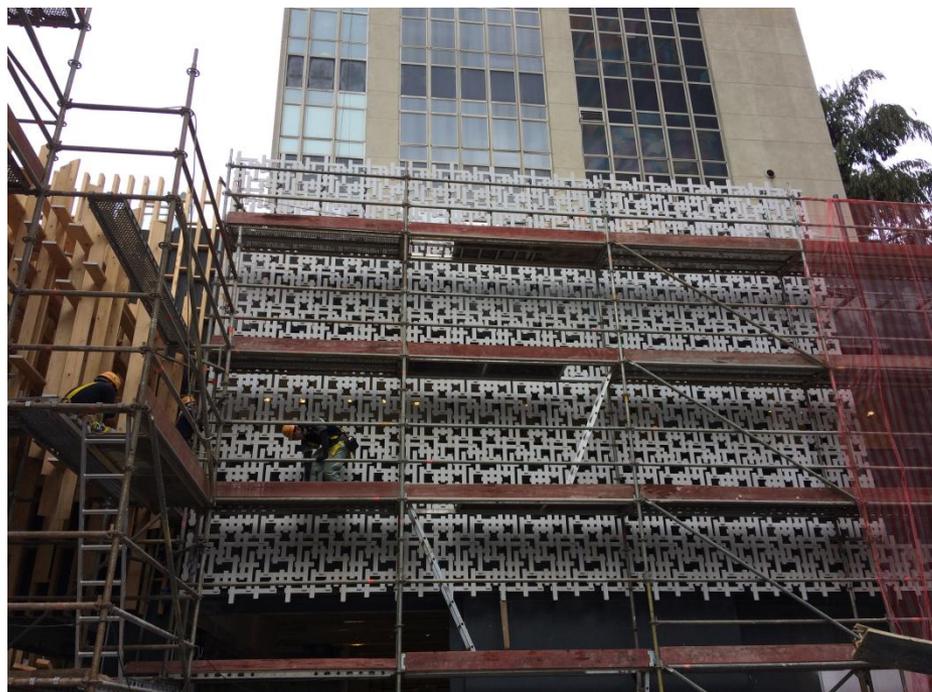


4. ジャパン・ハウスー「建築としての魅力」



4. ジャパン・ハウスー「建築としての魅力」

外壁のコボゴブロック



内側

4. ジャパン・ハウスー「建築としての魅力」

小林康夫
越後門出和紙職人
紙漉き5代目
和紙づくりをテーマに村おこし
世界中から弟子志望
伝説の和紙職人



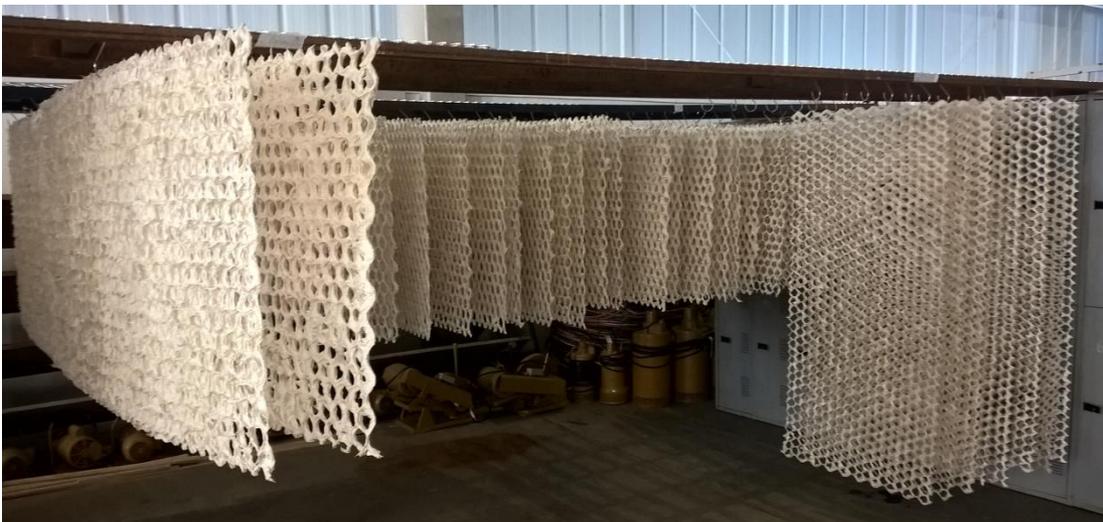
内装を彩る和紙パネル天井

4. ジャパン・ハウスー「建築としての魅力」

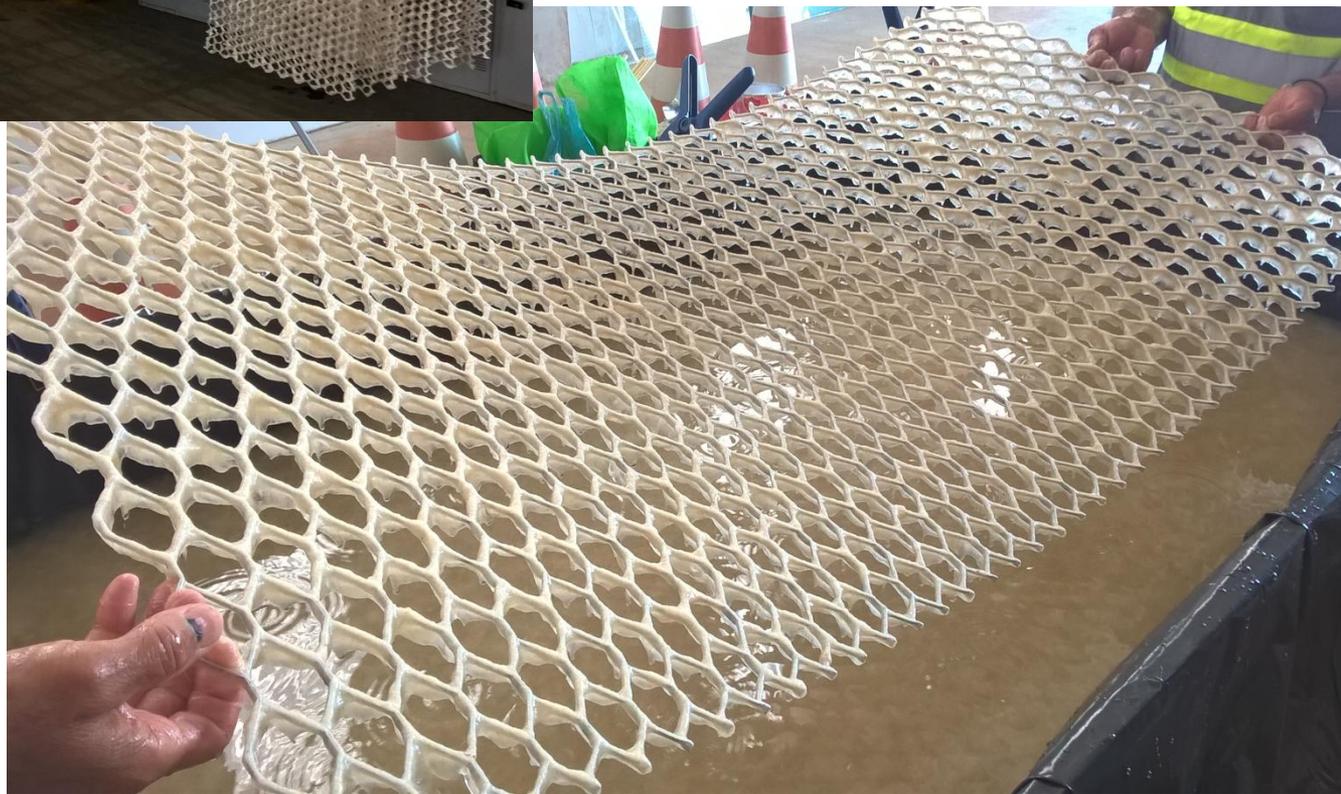


当社倉庫で和紙作り
社員にも懇切丁寧に指導

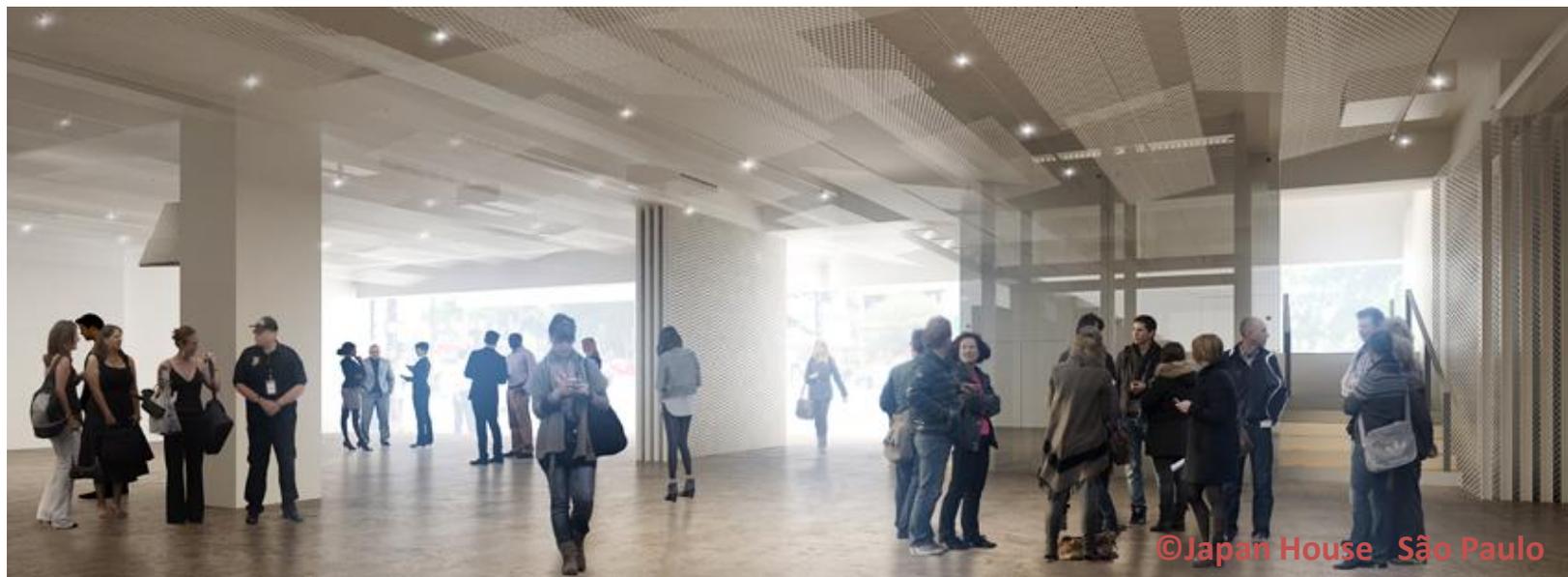
4. ジャパン・ハウスー「建築としての魅力」



完成したブラジル産「門出和紙」



4. ジャパン・ハウス「建築としての魅力」



4. ジャパン・ハウス「建築としての魅力」

ニーマイヤーとともにパウリスタの新たなランドマークに



ジャパン・ハウス見学会

(建設不動産部会・ジャパンハウス共催)

- 日時: 2017年3月15日(水) 16～17時
- 場所: ジャパン・ハウス・サンパウロ
(Av. Paulista, 52)

ご清聴ありがとうございました

繊維 部会

南村 幸彦 部会長

Departamento de Fiação e Tecelagem

Presidente: Yukihiro Minamimura

2016年の回顧と2017年の展望

景気回復に向けて、いま為すべきことは？



2017年2月23日

ブラジル日本商工会議所 繊維部会

部会長 東洋紡ブラジル 南村幸彦

目次

＼16年の回顧

- 綿花
- 綿糸
- 合繊
- 生地・既製服
- ファスナー
- 総評

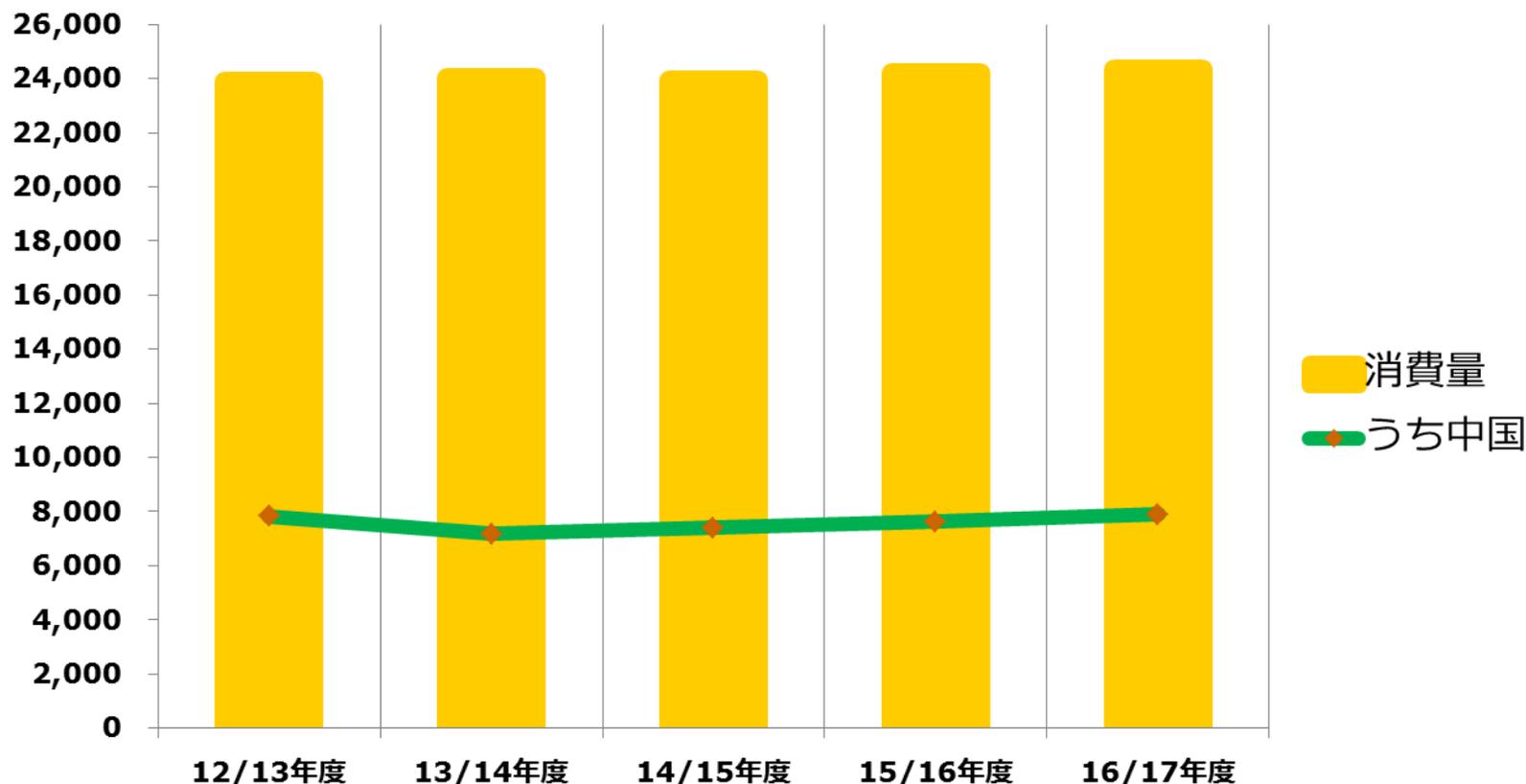
＼17年の展望

- 世界の綿花需給
- 国内の綿花需給
- レアル高の影響
- 綿糸市況
- 国内競争の激化

副題

- 課題整理
- 取り組み

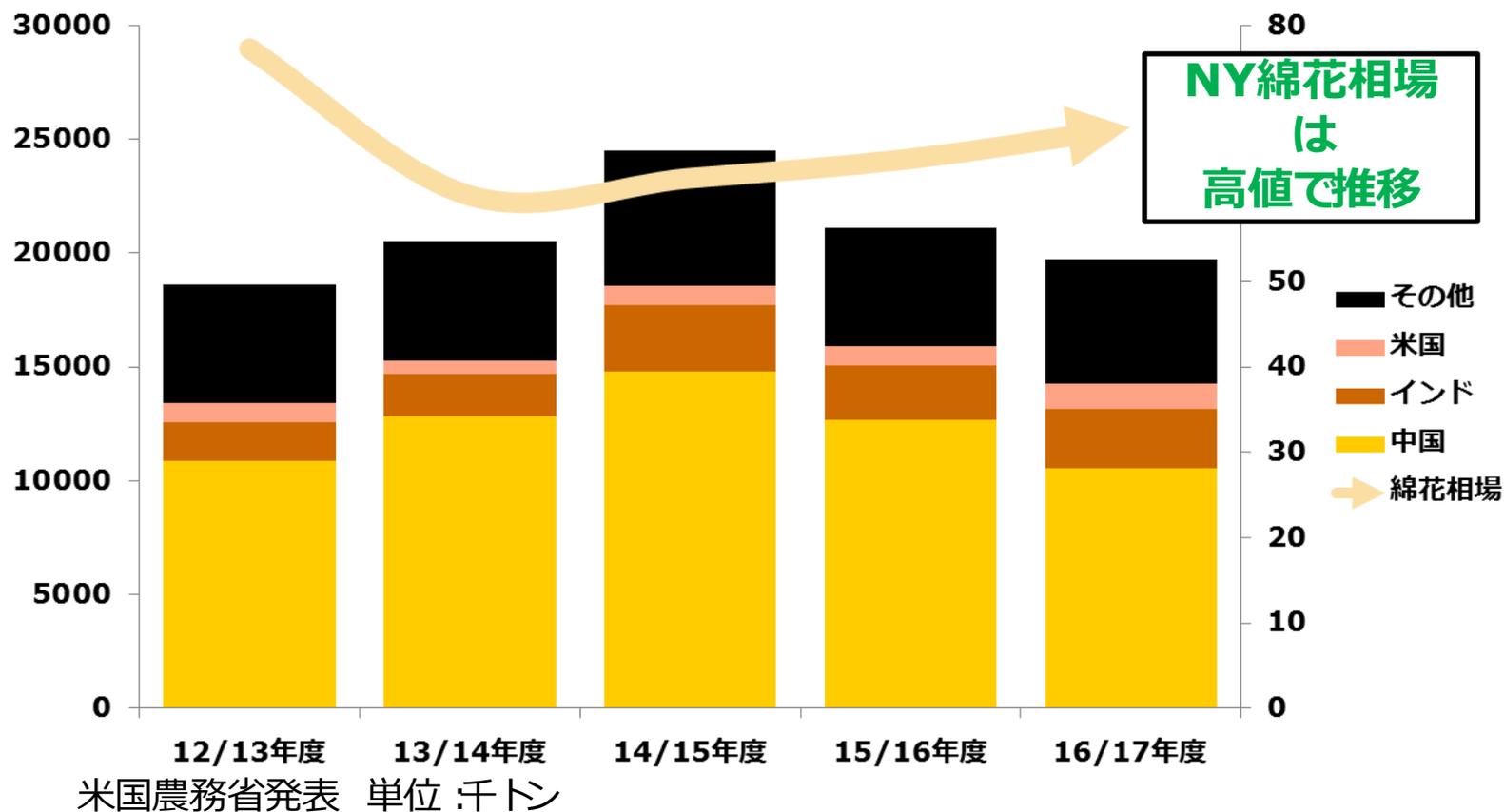
世界の綿花 消費量



米国農務省発表 単位:千トン

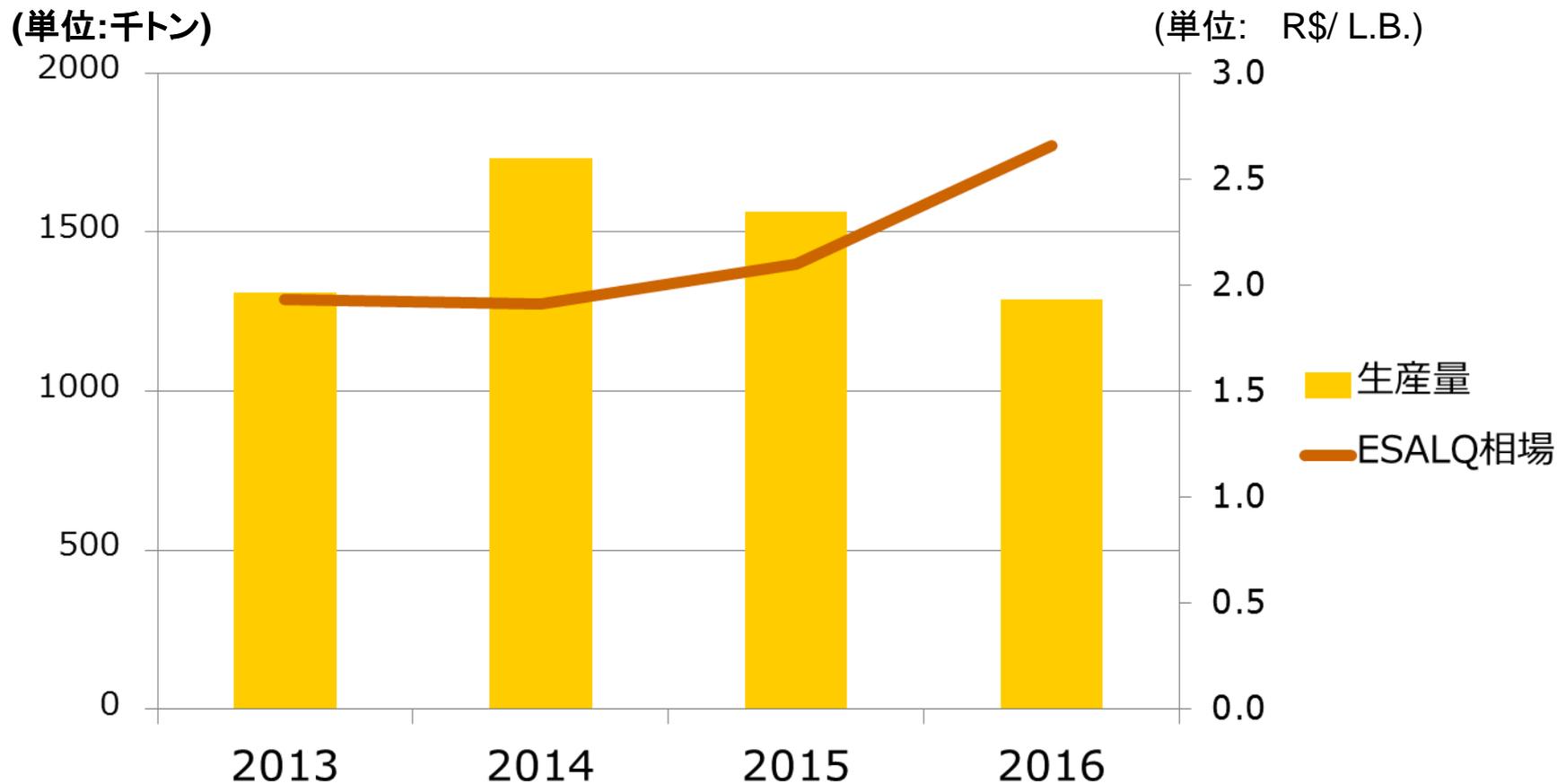
- 綿花消費量は安定的に推移している。中国が1/3弱を占めるが、綿花輸入量ではバングラデシュとベトナムに次ぐ第三位となり、影響力が緩和された

世界の綿花 在庫量とNY綿花相場



- 綿花余剰在庫の減少傾向が継続し、NY綿花相場は高値で推移した。
- 需給バランスから'17は堅調な相場を予想するが、米国の経済政策 4

ブラジルの綿花 生産量と相場

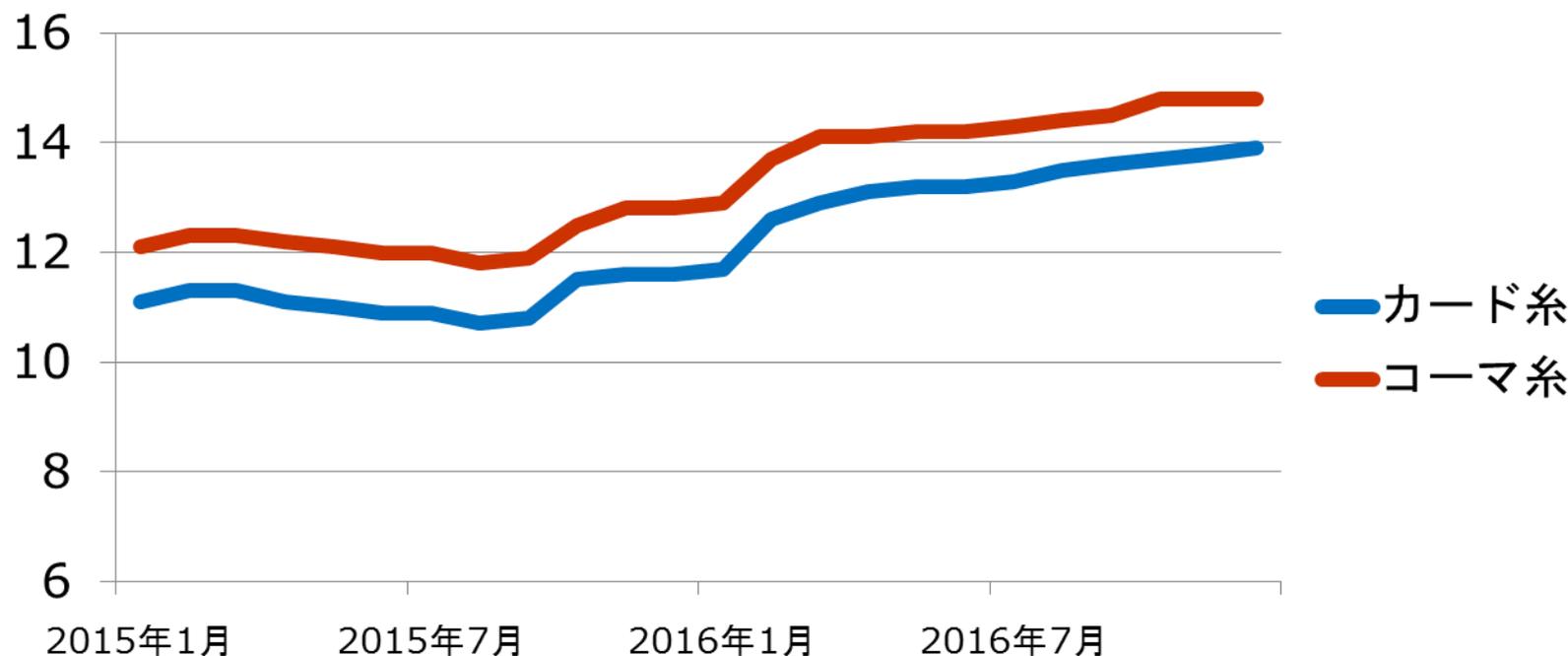


- 綿花生産量は前年比で減少(バイア州の不作)。消費需要も減少したが、輸出が優先されたため、国内への綿花供給は不足気味となった。



国内の綿糸相場

(単位: R\$/kg)

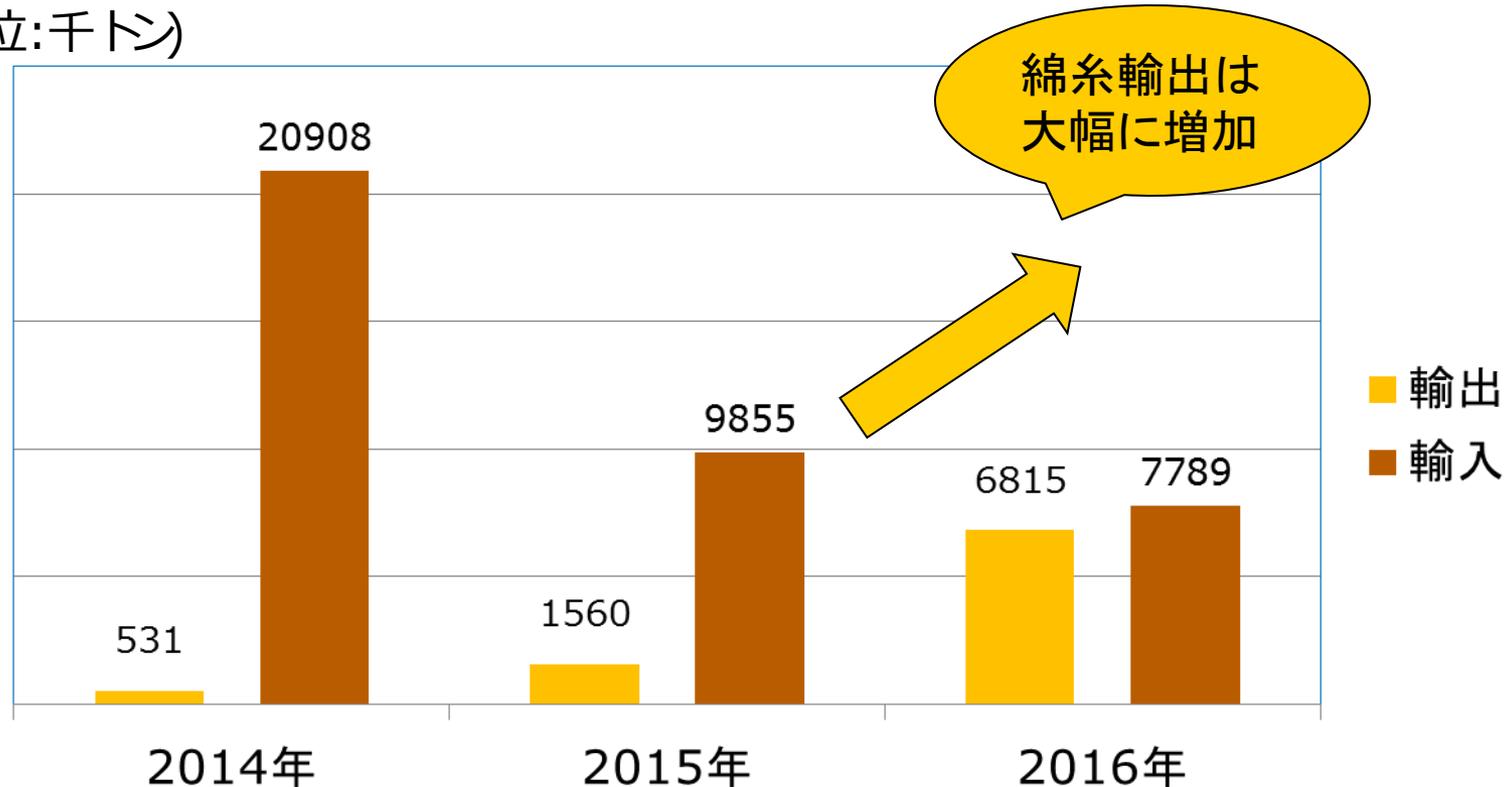


- 綿花価格が上昇を続け、厳しい1年となった。綿糸市況も上昇したが、ブラジル紡績の安値販売により綿花コスト増を補うまでには至らなかった。
- 下半期は、為替相場に対する不安感から衣料品の輸入が減り、国

綿糸の輸出入

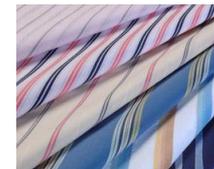


(単位:千トン)



- レアル安が続いて、南米諸国向けの輸出が好調に推移。逆に綿糸の輸入は市況の低迷もあって20%を超える減少となった。
- '17年は、レアルの反発による採算悪化から、綿糸輸出は勢いを無くすと見込む。逆に紡績糸の需給タイト感が増せば、綿糸輸入は大きく7

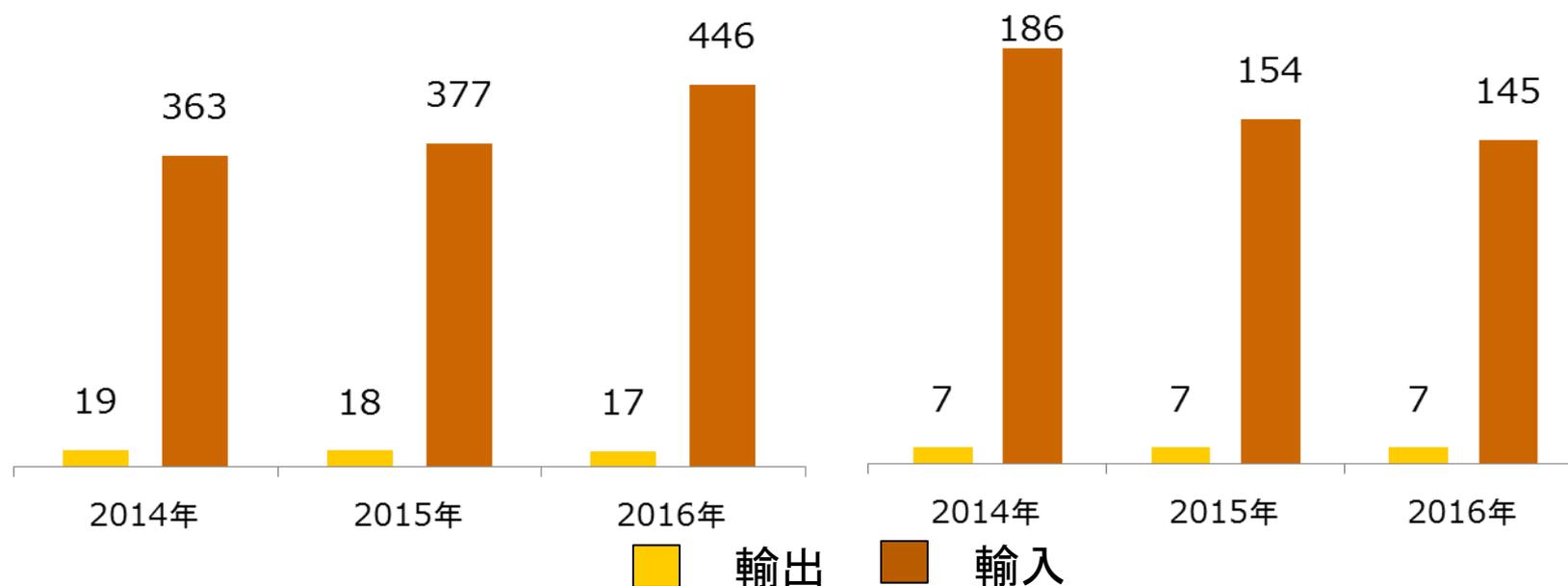
合成繊維の輸出入



(単位:千トン)

合成繊維 ファイバー

合成繊維 織物

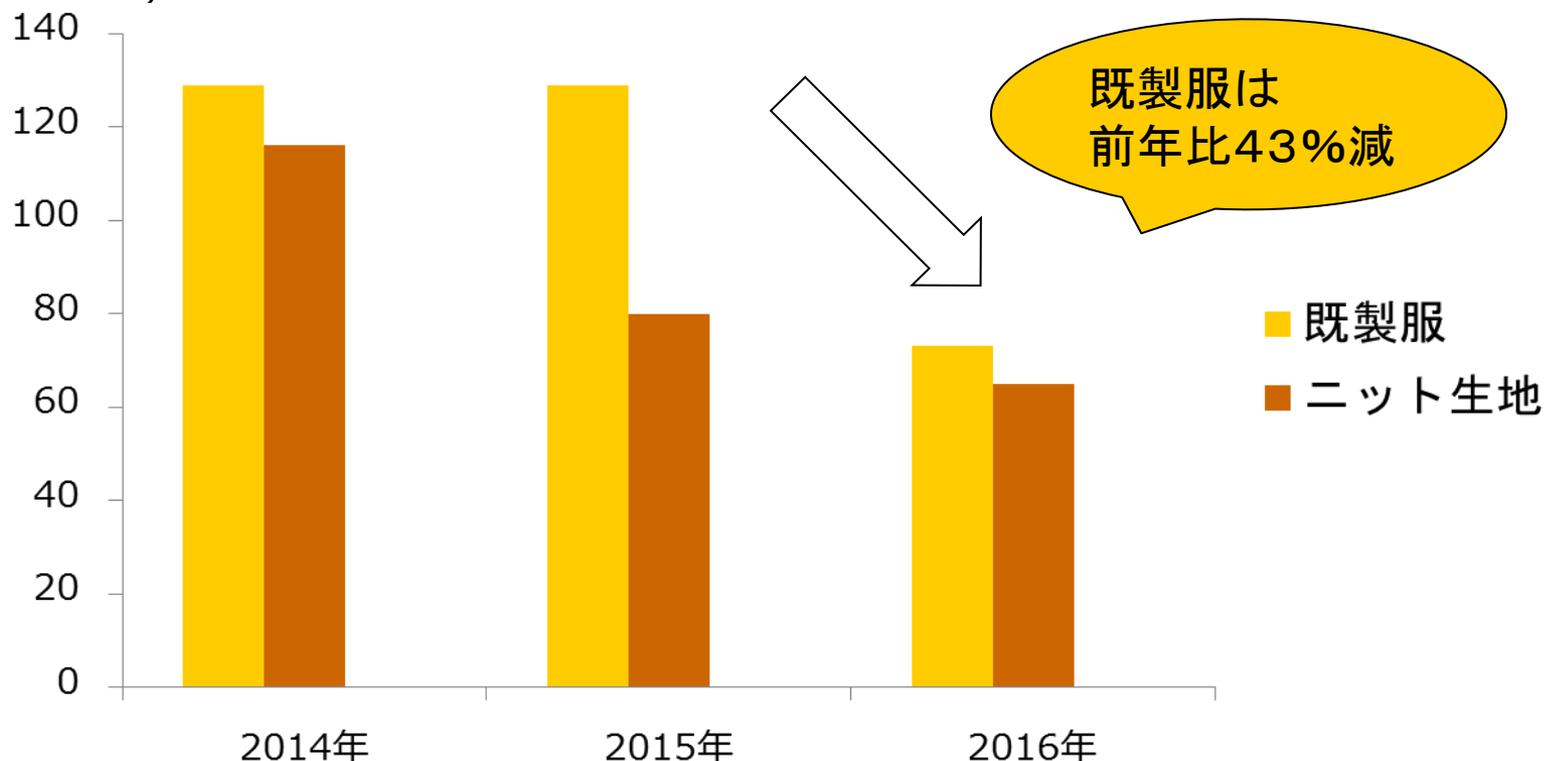


- 国内消費は更に悪化し、有力企業は輸出に活路を求めたが弾劾裁判成立以降の為替持ち直しにより成約は低調であった。
- '17も需給の改善は期待薄であり、現行の為替水準が続けば輸入増、国内生産減となる怖れがある。



ニット生地・既製服の輸入実績

(単位:千トン)

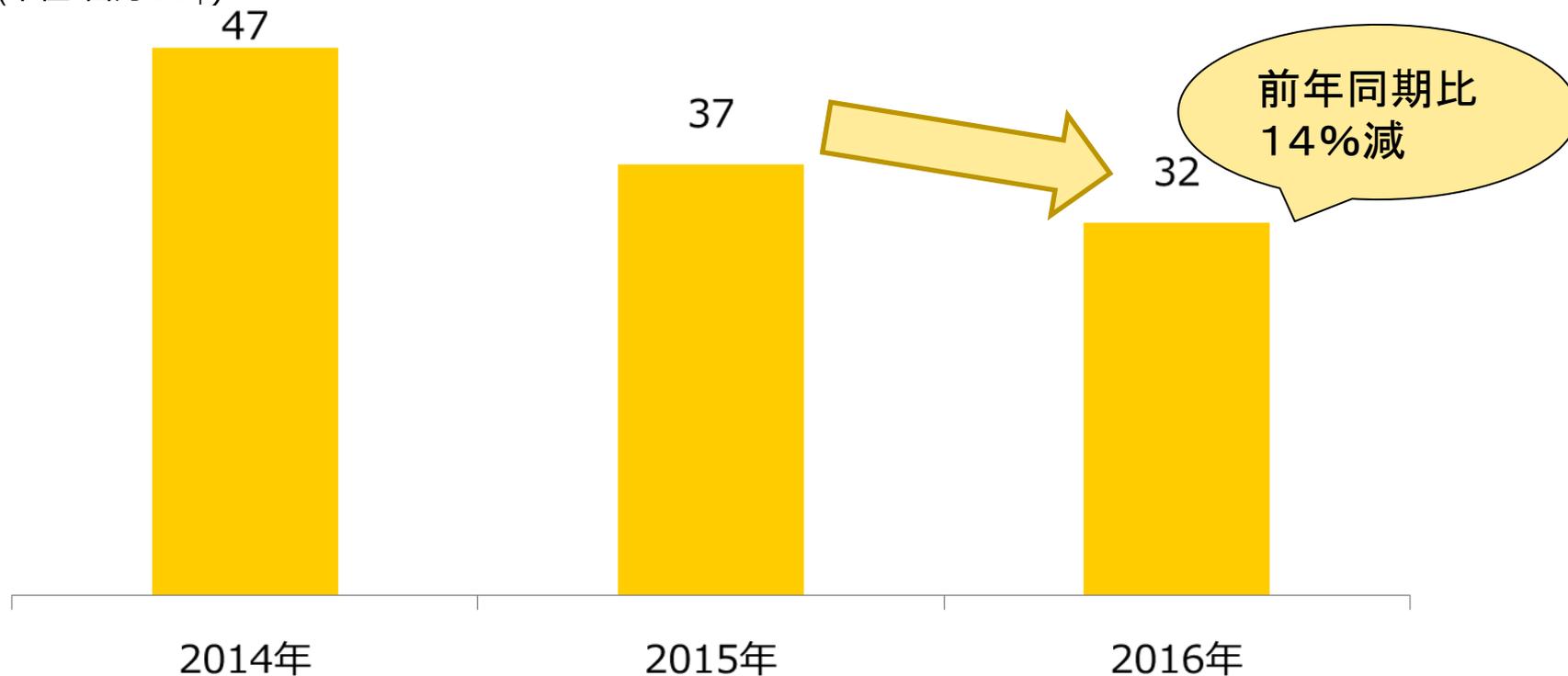


- 消費の低迷により小売業界の売上がダウンし、大統領罷免の後も先行きの不安から市場は回復しなかった。
- 対年同期と比べて、ニット生地の輸入は19%減、既製服は43%減となった。



ファスナーの輸入実績

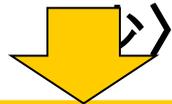
(単位:百万US\$)



- '15年と同様に、ブラジル全体の景気低迷により消費が冷え込んだことで、国内のアパレル生産が減少した。これによりファスナーの輸入も14%減少した。
- 依然として消費の低迷が続いていることから、本格的な国内生産の回復

2016年 総評

景気後退〉家計購買力低下〉衣料品支出の減



衣料製品の価格下落 = 糸・織布素材の価格下落



原料費高騰 コストインフレ



綿花の品質向上〉国際競争力UP〉輸出増加
高〉

〈NY綿花相場

- 原料高と製品安が年間を通じて継続し、繊維事業には厳しい1年となった。

目次

＼16年の回顧

- 綿花
- 綿糸
- 合繊
- 生地・既製服
- ファスナー
- 総評

＼17年の展望

- 世界の綿花需給
- 国内の綿花需給
- レアル高の影響
- 綿糸市況
- 国内競争の激化

副題

- 課題整理
- 取り組み

2017年の展望

世界の綿花 需給

- 季末在庫は減少すると予想。需給バランスからは堅調な相場が見込まれる。

国内の綿花 需給

- 原綿調達は、新綿が出る7月後半までは高品質品の供給不足が懸念される。

レアル高の 影響

- 綿糸および製品の輸入が増え、国内生産と販売に大きなマイナス要因となる。

綿糸市況

- 一部に底打ち感は見られるが、綿糸市況に好影響が出るのはもう少し先となる。

国内競争の 激化

- ブラジル紡績会社との価格競争はこれまで以上に激しさを増す。

目次

'16年の回顧

- 綿花
- 綿糸
- 合繊
- 生地・既製服
- ファスナー
- 総評

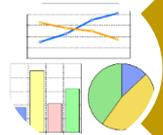
'17年の展望

- 世界の綿花需給
- 国内の綿花需給
- レアル高の影響
- 綿糸市況
- 国内競争の激化

副題

- 課題整理
- 取り組み

課題整理



汎用品の価格競争（輸入品増）激化による、市場シェアおよび販売量の減少。



ブラジル特有の阻害要因（複雑な税制、労働コスト、未整備なインフラ、諸規制、汚職）

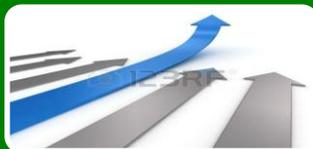


新しい市場創り、国内不況時にも強い販路をどうやって見いだせるか。



糸だけでは出せない付加価値を衣料品トータルで表現し、国内不況に強い業態へと変わる。

業界の取り組み



高機能製品・先端素材の市場開拓

- 今年度後半以降の景気回復を見据えた事業拡大



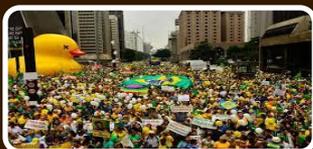
ブラジル企業としての実務経験蓄積

- 社内体制（リスク管理、人事、法務など）の構築



海外市場への販路拡大

- 有力企業との連携、営業活動の強化



国産品キャンペーン

- ブラジル綿花生産者協会が国内綿100%衣料をPR

Muito
Obrigado
ありがとうございました。

繊維部会

講評

在サンパウロ日本国総領事/
ブラジル日本商工会議所名誉顧問

中前 隆博

Avaliação do
Cônsul Geral do Japão em São Paulo/
Conselheiro de Honra da
Câmara de Com. e Ind. Japonesa do Brasil

Takahiro Nakamae

コメント

在ブラジル日本国大使館

小林 和昭 参事官

**Comentário do
Secretário da Embaixada do Japão**

Kazuaki Kobayashi

閉会の辞
小池 淳介 総務委員長

APRESENTADOR

**Presidente da Comissão
de Coordenação Geral**

Junsuke Koike